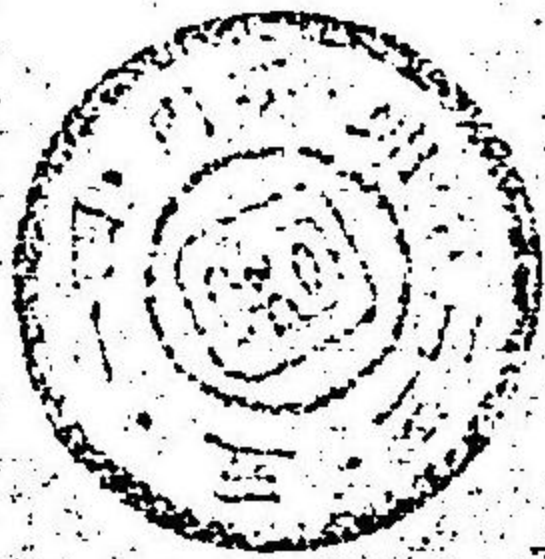


33-69

№3000/23

基督敎之基本

同志社神學校米國神學博士デビス著述
同 日本 寺澤精一譯



明治二十三年四月

米國聖敎書類會社

序

我が同志社神學教授米國神學博士ジュー、デー、デウイス
先生頃「基督教ノ基本」ト題スル一書ヲ著ハシ之ヲ邦語
ニ譯セシメ余ニ囑スルニ序ヲ以テス
顧フニ先生ノ甫メ京都ニ入ルヤ實ニ我が校創立ノ際ニ
在リ之ヲ内ニシテハ百事糾紛未ダ緒ニ就カズ之ヲ外ニ
シテハ我が輩ヲ窺ヒ我が校運ヲ遮斷セント欲スルモノ
アリ我が校ノ存亡其間髪ヲ容レズ此ノ時ニ於テ經營拮
据我が校基ヲシテ巍然卓立セシメ遂ニ今日アルヲ見ル
ニ到ラシメタルモノ先生ノ才能堪忍剛胆與カリテ力多
シト謂フベシ

先生ノ我が校ニ從事スル已ニ十有余年、諄々誨テ倦マズ
汲々勉メテ怠ラズ授業ノ餘今ヤ此ノ好著述ヲ爲セリ、蓋
シ此書ヤ廣ク宇宙ノ大原ヲ探リ之ヲ事實ニ質シ材料富
膽考據精深之ニ加ルニ近來先生米國ニ歸航シ該國文物
ノ淵藪トモ稱スベキオハイオ州オベリン邑ニ滯寓シ該
邑大學ノ圖書館ニ就キ旁引博証大ニ得ル所アリ彌以テ
先生平素ノ意見ヲ精確ナラシメ遂ニ此書ヲ成スニ到リ
シモノニシテ眞ニ神學新說ノ萃ヲ拔キ醇ヲ鐘メタルモノ
ト謂フモ誣言ニアラズ

余竊カニ先生ガ此書ヲ著ハスノ精神ヲ察スルニ我邦青
年ヲ愛スルノ哀情禁ズル能ハズ之ヲシテ宇宙ノ大原ヲ

探リ隨テ人間ノ本分ト國民ノ義務トヲ知ラシメ身ヲ以
テ眞理ニ委テ邦家ノ爲ニ其一分ヲ竭サシメント欲スル
モノ、如シ嗚呼前途洋々タル希望ヲ擔ヘル青年諸君ヨ
幸ニ之ヲ熟讀翫味シ天地ノ大本ニ遡リ布イテ人事ニ及
ボシ先ヅ己ヲ達シ而シテ后克ク人ヲ達シ普ク社會ヲシ
テ眞正ノ福利ヲ蒙ラシメバ余ハ確ク信ズ先生此書ヲ著
シタル勞、始メテ酬ユ可ク而シテ先生ノ志望、始メテ達ス
可ク又先生多年ノ苦學モ空シク徒爲ニ属セザルヲナ、
余先生ヲ識ル茲ニ年アリ、而シテ余亦タ先生ト志ヲ同フ
スルモノナリ、故ニ不肖ヲ顧ミズ本書ニ序スルニ際シ先
生ガ本書ヲ著述シタル所以ノ精神ヲ闡明シ併セテ先生

素志ノ存スル所ヲ開陳スル。此ノ如シ余ガ先生ノ素志
ヲ開陳スルハ乃チ亦タ余ガ素志ヲ開陳スル所以也

明治廿二年 月

京都同志社

新島 襄

基督教之基本目次

緒言

第壹編 自然神學

第一章 總論

第二章 天地万物ノ大原因タル上帝存在ノ第一証 四七

無神論ノ困難ナルヨリ之ヲ論ズ 四七

第一項 物質ノ起原ニ關スル無神論ノ困難 四七

第二項 宇宙ノ運動ニ關スル無神論ノ困難 五二

第三項 生命ニ關スル無神論ノ困難 六一

第四項 無神進化論ノ困難 八一

第三章 天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第二証 一〇七

上帝存在ノ説ヲ以テセバ前章ニ列舉シタ
ル諸般ノ困難ヲ解釋シ又如何ナル問題ニ

テモ解釋シ能ハザル者ナキニ因テ之ヲ証ス

第四章

天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第三証

一〇七

原因結果ノ定理ニヨリテ之ヲ証ス

一三四

天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第四証

一三四

宇宙間ニ企圖意匠ノ徴候アル事實ニ因テ

一四二

之ヲ証ス

一四二

第一 空氣中ノ意匠

一四三

第二 動植物界ノ意匠

一五一

第五章

天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第五証

一六三

萬有中ニ秩序、計畫、布置ノ徴候アル事實ニ

一六三

因テ之ヲ証ス

一六三

太陽界中ノ秩序、原素化合ノ比量

一六三

第六章

天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第六証

一八〇

人類一般上帝ノ存在ヲ信ズル事實ニ因テ

一八〇

之ヲ証ス

一八〇

第七証 プロトイノ論証

一九五

第八証 人間ノ直覺

一九八

第七章

上帝ノ性質ヲ論ズ

二〇〇

第一條 上帝ノ常住性

二〇一

(一) 上帝ハ無始ナリ

二〇一

(二) 上帝ハ不變ナリ

二〇四

(三) 上帝ハ獨一ナリ

二〇五

(四) 上帝ハ理想ノ太極ナリ

二〇六

第二條 上帝ノ創造性

二〇七

(一) 上帝ハ靈ナリ

二〇七

(二) 上帝ハ普遍ナリ 二〇八

(三) 上帝ハ全能ナリ 二一〇

(四) 上帝ハ全智ナリ 二一四

第三條 上帝ノ道德性 二一五

(一) 善徳無限ナリ 二一八

(二) 上帝純善ノ証 二一九

第貳編 基督教証據論

第一章 第一証——衆多ノ宗教中唯マ基督教ノミ上
帝ノ人類ニ賦與シタル宗教ナルガ如シ 二三一

第二章 第二証——歴史上ヨリ基督教ノ眞正ノ宗教
ナルコトヲ証ス 二五三

第三章 第三証——聖書ノ感化力ヨリ基督教ノ眞理

ナルコトヲ証ス 二六五

第四章 新約聖書ノ偽作ナラザルヲ証ス 三〇八

第五章 舊約聖書ノ偽作ナラザルヲ証ス 三五九

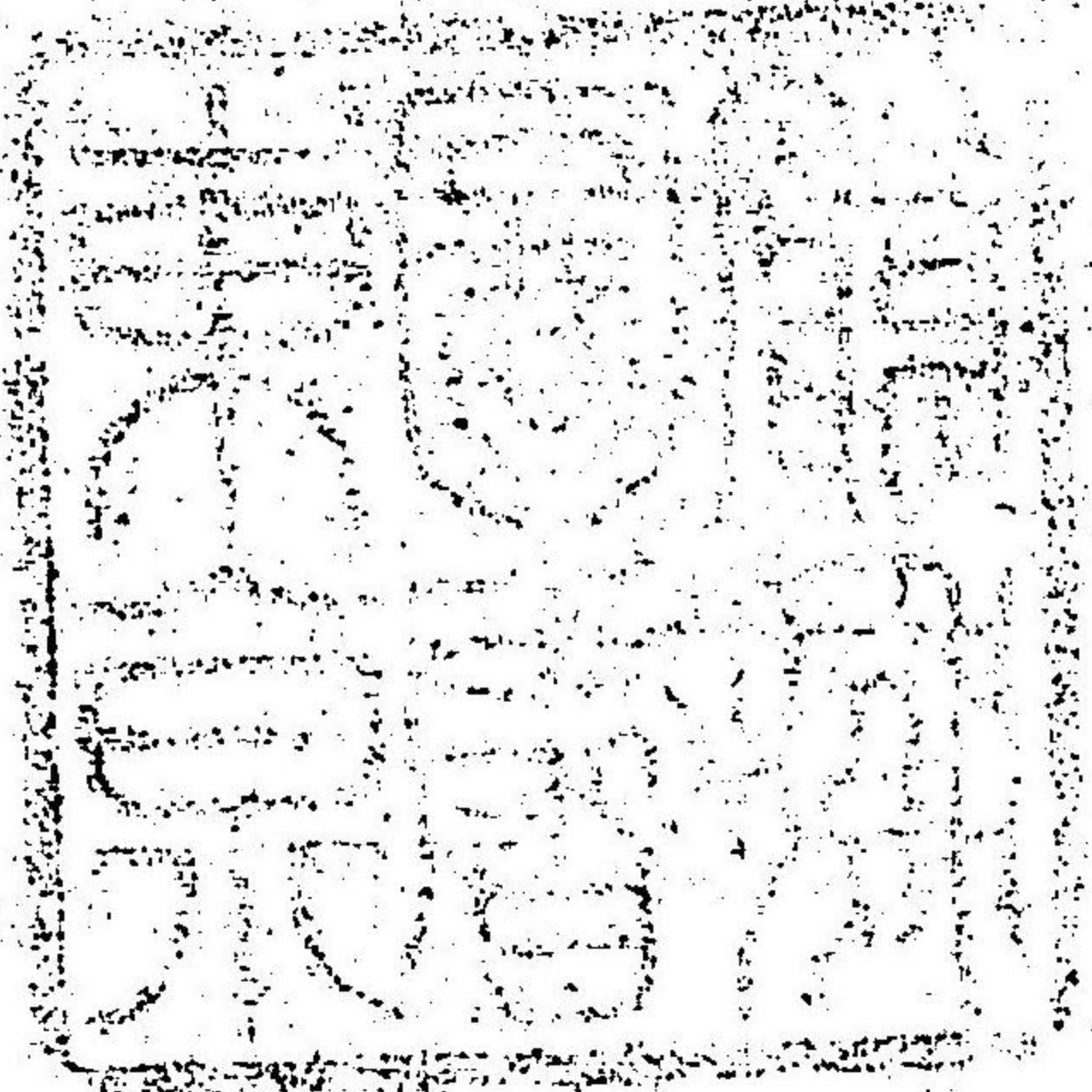
第六章 舊約聖書ノ偽作ナラザルヲ証ス(前章ノ續キ) 三二四

第七章 新約聖書ノ信ズルニ足ル所以ヲ論ズ 四六一

第八章 舊約聖書ノ信ズルニ足ル所以ヲ論ズ 五一〇

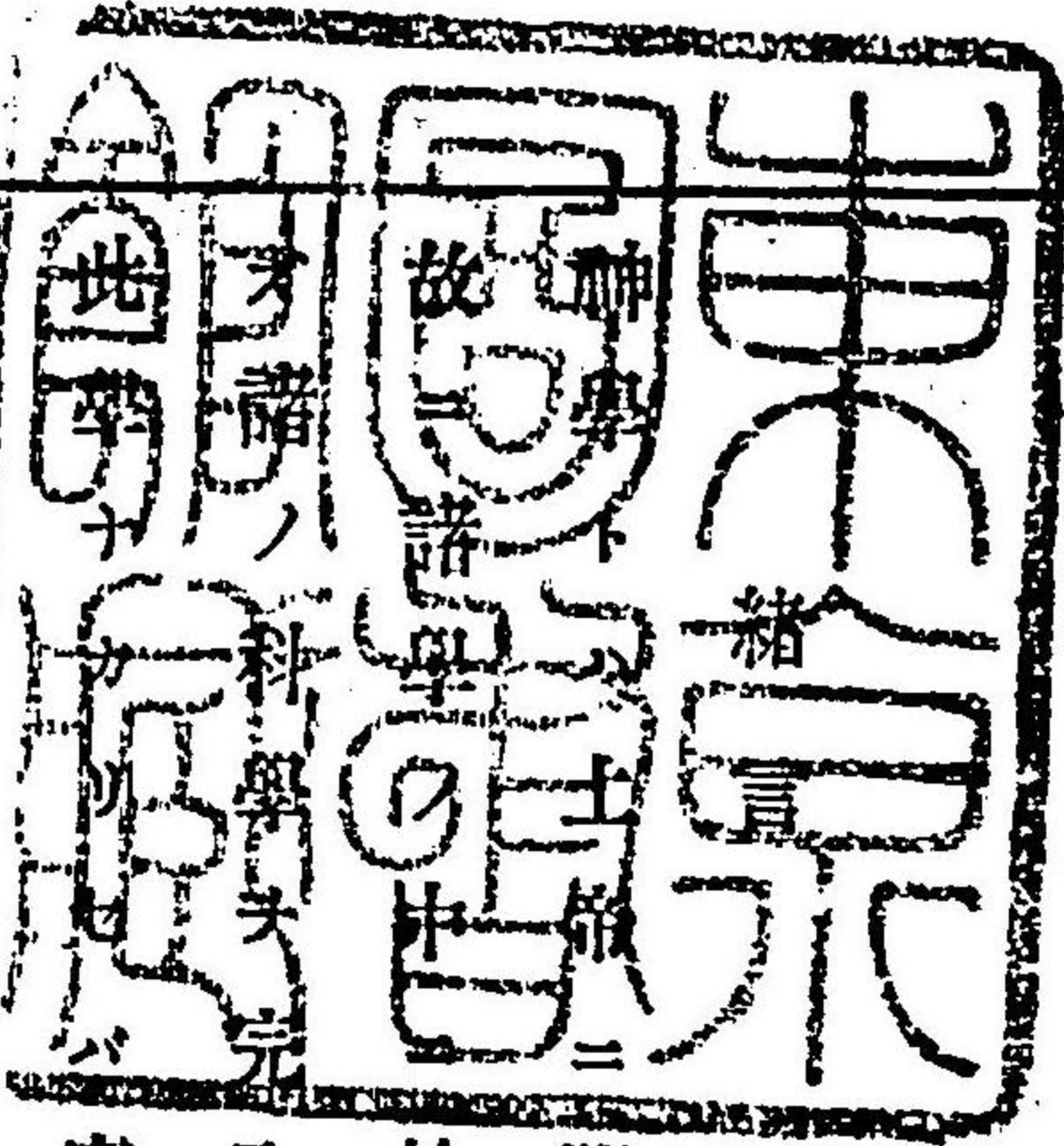
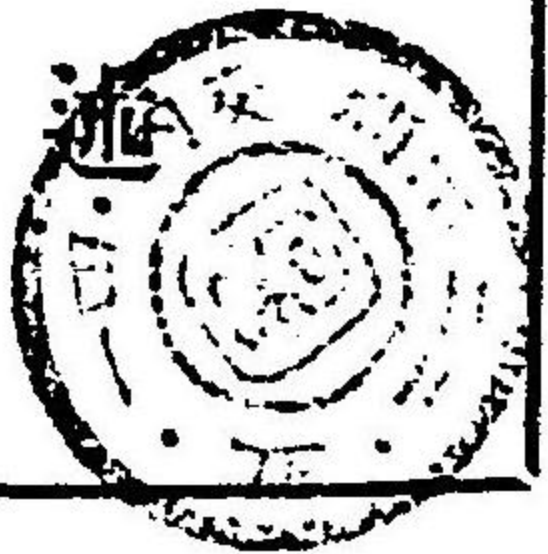
第九章 聖書ハ神明ノ啓導佑助ニ成リシモノニシ
テ即チ神權ヲ有スル所以ヲ論ズ 五五六

第十章 聖書諸卷ノ編成ヲ論ズ 六六六



基督教之基本

米國　デビス著
日本　寺澤精一譯



關スル諸般ノ事物ヲ講究スル學問ノ義ナリ
於テ最モ高ク且ツ貴キ地位ニ立ツノミナラ
全ナラシムルニ欠ク可ラザル基本ナリ若シ
宇宙ノ間事々物々皆十悉ク不可思議ナルヲ
免レズシテ吾人ノ疑惑ハ之ヲ解クニ由ナク人々終ニ安心ノ
地ヲ得ルヲ難カルベシ又其論ズル所ハ大概チ高尙ナル問題
ニ涉ルガ故ニ講究ノ方法ニシテ其宜シキヲ得バ必ズ能ク人
心ヲ潤大ニシ且ツ能ク其品性ヲ高貴ナラシムルヲ得ン

基督教之基本 緒言

然リ而シテ之ヲ學ブノ法須クカノ嬰兒ノ心ノ己チ空フシテ
知識ヲ求メ汲々トシテ飽カザルモノ、如クナラザル可ラズ
只管眞理ヲ知ラントノミ勉メザル可ラズ又能ク信仰ノ大本
タル事實ト人間ノ作爲セル學說トヲ辯シ確實ニシテ動ス可
ラザルモノト唯ダ然ル可ク思ハル、モノトノ間ヲ別タシ
テ要ス、今マ夫レ世間人々ノ皆ナ知ラント欲スル大疑問ノ存
スルアリ上帝果シテ存在スルカ上帝人ニ告語セシマアリヤ
果シテアラシニハ其告語セシ所ノモノハ何ゾ、人ニハ來世ア
リヤ、果シテ有ラシニハ來世ト現世トノ關係ハ如何、如何セバ
人ハ罪ト其果報トヨリ免レ得ベキヤトハ常ニ人心ヲ挑ンデ
止マザル所ノ問題ニシテ其他尙ホ幾多ノ疑問アリ宇宙果シ
テ初アリシヤ、又終アル可キカ、宇宙ハ時間ト空間トニ於テ限
リアリヤ否ヤ、宇宙万有ニハ果シテ大原因アリヤ、有リトセバ其

原因ハ何者ゾ、宇宙ノ物質ハ受造ノモノナルカ、若クハ永遠自
存ノ性アルモノカ、上帝ハ万有間ニ常住スルカ、將タ創造後其
自然ニ任カスルコト恰モカノ時計師ガ一タビ時計ヲ捲キタル
後其自ヲ解クルニ委シテ傍觀スルガ如キカ、物力ハ何ニ因リ
テ起リシヤ、現ニ宇宙間ニ於テ諸ノ物力ヲ生ズルモノハ何ゾ
ヤ、造化ノ工ハ今モ尙ホ其進路ニ在ルカ、万有ハ空間中ニ延長
スルモノカ、宇宙ノ大目的ハ如何、人類ノ大目的ハ如何、心靈ト
物質ノ關係ハ如何、心靈ハ不朽ノモノナルカ等吾人人間ニ向
フテ答辨ヲ催シテ止マザル者殆ンド數フルニ暇アラザルナ
リ抑モ神學ハ敢テ悉ク此等ノ疑問ニ答ヘント宣言スルモノ
ニ非ザレド此等疑問ノ最モ重要ニシテ人間ノ最モ先キニ知
ラント要スル所ノモノヲ解釋スルヲ以テ目的ト爲スナリ
今マ之レヲ論ズルニ方リ講究ノ便チ計リ七部ニ大別スルコト

左ノ如シ

- 一ニ曰ク上帝ノ存在ヲ論ズルモノ乃チ自然神學
 - 二ニ曰ク天啓ノ事由ヲ論ズルモノ乃チ基督教証據論
 - 三ニ曰ク宇宙ヲ統治スル神政ノ理ヲ論ズルモノ乃チ有神天地論
 - 四ニ曰ク罪惡ノ由來ヲ論ズルモノ乃チ原罪論
 - 五ニ曰ク救世ノ道ヲ論ズルモノ乃チ救拯學
 - 六ニ曰ク人間ノ來世ヲ論ズルモノ乃チ終末學
 - 七ニ曰ク教會ノ組織ヲ論ズルモノ乃チ教會學
- 神學ニ於テ講論スル所ノ源トハ左ノ三者ニ在リトス
- 第一、万有、乃チ天地万物及ヒ人ノ靈魂
 - 第二、歴史、殊ニ基督教會ノ歴史
 - 第三、聖書、コハ三者中ノ最モ重要ナルモノナリマルテンセン

氏嘗テ氏ガ著書「トグマチツクス」中ニ云ヘラシク定説的ノ想考ハ聖書ト牴牾スルコトナカル可キハ勿論又々其當否チ聖書ニヨリテ檢定ス可キモノニシテ且ツ當サニ能ク聖書ノ教理ニ從フテ之チ長養シ常ニ少壯發育ノ力チ有セシメザル可ラズ聖書ハ固ト神靈ノ感格ニヨリテ述ベラレ又々其作用チ表彰スルノ書ナルガ故ニ其中ニハ絶エズ發育スルチ得ベキ無限ノ萌芽チ包藏シテマトヒ人爲ノ定説ハ既ニ老癥陳腐ニ属スルニ至ルモ聖書ハ依然トシテ少壯發育ノ力チ保存ス是レ蓋シ聖書ハ人ニ示スニ組織セル定説ヲ以テセズシテ却テ定説チ組織シ得ベキ材料チ供スル圓滿ナル真理チ以テスレバナリト組織神學ニ於テ聖書ノ用ハ如何ナルモノゾト問フモノアラバ吾人ハ氏ガ此言チ以テ答フルニ猶豫セザルベシフワシ、ウーステルツエー氏曰ク眞正ナル定説家ガ天啓ノ聖書ニ

於ケルハ決シテ奴隸ノ主人ニ於ケルガ如キニ非ズ又々裁判官カ訟者囚徒ニ於ケルガ如キニモ非ズ恰モ自ラ知リテ甘心依頼スル者ノ關係ナリトス乃チ斯ノ如クナルガ故ニ每時聖靈ノ誘助ヲ得テ愈々神言ノ深意ニ達シ益々其奧義ヲ悟ルニ至ルモノナリト吾人ハ實ニ聖書ヲ讀ム者ノ爲メニ殊ニ氏ガ此言ヲ勸告セザルヲ得ザルナリ

第壹篇 自然神學

ナソヤ彼ヲ天ノ使タチヨリ少シク劣ラシム (希伯來書二〇七)

第一章 總論

推論ト知識トノ根本タル本元眞理ヲ論ズ

諸ノ知識ハ知ル所ノ自己ト知ラル、所ノ事物ト其兩者ノ關係ト含蓄スルモノナルヲ以テ自己ト外界ノ事物ト及ビ其

兩者ノ關係ヲ直覺スルハ万般知識ノ基礎ナリトス

第一條 本元眞理ノ性質

一項、本元眞理ハ自明ノ眞理ナリ即チ論証ヲ要セズシテ自然明瞭ナルモノトスマトヘバ自己ノ存在ヲ述ブルニ「吾レ思フ故ニ吾レ在リ」ト云フノ外他ニ論証ス可キモノアルコトナシ

二項、本元眞理ハ必然ノ眞理ナリ即チ其反對ヲ思考シ得ザルノ眞理ナリタトヘバ空間ニハ間斷アル可ラズ、二ツノ反對ナル命題ハ同時ニ二ツナガラ眞正ナル能ハザルノ類是ナリ

三項、本元眞理ハ一般普通ノ眞理ナリ即チ人ノ黑白ヲ論ゼズ世ノ古今ヲ問ハズ如何ナル人種ニモ如何ナル時代ニモ普ク通シテ合ハザルコトナキモノヲ云フ

四項、本元眞理ハ人心ニ固着シテ離ス可ヲザルノ眞理ナリ
乃チ學者輩ガ百方之ヲ難ズルニモ拘ヲズ衆人ノ依然ト
シテ之ヲ信シテ止マザル所ノ眞理ナリ

五項、本元眞理ハ互ニ相符合シ又諸般ノ知識ト符合シテ矛
盾セザルノ眞理ナリ

第二條 直覺ノ彙類

一項、表現的直覺、即チ凡ソ意識ニ表ハレタルモノヲ論証ヲ
待タズシテ直チニ認メ得ル自明ノ知識ニシテ第一、覺性
知覺パルセフン乃チ外界ヲ知覺スルヲ第二、自己意識即チ内覺ニシ
テ心自ヲ其作用ヲ知覺スルヲトノ二ツヲ包有ス
夫レ知覺セラル、所ノ事物ト之ヲ知覺スル自己ト及ビ
其知識トノ三者ハ全ク同一作用中ニ在リ故ニ人ハ同時
ニ自己ノ外物ト異ナル一箇ノ實在者ニシテ前後終始同

一ナルヲ知リ又道理的自由ノモノナルヲ知ルナリ

二項、道理の直覺、即チ論証ヲ待タズシテ一般普通ノ眞理ヲ
直ニ認メタル自明ノ知識ナリ

三項、前時直覺ノ記憶ヨリ再現セル知識

四項、道理の直覺ト再現的知識トヨリ得來ル反射的知識

第三條 諸直覺ニヨリテ知ラル、ヲ得ベキ實體

一項、表現的直覺ニヨリテ知ルヲ得ルモノ第一、具体ノモ
ノ。自己ト自己ナラザルモノ。外界第二。實在ノ法、即チ(甲)勢
力。行動的勢力。原因。(乙)單一ト多數。各自ト同一。各個ト互相
數。(丙)空間ノ延長。(丁)時間ノ繼續。(戊)限度ト分量。(己)差違ト
關係。原因ト結果。依從

二項、道理の直覺ニヨリテ知ルヲ得ルモノ第一。抽象的眞
理乃チ(甲)眞ト其反對ナル偽(乙)正ト其反對ナル不正(丙)完

全。善。眞理。法。ト其反對ナル害惡及ビ不完全。第二。絶對。無極
 ト其反對ナル有限。有極
 三項、再現ニヨリテ知ルヲ得ルモノ乃チ前時ニ得タル総
 直覺ナリ
 四項、再現乃チ記憶ト道理的直覺トニヨリテ知ルヲ得ル
 モノ乃チ人間知識ノ進マシテ限リ底極ナキモノナリ
 前述直覺ノ概畧ハ博士ハリス氏ノフキロフフキカルベイスチフシス有神說本元論ヨリ拔萃ス
 ルモノニ係ル顧フニ是等ノ直覺ト是等直覺ヨリ得來ル知識
 トハ共ニ確實ニシテ信ズルニ足ルヲ以テ世人ハ皆之ニ會フ
 ヤ直ニ其眞理ナルヲ承認スルノミナラズ亦タ多クハ分明
 ニ其ノ直覺ナルヲ會得セザル以前ニ在リテモ既ニ其眞理
 ナルヲ承認シテ云爲セリ然ルニ又直覺知識ト諸般ノ知識
 トチ難ズル數多ノ異論アリ

第一條

或ル論者ハ曰ク五官モ記憶モ推論モ時々誤謬アルヲ免カ
 レズ故ニ知識ハ到底立チ難キモノナリト答テ云ク是ノ説
 タルヤ人間普通ノ意識ニ反セリ人ハ固ト有限者ナルガ故
 ニ其ノ及バザル所アルハ勿論ノヲナリト雖モ事物ヲ知り
 得ルノ力アルニ至リテハ決シテ誣ユ可キニ非ズ人間ノ知
 識ニハ疑惑ス可キモノ或ハ唯然ル可ク思ハル、モノ甚ダ
 許多ナレトモ亦タ確實ニシテ動ス可ラザル知識中心ノアル
 アリ世々代々相受ケ相傳ヘテ變改アルヲナシ乃チ理學ノ
 眞理基督教ノ眞理ノ如キ是レナリ且ツ吾人が感情、撰擇、執
 意ノ不可思議論ヲ容サトルヲ如何センヤ夫レ智、情、意ノ作
 用タル分明ニ區別アリト雖モ其体タル一ニシテ決シテ分
 割ス可キモノニ非ルハ吾人ノ認メザルヲ得ザル所ナリ然

ルニ今此感情ハ皆ナ客觀的ノ實體ヲ有セリ例セバ吾人ガ
 心ニ畏懼スルハ乃チ外界ニ畏懼ス可キモノアレバナリ吾
 人ガ心ニ歡樂スルハ乃チ外界ニ歡樂ス可キモノアレバナ
 リ憐憫スルハ乃憐憫ス可キモノアルニ由リ忿怒スルハ乃
 チ忿怒スベキモノアルニ由リ斯ノ如ク吾人百般ノ行爲
 多クハ既ニ知ル所ノ客觀的世界ニ基ケル信仰ノ作用ニ非
 ザルハナシ言テ換ヘテ不可思議論ヲ評セバ既ニ知識ノ立
 チ得ベキコトヲ許セルモノト謂フ可シ實ニカノマツユツシ
 氏ガ巧ニ點出シタル如ク不可思議論者ニシテ吾人人間ハ
 何物ヲモ知ルコト能ハズト言ハゞ是レ眞カ偽カ二者ノ中必
 ズ其一ニ居ラン若シ其說ニシテ眞ナラバ彼等論者ニ於テ
 決シテ吾人人間ガ何物ヲモ知ル能ハザルコトヲ知リ得ル筈
 ナシ是レ恰モ其否トスル所ヲ然リトスル自己矛盾ノ論者

第二條

ナレバ吾人ハ之レト辨ズルノ無用ナルヲ信ズ又其說ニシ
 テ偽ナランカ吾人ハ之レト論辨スルニ及バザルコト勿論ナ
 ルベシ

ヘルベルト、スペンセル氏ハ曰ク吾人ハ絶對者ヲ知ル能ハ
 ズト、サレド氏自ラモ既ニ其大分ヲ知リ得タルモノ、如シ
 氏ハ之ヲ原因若シクハ勢力ト名ケ宇宙ノ万象ハ皆其ノ發
 表スル所ト爲セリ又或ル勢力ノ吾人ヲ制スルモノナリト
 云ヒ或ハ無限ト云ヒ全能ト呼ビ不變ト稱セリ素ユリ造物
 者ハ無限ナレバ有限ナル吾人ノ之ヲ識リ盡ス能ハザルハ
 已チ得ザル所ナレバ其幾分ヲ知リ得ルハ決シテ能ハザル
 コトニハ非ズスペンセル氏スラ吾人ノ其大分ヲ知ルコトヲ許
 セルニ非ズヤサラバ絶對者タル上帝ハ一大有心者タルコト

理ニ於テ戻ル所ナキハ勿論又其有心者ガ己ノ何者タルト其品性ノ幾分トヲ吾人人間ニ示スノ力アリ又實ニ之ヲ示サントハ決テ出來得ザル事ニ非ズ若シ之ヲ爲ス力ナシトセバ絶對無限トハ云フ可ラザルナリ彼ノ嬰兒ノ知識ナキ其掬育撫養ヲ受クル所ノ慈母ニ於ケル識ル所モ固ヨリ甚ダ少シト雖モ尙ホ能ク其有心者ニシテ常ニ己ヲ愛スルヲ知ル吾人人間ガ在天ノ父ヲ知ルモ殆ンド是ノ類ナリ何ゾ知ル能ハズトセンヤ

第三條

感覺論者ハ人間ノ知り得ベキモノハ唯ダ外界ノ物体ノミニ止リ其他ハ一切知ルヲ能ハズト云フサレド吾人ハ之ニ答フルニ多言ヲ用ホズシテ單ニ外界ノ物体ヲ識ルハ内界ノ心靈ニヨルニ非ラザレバ能ハズト云フヲ以テ足レリト

セン

第四條

或ル論者ハ人間ニ事物ヲ知り得ル力アル靈魂ノ存スルヲ否メリ吾人ハ今天啓ノ事實ヲ以テスルヨリ外充分ニ靈魂ノ存在ヲ數學的ニ論証シ得ベシト云ハザレモ靈魂存在ノ事タル證據多般分明ニシテ之ヲ疑ハンヨリ寧ロ之ヲ信ズルノ大ニ學理ニ合フモノナル所以ヲ述ベントス

其一 靈魂ト物質トハ其本体ト作用トニ於テ大ニ異ナル所アリ是レ又假ニ靈魂存在ノ一證トナスニ足レリ
一ニ曰ク、凡ソ物質ハ五官ヲ以テ認メ得ルモノニシテ或ハ長ク或ハ短ク或ハ輕ク或ハ重ク或ハ厚ク或ハ薄ク皆長厚廣ノ三相ヲ有セザルナシ靈魂ハ之レト異リ目以テ視ル可ラズ耳以テ聽ク可ラズ全ク五官ノ達セザル所ニ在リテ物

質ノ如ク内外表裏ノ差別アルヲナシ
二ニ曰ク、靈魂ハ能ク自他ノ區別ヲ爲スルトヘバ或ル物体
ヲ觀察スルニ際シ觀察者タル靈魂ハ能ク自己ト其ノ物体
トノ同シカラザルヲ認メ又自己ト五官トノ同シカラザル
ヲチモ認ム吾人ハ時ニ或ハ歡喜ヲ覺ヘ時ニ或ハ悲哀ヲ感
ズ然レモ歡喜ト悲哀トハ心ニ非ズシテ心ノ作用タルヲ
認ム或ル論者ハ説キ爲シテ曰ク心上ノ諸現象ハ頭腦分子
ノ運動ヨリ起ルモノナリトサレド是レ全ク其證據ナキノ
ミナラズ却テ之レニ反スル有力ノ證據アリ到底腦分子ノ
運動ヨリ生ズルト云フノミニテハ吾人人間ガ情欸意思ヲ
説明スルヲ能ハズ電信ハ化學的物料ヲ要スレモ其報ズル
所ノモノハ化學的物料ヨリ來ルニ非ザルガ如ク頭腦モ心
意ヲ發表スル機關タルノミニシテ決シテ心意ニハアラザ

ルナリ凡ソ物質ノ勢力ニ關シテ吾人ガ識ルヲ得ヘキモノ
ハ獨リ其ノ顯ハス所ノ運動ノミニ在リト雖モ思想、情欸撰
擇、意思ノ如キハ勿論運動トハ異ナレリ
吾人ノ知ル所ヲ以テスレバ体中食物ノ勢力ハ熱ヲ發作シ
筋肉ヲ運動スルガ爲ニ悉ク消耗スルヲ以テ心上ノ現象ヲ
腦分子ノ運動ニ歸スルヲ得ベクモ思ハレザルナリ而シテ
又他ノ困難アルヲ免レズ抑モ思想ヲ以テ腦中ニ印記セラ
レ而シテ再ビ讀マル、印象ナリトセバ必ク之ヲ印記ス
ルモノト再ビ之ヲ讀ムモノト二者アラザル可ラズ且ツ
腦ノ物質ハ日夜變化シテ常ナキモノナルニ其印象ノミ依
然トシテ變化セザルハ何ノ故ナルカ腦ノ細少而上ニ人生
八十年間千万無量ノ思想ヲ印記シ置カンコトハ豈ニ奇恠ノ
至リニアラズヤ若シ眞ニ然リトセバ腦髓コソ靈妙ナル勝

記紙ニシテ不可思議ナルヲ靈魂其ノモノニ劣ラザルベシ
 而シテ又古今人間ガ各異無數ノ資性ト氣質トハ皆ナ元始
 ノ萌芽中ニ存セシトセザルヲ得ズ實ニ不審ノ極ナリト云
 フベシ然レモ靈魂存在ノ說ヲ以テセバ是等百般ノ困難ヲ
 解釋スルニ餘リアルガ故ニ吾人ハ靈魂存在ノ說ノ大ニ學理
 ニ合フモノナルヲ信ズルナリ

三ニ曰ク、靈魂ニハ身体ノ作用ヲ拒ンデ之ヲ止ムルノ力アリ
 リタトヘバ頻ニ睡眠ヲ催シテ禁ズル能ハズ眼瞼ハ將ニ合
 シテ閉ントスルノ際内部心靈ノ力能ク之ヲ開イテ濶然タ
 ラシム又タ身体衰弱シ生氣既ニ盡キ將ニ神ヲ失ハントス
 ルノ時ニ方リテ心靈ノ力能ク之ヲ止メテ蘇復セシム米國
 故ノ大統領ガルフイールド氏ノ如キカノ重傷ヲ受ケタル
 時學理ノ報ズル所ト他ノ比例トヲ以テセバ必然四五日間

ニシテ死スベカリシニモ拘ラズ内ニ存スル不撓ノ精神ニ
 ヌリテ八十日間尙ホ能ク生存セリ又他ノ一例ヲ舉ゲンニ
 嘗テ死刑ノ宣告ヲ受ケタル一囚人アリ之ヲ試驗セン
 ガ爲メ先ヅ始メニ出血セシメテ殺ス可キ旨ヲ其ノ者ニ告
 ゲ置キ時ノ至ルニ及ビテ其腕ヲ裸ニシ窓ノ小穴ヨリ出サ
 シメ自ラ其腕ヲ見ルヲ能ハザラシメ然ル後チ其腕ノ或部
 チ一搔シ温湯ヲ其点ヨリ滴ラシ下邊ノ盤中ニ流下セシメ
 ソレヨリ數分間ノ後傍ヲニ在ル人々互ニ語合フテ此者ハ
 出血ノ爲メ既ニ大ニ衰弱シタレバ最早生命モ數分ノ内ニ
 終ルナラント云ヒケレバ囚人チ聞キ未ダ一滴ノ血ヲダ
 モ失ハザルニ唯ダ心ノ身体ニ及ボス勢力ニヨリテ僅ニ十
 五分間ヲ以テ全ク死亡ニ至リシト云フ故ニ我國(米國)ノ名
 醫ハ大概チ心ノ身体ニ及ボス此ノ勢力アルヲ認メ巧ニ

之ヲ利用シテ大ニ治療ノ効ヲ助ク現ニ今日ニアリテハ自
 ラ形而上醫ト稱シ絶テ藥石ヲ用ユルコトナク唯ダ單ニ心ノ
 此勢力ニ由リテ恠訝ス可キノ功ヲ奏スル一派ノ醫流サヘ
 起ルニ至レリ其ノ主意ノ如何ヲ知ント欲セバ千八百八十
 六年六月中「ドクトル」シエー「エム」パツクレート氏ガ第十九世紀
 雜誌ニ投シタル一篇ヲ見ユ氏ハ其中ニ心ノ勢力ニ由リテ
 巧ニ疾ヲ拔キ去リシコト及ビ「ブレダ」城内ノ事件ヲ登録セリ
 一千六百二十五年「ブレダ」ノ籠城中壞血病非常ニ流行シ之
 レガ爲メニオレンゾ侯モ已チ得ズ降ヲ約セントスルマテ
 ニ至リシ際一策ヲ案出シ二人ノ病者ヲモ療スルニ足ラザ
 ル三小瓶ノ水藥ヲ取リテ各醫師ニ配布シ從フテ此藥ノ三
 四滴チ一「ゲレイン」ノ水ニ和シテ用ユレバ能ク疾病ヲ醫ス
 ル事ヲ得ベシト宣言セシメケルニ果シテ大ニ功ヲ奏セリ

ト云フ當時醫師ノ一人タリシ「ドクトル」フレデリック、ヴラン
 デルマイノ言ヲ聞クニ此策ノ効タル實ニ非常ニシテ許多
 ノ病者ハ直ニ全愈ヲ遂ゲ前一ケ月間ハ四肢ヲ動スコトスラ
 能ハザリシ者モ忽チ強健ノ身トナリ平生ノ如ク市街ヲ歩
 行シ得ルニ至レリト又タ同氏ノ言フ所ニ依レバ此策ヲ行
 フ前ニ在リテハ人民皆チ絶望ノ地ニ陥リシガ爲メニ流行
 病ハ益々其猖獗ヲ逞ウシ遂ニ水腫病痢病其他各種ノ疾病
 チ誘發シ因リテ死亡スルモノ實ニ少々ニハ非ザリシナリ
 ト「ドクトル」パツクレート氏ハベルキン氏治療器ノ用法ト其
 効果ノ著シキトヲ論シ且ツ金屬製ノ如クニ模造シタル木
 製ノ器ヲ以テスルモ等シク成功アルコトヲ述ベ之ニ由リテ
 踝、膝、髻、手首ニ生シ大ニ其關節ヲ膨脹シテ久シク病者ヲ苦
 シメタル難治ノ「リュエー」マチス」ヲ療シタル例ヲ舉ゲ又タ三

四日間引キ續キ到底癒ニ可キノ目的ナシトマテ云ハレタ
 ル垂頤病ヲ僅カ五十分間ニ醫了シタル例ヲモ舉ゲタリ同
 氏ハ亦タ其實驗ヨリシテ一圓銀貨若シクハ其他何物ニテ
 モ病者ノ信ヲ置ク所ノモノナラバ皆ナ之ヲ用キテ著シク
 成功アルヲ示シ依テ氏ガ自ラ一貴婦人ニ施シタル例ヲ
 引キテ曰ク嘗テ異邦ノ一婦人ニシテ手腫ヲ病ニ每指皆ナ
 小兒ノ手首ノ如クニ膨脹シテ拳ヲ開ク能ハザルヲ二旬ニ
 及ベルモノアリ氏乃チ編物ニ用ユル針二本ヲ取寄セ其針
 ノ効力アルヲ信セシメンガ爲メ暫時談話セル後チ指ノ
 端ヨリ二寸ばかり距タリタル拳ノ上部ニ其針ヲ向ケ婦人
 ニ御身ハ今マ御身ノ指ノヲ思ヒ給フナ又少シモ指ヲ
 動カサントシ給フナ唯ダ此ノ針ノ先チノニ視給ヘト云ヒ
 ケレバ恠ム可シ其時マテ堅ク膨脹セシ指ハ忽チ軟クギ些

少ノ苦痛ヲモ覺ユルヲナクシテ伸ブルニ至レリ是レ實ニ
 婦人ト其息嬢ノ驚歎置ク能ハザリシ所ナリシト云フ世間
 適々藥石ノ力ナリト信セラレタル治療ノ大半ハ概シテ心
 ノ身体ニ及ボス勢力ニ依ルモノニシテ又タ藥石ノ効力ハ
 心ノ此勢力ニヨリテ大ニ増加スルヲ疑ヒモナキ所ナル
 ガ信仰治療トモ名ク可キ前上ノ治療ノ如キモ心ノ此勢力
 ニ基ケルモノナルヲ決シテ疑フ可キニ非ズ日本ニ於テモ
 其他諸國ニ於テモ斯ル信仰治療ノ類ハ往々ニシテ見聞ス
 ル所ナリ乃チ病者身ヲ神社佛閣ニ巡禮シ若シクハ其友人
 代テ之ヲ爲シ依テ病者ノ癒ユルヲ如キ則チ是レナリ
 四ニ曰ク、靈魂ノ作用ハ大般内部ヨリ起ル自動的ノモノナ
 レル物質ハ之ト異ナリ他ヨリ動カル、ニ非ズンバ永久靜
 止シテ變動スルヲナキナリ諸動物ノ如キモ亦タ物質ト同

シクシテ唯マ嗜慾ヲ満足ヒシム可キ外物ノ爲メニノミ動
 カル、ナレニ獨リ人間ニ至テハ其至貴至高ナル感動ノ起
 ル所決シテ有形的ノ存在ヲ有スルモノ、爲メコハ非ザル
 ナリ
 五ニ曰ク、靈魂作用ノ至高ナルモノハ物力若クハ物質ヨリ
 來ラズカノ高尙ナル哲學形而上學ノ區域タル遙ニ物質界
 ノ上ニ在テ存シ而シテ靈魂上至純至高ナル快樂ハ皆ナ無
 形的ノ情狀ニヨリテ發スル其作用ヨリ來ルモノナリ又々
 古昔數百萬ノ基督信徒ガ道ノ爲メニアラユル苦ヲ嘗メ終
 ニ死ニ至テ願ル所ナク却テ之ヲ以テ喜ト爲シ炎々タル火
 中ニ在ルモ尙ホ詩歌ヲ唱ヘ全ク肉身ノ痛苦ヲ忘レタルガ
 如キハ唯物說ノ決シテ説明シ能ハザル所ナリトス
 六ニ曰ク、夢ト睡遊トノ現象ハ靈魂存在ノ說ヲ以テスルニ

非ザレバ説明シ能ハザルモノアリ例セバ博士ヘヴン氏ガ
 其心理學中ニ舉ゲタル畫工ノ事ノ類是ナリ毎夜睡中臥床
 ヨリ起キ燈火モナキ暗黒裏ニ在テ睡前未ダ遂ゲザリシ油
 繪ニ加工シ翌朝寤メテ後ナ更ニ前夜ノ舉動ヲ覺ヘズ之ヲ
 見テ驚キ己ヨリ技術ノ勝レタルモノ何時カ來テ之レニ加
 筆セシナラント思ヘリ而シテ其睡遊ノ時ニ當リ友人板ヲ
 以テ其眼ト畫布トノ間ヲ隔テタルニ畫工ハ少シモ之ヲ覺
 ユルナク線ヲ引キ点ヲ打ツコト一切以前ニ異ナラザリ
 シト云フ物質ト異ニシテ且ツ物質ノ上ニ超絶スル靈魂ア
 ルニ非レバ斯ル現象ヲ如何シテ説明シ得ベキヤ而シテ或
 ル人ガ遠地ニ住スル友人ノ死シタルヲ夢ミ又々其大ナル
 危難ニ遭遇セシヲ夢ミタルニ果シテ友人ノ死シタルモ
 其危難ニ遇ヒタルモ事實ニシテ其夢シ所ト少シモ異ナラ

ザリシガ如キハ人間ニ無形的心靈ノ存在スル所以ヲ示スモノナリトス

其二 靈魂ハ絶エテ身体ト共ニ死亡スルノ証跡アルコトナシ勿論身体ハ死亡スルニヨリテ解体離散シ身体タルノ存在ヲ失フト雖モ靈魂ニシテ物質的ノモノナルヲ可諾スルニ非ザルヨリハ未ダ之ヲ以テ靈魂ノ之レト同時ニ消滅スルノ証ト爲ス可カラズ而シテ其物質的ノモノナルヤ否ヤハ未決ノ論点ニシテ靈魂存在ノ説ヲ持スル吾人ニ在ツテハ固ヨリ其ノ物質的ニ非ザルヲ主張スルモノナリ靈魂作用ノ多クニ於テ身体ハ恰モ其機關タルガ如クナレバ身体ノ衰頹ハ概シテ靈魂作用ノ衰頹ヲ來ヌスガ如シトハ云ヘ亦ヌ必ズシモ然ラザル特例ナキニ非ズ譬ヘバ前ニ擧ゲタル睡遊者ノ如キ正夢ヲ見タルモノ、如キハ如何、カノア

レキカンダー、スチーヴン氏ノ如キ死去ノ前殆ント十五年ノ間身体ノ衰弱ニヨリテ皮肉皆ナ落テ恰モ骸骨ノ如クナリシニモ拘ラズ尙乗車シテ國會議場ニ臨ミ頗ル巧妙ナル演説ヲ爲セシニ非ズヤ又タカノ教頭ホツフキンズ氏ノ如キ既ニ八十餘ノ高齢ニシテ肉體衰弱セルモ亞米利加傳道會社ノ大年會ニ於テ毎ニ全世界ノ人ヲシテ聳聞セシムル大演説ヲ爲セシニ非ズヤグラント將軍ハ身既ニ疾ニ体力既ニ盡キ微動ヲモナシ難カリシ際尙ホ自ヲ言行録ノ大部ヲ書キ又タ口授シテ他人ニ之ヲ記セシメタリ又タ久シク熱病ヲ患ヘタル或人ノ如キハ罷瘖シテ骸骨ノ如クナルニ至リシモ死スル時ニ方リ其心ハ却ツテ身体ノ苦ヲ忘レテ踊躍シ其言語ハ却ツテ艶麗ニシテ勇偉ナリシト云フ人ニ靈魂ノ存スルニ非ズンバ斯ル事例ヲ如何ニシテ説明セン

ヤ身体ノ死亡スルト共ニ靈魂作用ノ顯ハレザルガ故ニ靈魂ノ之ト同時ニ死亡スルト云フニ至ツテハ殆ソト樂器ノ破損シテ音ヲ發セザルヲ以テ樂人死亡ノ証ト爲スガ如キナリ

其三 人類ガ一般ニ死後ノ存在ヲ信シ且ツ之ヲ想望スル所以ノモノハ靈魂存在ノ一証ナリトス凡ソ如何ナル時代ニ於テモ如何ナル邦國ニ於テモ死後ノ存在ヲ希望想見シテ止マザルナリ故ニ特ニ反對ノ證據アラザル限りハ此ノ信仰ヲ以テ眞ナリトセザル可ラズ若シ論者ニシテ此一般普通ノ信仰ヲ否マントセバ先ヅ其證據ヲ舉ゲザル可ラザルニ未ダ一証ノ徴セラレタルモノナシ

其四 吾人ガ高尚ナル能力ヲ有スルハ靈魂ノ身体ト共ニ滅セザル證據ナリトス理會、反省、判斷、感情、記憶、希望、畏懼、等凡

ソ心ノ諸能力ハ高尚ナル事遂ニ物質的作用ノ上ニ出デ而シテ其生長發達ノ力ニ際限アルコトナシ古今世ノ大學者ガ死ソントスルノ時ニ方リ皆ナ其成就セシ所ハ唯ダ理想ノ一少部分ニシテ已レハ今マ生涯ノ發途ニ在ルガ如キ感ヲ懷シニ非ズヤ若シ人間ニシテ此ノ世限りニ終ル可キモノナラシメバ人ノ靈魂ハ恰モ成就ノ目的ナキ堂宇ノ基礎ノ如クニシテ万物ノ中獨リ其目的ニ達スル能ハザル惘然ノモノタルナリ普ク動物界ヲ見渡スニ人間ヲ除クノ外一トシテ其目的ニ達セザルモノハアラズ然ルニ万物ノ至貴至尊ナル人類ノニ此通則ニ漏レ終局ノ目的ニ達スルコトナク空ク其門戸ニ於テ死スルトハ豈ニ實ユトシカラヌコトナラズヤ

其五 人ノ靈魂及ビ其他諸靈物ノ存在ヲ非トスル論者ガ主

張スル進化説ニ於テモ單ニ物質的ナル人類ヨリ更ニ高等ナル靈物存在ノ論據ヲ得ルニ難カラズ論者ガ進化力ト稱スルモノハ上帝ノ力ニハ非ザルカ否ヤノ論ハ且ラク之ヲ後ニ譲リ若シ眞ニ動物界ハ植物界ヨリ發達シ來リ人類ハ動物界ヨリ發達シ來レリトセバヘツケル氏ノ説ノ如ク宇宙万物ハ元始ノ萌芽ヨリ發達進化シ來リ二十二階ヲ經テ終ニ人類ニ至レリトセバ何ガ故ニ進化ハ人類ニ至テ終ラザル可ヲザルカ如何ニシテ茲ニ終ルヲ得ベキヤ更ニ高等ナル靈物ノ存在ヲ信ズルハ何ノ故ニ理ニ於テ不可ナルカ進化論者ハ輪廻説ニヨリテ動物種類ノ變遷殊ニ人類ノ進化ニ於ル急遽ノ變化ヲ説明セントス何スレゾ人類ニ至ッテ其身体ヲ放擲シ去ッテ其上ニ超乗シ心靈界ニ遊遊スルヲ恰モ蝴蝶ノ其繭套ヲ蟬脫シテ大空ニ翱翔スルガ如キ

其六 モノ發達シ來レリトスルハ學術ニ反スルヤ
 此世ニ於テ善惡應報ノ平等ナラザルハ死後存在ノ一証ナリトス善ニハ必ズ善報アリ惡ニハ必ズ惡報アル可キニ拘ラズ實際世界ノ有様ハ之レニ反シ善ヲ爲スモノハ數々困究シ惡ヲ爲スモノ却テ幸福ヲ享ルヲアリ今ヨリ殆ント四十年前天文學者等天王星運行ノ不規則ナルヲ認メ必ズ他ニ惑星アリテ之ヲ引クガ爲メナラント推測シ望遠鏡ヲ以テ其方位ヲ檢シタルニ果シテ海王星ヲ發見シタリシガ之レト等シク今マ現世禍福分配ノ不規則ナルハ唯ダ來生存在ノ事實ヲ以テ説クヲ得ベキノミ

其七 靈魂ノ作用ニハ物質的ノ部分ヨリ來ラズシテ却テ正ニ之レト相反スルモノアリ例セバ昔シ數百萬ノ基督信者ガ道ノ爲メニ具ニ艱難ヲ受ケテ辭セズ一語ヲ發スレバ身

体ヲ救ヒ得ルニモ拘ラズ尙ホ其一語ヲ惜ンデ發セズ甘シ
 テ拷問器上ニ進ミ遂ニ燔殺ノ刑ヲモ避ケザリシガ如キ是
 ナリ若シ人間ノ思想ハ果シテ頭腦分子ノ運動ヨリ起ルモ
 ノナランニハ斯ク一語ヲ惜ンテ苦ト死トヲモ願ミザルニ
 至ルハ更ニ説明スルヲ得ザルナリ
 前列七箇ノ事實ヲ合スルニハ人間ニ靈魂ノ存在スル所以ヲ
 証明スルニ足ラン大凡ソ如何ナル學問ニ於テモ此思考ヲ以
 テセバ万般ノ問題ヲ解釋シ得ルノミナラズ之ニ依ラザレバ
 諸般ノ情狀ニ適合スル能ハズト云フニ至テ各人始メテ其眞
 說ナルヲ認ムルモノナリカノ引力說及ヒ其他凡百ノ學說
 ノ如キ皆ナ然ラザルハナシ現今星雲說ノ未ダ普ク學者間ニ
 許カレザル所以ノモノハ其諸般ノ情狀ニ適合スル能ハザル
 ノ故ニ基ク乃チ我太陽系附属ノ遊星中ニハ其速力甚ク大ニ

シテ星雲說ノ算定スル所ト合ハザルモノ有リ天王海王二星
 附属ノ衛星ノ如キハ其運行全ク星雲說ノ要スル所ト相反セ
 リ而シテ星雲ナリト假定セラレシ所ノモノモ一層高等ナル
 望遠鏡ヲ用ヒテ之ヲ檢スルニ星雲ニ非ズシテ無數ノ群星ナ
 リシヲ以テ考フレバ星雲ト稱セラル、者ハ皆ナ悉ク眞ノ星
 雲ニハ非ズシテ群集セル無數衆星ノ遙ニ鏡眼ノ分別スル能
 ハザル所ニ在ルモノナランカモ未ダ知ル可ラズ是レ許多ノ
 學者ガ此說ヲ以テ万物ノ起原ヲ解説スル眞說ナリトセザル
 所以ナリカレド靈魂存在ノ思考ハ此ノ說ノ比類ニ非ズシテ
 能ク万般ノ問題ヲ解説シ得ルノミナラズ之ニ依ラザレバ以
 テ諸般ノ情狀ニ適合スル能ハズ且ツ絶テ反對ノ證據ナキニ
 アラズヤ既ニ學者間ニ認許セラレタル學說ニシテ強証アリ
 ト云フ所ノモノト雖モ多クハ靈魂存在說ノ證據ノ強キニ及

プモノハアヲザルナリ引カ説ハ能ク諸般ノ問題ヲ解説シ得
 レモ曾テ人間ノ一般ニ信憑セザリシ時モアリ且ツ其事實
 ル各人が自己乃チ靈魂ノ存在ヲ証シ其周囲ノ物質ト異ナリ
 其身体ト異ナリ其感情思想動作ト異ナルヲ自ラ分明ニ証ス
 ルガ如キ比類ニ非ザルヲ明ナリ而シテ尙ホ引カ説ニハ理學
 者ノ未ダ解説スル能ハザル大不審ノ存スルアリ今マ唯物論
 者ハ靈魂ハ見ル可ラズ解剖家ノ刀刃モ之ヲ發見スル能ハズ
 化學者ノ器具モ之ヲ生出スルニ由ナケレバ其存在ハ到底信
 ズ可ラズト云フ嗚呼誰レカ引カト稱フル力ヲ見シモノアラ
 ンヤ誰レカ隔絶セル物質ノ如何シテ互ニ相引ケルヤヲ説明
 シ得ルモノアラシヤ引カ其他諸ノ物カ上ニ一種靈力ノ存ス
 ルアリテ之ヲ動かスト云フ説ノミ獨リ能ク諸般ノ情狀ニ適
 合スルニアラズヤ然ルモ尙ホ靈魂存在説ヲ以テ眞ナリトス

ルハ理ニ於テ不可ナルアルカ吾人ハ斷テ靈魂存在説ノ眞
 ナルヲ信シ之レニ從フテ云爲スルノ學理ニ合フモノナルヲ
 信ズ
 肉体ト分離セル心靈ノ事ハ固ヨリ吾人經驗ノ及バザル所ニ
 在リト雖モカノ諸學ノ基礎ニシテ今マ世界ノ信憑スル原子
 分子精氣モレキニールイヤーノ類ニ至テモ皆等シク吾人經驗ノ及バザルモノナ
 ルニ世人ハ皆其諸ノ現象ニ應ズル諸ノ性質ヲ有スルヲ許
 セルニ非ズヤ
 人間ニ靈魂アツテ死後尙ホ存在スルノ証憑夫レ斯ノ如ク強
 シ吾人ハ今マ轉シテ上帝ガ人類ニ啓示セシモノナリト稱ス
 ル書卷ヲ披見スルニ靈魂存在ノ意ヲ示ス所ノモノ千百ニシ
 テ足ラザルナリ創世記一章ノ二十六、二十七節ト二章ノ七節
 トヲ見ユ上帝ノ人類ヲ造ル大ニ獸類ト異ナリシヲ見ル曰ク

人成ツテ生靈トナレリトアリ又々神己ノ像ニ依テ人ヲ造レ
 リ之ヲ造テ神ノ像ニ象レリト記セリ其他創世記五章ノ一、九
 章ノ六、撒母耳上二十八章ノ七ヨリ二十、列王記下二章ノ十一
 詩篇八篇ノ五、十六篇ノ十一、十七篇ノ十五、傳道書三章ノ二十
 一、十二章ノ七、但以理十二章ノ二、三、ヲ見ユ創世記五章ノ二十
 四ト希伯來十一章ノ五トヲ參考セユ又々馬太傳十章ノ廿八
 十六章ノ二十五、二十五章ノ三十一ヨリ四十六、路加傳二十章
 ノ二十七ヨリ三十八、二十三章ノ四十三、約翰傳十章ノ二十八
 十二章ノ二十五、十四章ノ二、三、十七章ノ二十四、哥林多前書十
 五章哥林多後書五章ノ一、八、哥羅西三章ノ十、帖撒羅尼迦前書
 四章ノ十六、十七、雅各三章ノ九ヲ見ルベシ
 斯ク論ヲ來レバ人間ニ靈魂ノ存在スル所以ヲ証センガ爲メ
 ニ轉テ諸動物ニモ皆テ靈魂アリトセザル可ラザルノ嫌或ハ

ナキニ非ザランカト問フ者アラシクトヒ左ルコトアルニモセ
 ヌ決シテ前段ノ論証ヲ害フモノニ非ズヨシ多少ノ困難アル
 チ免レズトスルモ人ニ靈魂ナシトセヨリハ寧ロ諸動物ニ
 モ靈魂アリトスルノ勝レルニ及ザルナリ而シテ願ミテ前論
 チ閱ミスルニ絶テ動物ニモ靈魂アルノ意ヲ含メル所ナシ其
 論証ノ大般ハ獨リ人間ニノミ適應ス可キ情狀ニシテ禽獸類
 ニハ適當スルモノニ非ズ人ト禽獸トヲ比較セバ勿論似ル所
 ナキニ非レヒ其差異モ亦非常ニシテ度數ノ差ト云ハシヨリ
 ハ種類ノ差ト稱ス可キモノアリ諸動物ノ本能ハ人ノ本能ト
 ハ異ニシテ大ニ勝ル所アレヒ元來本能ハ禽獸ガ其生涯ニ於
 テ特殊ノ目的ニ應セル定量アル資質ニシテ歲月ト實驗トニ
 由ツテ少シモ増減スル事ナク且ツ禽獸自ラ之ヲ知ルナキ盲
 カタリユレ其生涯ニ在ツテ直ニ其存在ノ終局ニ達シ得ンガ

爲メニ賦與セラレタルガ如シ然ト其他ノ諸能力ニ至ツテハ人間ノ禽獸ニ勝サルト甚ダ遠ク智慧、記性、模倣ノ力ノ如キ多少禽獸ニ於テ見ルコトヲ得ルトハ云ヘ遙ニ人ノ有スル所ニ劣レルノミナラズ人ノ諸能力ハ其成長發育ノ力ニ際限ナク八十年ノ間愈々進ンデ止マル所ヲ知ラサルナリ今マ人ノ能力ト禽獸ノ能力トノ間ハ度數ノ差ニ非ズシテ種類ノ差タルコトヲ証センガ爲メニラウヲ、ブリッヂマンノ事ヲ一言セン此婦人ハ千八百二十九年十二月廿一日ヲ以テニウハンプシヤールノハノーブルニ生レ昨年ニ及テ死セシモノナルガ二歳ノ時劇烈ノ熱病ヲ患ヘ爲メニ全ク視聽ノ二官ヲ失ヒ亦ダ殆ント臭官ノ力ヲモ失ヒ遺ス所ハ唯ダ觸味ノ二官ニシテ實ニ憫然ナル盲聾啞ノ人トナレリ然ルニ其母ハ能ク之ニ教ユルニ裁縫編組ノ業ヲ以テシ八歳ノ時ヨリ南ボストンノ「ドクトル」

エス、シー、ホー氏ニ就テ讀書記述ノ方法ヲ學ビ得依ツテ年來毎日其日録ヲ誌シ己レノ思想ト經驗トヲ述ベ又ダ許多ノ書簡ヲモ作レリ或人ガ其書簡ト日録ノ中ヨリ抜萃セシモノ實ニ大卷冊ノ半ニ過ク加之ナラズ此婦人ハ上帝ノ事基督ノ事又ダ天國ノ事ヲ學ビ依ツテ大ニ平和ト喜樂トヲ得常ニ他日天國ニ於テ基督ト共ニ永遠ノ幸福ヲ享ケンコトヲ信シテ希望セリト云フ世ノ最モ伶俐ナル禽獸ト雖モ此ノ盲聾啞ノ少女ガ學ビ得タル所ノ極少部分ダモ學ブ能ハサル可シ實ニ禽獸ハ人ノ如ク經驗ニヨツテ學ブ所コトナク又ダ少シモ思想力ヲ有セザルモノニ似タリ而シテ最下等ヨリ以上ノ知識ヲ得ル力ナク絶テ美妙ノ觀念ヲ有セズ文字書籍ヲ用ユル力ヲ有セズ人ノ如ク其行爲ノ得失利害ヲ稱量シテ之ヲ撰擇スルノ力ナク且ツ人間至高ノ道德性ノ如キニ至ツテハ殆ント其痕跡

ダモ見ルヲナシ人ハ神ノ像ニ肖セテ造ラレシモ禽獸ハ然ラズユレ人ノ高尙ナル靈能ニハ禽獸ノ達スル能ハザル所以ナラソカ抑モ禽獸ニハ自修進歩ノ力ナクヲウヲ、ブリツヂマンノ如キモノアラズ又々絶エテ其音聲ヲ變ズルヲナシ驢馬ノ子ヲ常馬ノ群中ニ置クモ決シテ其固有ノ音聲ヲ失フテ嘶鳴スルニ至ラズサレド人ノ兒ハ之レニ反シ其ノ成長スル所ノ俗ニ從フテ其言語ヲ異ニス數年以前佛國ニ於テ二嬰兒ヲ取リ隣家ナキ森林ノ邊リニ住居セル聾啞ノ一婦人ニ托シ置キ絶エテ他ノ人ヲ見ルヲナカラシメシニ四五才ノ時ニ至ツテモ尋常人間ノ音聲ヲ發スルヲ能ハズ唯平生聽ク所ノ風水ノ音若シクハ鳥獸ノ聲ヲ摸シ或ハ牛馬ノ嘶呼ヲ爲シ或ハ鷄鳴狗吠ヲ爲セリト云フ前既ニ述ベタル如ク概シテ禽獸ニハ自修進歩ノ力ナク鳥ノ巢ヲ構フル二十回三十回ノ後ト雖也其

巧拙初度ト少シモ異ナラズ而シテ獸類ハ器具ヲ用ユルヲ知ラズ火ヲ用ユルヲ知ラズカノ七箇條中ニ擧ゲタル論点ノ多クハ全ク禽獸類ニハ適應セザルノミナラズ禽獸ハ自己ノ意識ヲサヘ有セザルモノニ似タリ禽獸中何クニ彼ノ意志ノ力ノミニヨリテ生存シタルガルフイールド氏アレキサンドル、スチーヴンス氏ノ如キ例アリヤ又カノメルキン氏治療器ヲ試ミタルガ如クスルモ禽獸ニハ何等ノ効モアラザルベシ其他睡眠者ノ畫ヲ描キシガ如キ道ノ爲メニ一語ヲ措ンテ拷問器ヲモ燻火ノ刑ヲモ避ケザリシガ如キ身体ノ苦痛ヲ忘レテ踊躍欣舞セシ者ノ如キ禽獸中絶テ其例アルヲ見ザルナリ

此等ノ諸点ヲ考フレバ人ノ禽獸ニ優ルヲ其間唯ニ度数ノ差ニ止マラズシテ種類ノ差タルヲ悟ルニ足ラソ誠ニ人ハ不

朽ノ部分ヲ有スレハ禽獸ハ朽廢ス可キモ、ノミヨリ成レリ
 聖書ヲ披テ之ヲ閱スレバ分明ニ其區別ヲ見ル創世記第一章
 二十四、二十五節ニ於テハ唯々單ニ神ノ禽獸ヲ造リ給ヒシ
 ナノミ誌セヒ第一章二十六、二十七、第二章七ニ於テハ神ハ已
 レノ像ニ依テ人ヲ造レリ之ヲ造リテ神ノ像ニ象レリトアリ
 又々神、生氣ヲ嘘テ其鼻ニ入レ而シテ人成ツテ生靈トナレリ
 ト誌サル創世記一章二十八、九章三、傳道書三章二十一、十二章
 七等皆ナ人ノ禽獸ニ優カル其間種類ノ差異タルヲ示スモ
 ノナリ創世記九章三ヨリ六マデヲ覽レバ人ハ食物ノ爲メニ
 ハ諸ノ生物ヲ殺スノ權ヲ與ヘラレタルハ人ノ身ニ至ツテハ
 貴クシテ犯ス可ラザルヲ凡ソ人ノ血ヲ流ス者ハ亦々必ズ人
 ノ爲メニ其血ヲ流サルベシ蓋ハ神已レノ像ニ依ツテ人ヲ造
 リ給ヒタルバナリトアルニ由テ明カナリ其他上帝ノ啓示ナ

リト信セザレタル聖書ニ敵ユル所ノモノハ一トシテ此意ニ
 符合セザルモノナシ故ニ吾人ハ斷ツテ人ハ不朽ノ部分ヲ有
 スレハ禽獸ハ之ナシ言ヲ換ユレバ人ニハ靈魂アレハ禽獸ハ
 靈魂ヲ有セズト信ズルヲ得ルナリ
 古今上帝ヲ論ズルモノ其說甚々多シト雖ハ概シテ之ヲ四類
 ニ大別スベシ

第一 無神論、ユレ復々三種ニ小別スルヲ得

- 一、全然無神論乃チ上帝ノ存在ヲ非トスルモノ、ユハ全ク人
 間普通ノ信憑ニ反スルヲ以テ大家ノ中ニハ之レニ左祖
 スルモノ甚々少シ獨リミルトベンサムトハ唱道者ノ巨
 擘ニシテ又歐洲社會黨虛無黨ノ人々ニハ此說ヲ持スル
 モノ往々ニシテ之レ有リト云フ
- 二、不可思議論乃チ上帝アリヤ無シヤ知ル能ハズトナスモ

ノ此流ノ論者ニシテカントノ如キハ上帝ノ存在ハ畢竟
 証明シ得ベキモノニ非ズト云ヒ(然レモ幹圖ハ上帝ノ存在ヲ信セシ也)スベンセ
 ルノ如キハ上帝ヲ以テ到底吾人ノ知り得可ヲザルモノ
 ナリト爲ススベンセル氏曰ク吾人ハ思想ノ理法ノ禁ズ
 ルガ爲メニ絶對的存在ノ理會ヲ得ル能ハザルト同時ニ
 等シク此思想ノ理法ノ爲メニ絶對的存在ノ意識ヲ斥ク
 ル能ハズト(原理論九十 六八―七)

三、懷疑說一名疑惑宗ユハ上帝ノ存在ヲ疑ヒ靈魂ノ存在ヲ
 疑ヒ又其他總ユル事物ニ疑ヲ容ル、所ノ說ナリトス

第二 凡神說、ユハ万物ヲ以テ上帝ノ分体ナリトスル所ノモ
 ノニシテ復タ數種ニ分カル

一、心靈ノ存在ヲ非トシ物質ハ乃チ是レ上帝ニシテ天地万
 物ハ物質ト物力トヨリ成レリト云フモノストラウスノ

輩之ヲ唱フ

二、凡ソ物質ハ皆一ノ心靈アリテ之ヲ活動スルモノナリ而
 シテ其活動者タル天地ノ心ユソ乃チ是レ上帝ナリト爲
 スモノスビノザノ徒之ヲ唱フ

三、物質界ハ曾テ實體ヲ有セザル一種ノ影象ニシテ天地万
 物ハ唯單ニ心上ノ理會タルニ過ギズ而シテ其ノ理會者
 タル諸ノ心靈ハ皆上帝ノ分体ナリトスル說例ヘバ其言
 ニ曰ク諸ノ心靈ガ其全部タル上帝ニ於ケル恰モ小波水
 泡ノ大洋ニ於ケルガ如シトシエリソグヘーゲル等之ヲ
 唱フ

概シテ凡神說ハ万物ノ造化ヲ非トシ宇宙ニ企圖アル
 ヲ非トシ又上帝ニ自由力アルヲ非トスルモノナリ
 第三 迷信、乃チ偉大非常ナル物体ヲ崇拜スル流派ニシテ其

行ハル、蓋シ國民ノ教育文化ノ程度ニ反比例ス概シテ
亞細亞亞弗利加ニハ殊ニ多ク又々往々基督教ト混ズル
モノアリ

第四 有神論乃チ万物ノ創造者ニシテ又保持者タル生ケル

獨一ノ上帝ヲ信ズルモノユレ復分ツテ二種トナスベシ

一、非^{アイズム}天啓有神論ユハ上帝初メニ万物ヲ創造シ之ニ賦スル

ニ各種ノ勢力ヲ以テシ爾來其自然ニ任ヨ絶テ之レニ干

渉セザルト爲スモノナリ

二、純全有神論ユレ上帝ヲ以テ万物ノ上ニ超絶スルノミナ

ラズ又其内ニ常住スル者ト信ズル説タリ

此等諸説ノ主意ト影響トノ要畧ヲ知ラント欲セバ教頭マッ

コツシ氏神政論二百〇七「ペー」ヨリ二百十五「ペー」マデヲ

見ユ

第二章

エホバハ地ヲ基ノ上ニ置テ永遠ニ動クコトナカラシメ給フ

(詩百四篇ノ五)

天地万物ノ大原因タル上帝存在ノ第一証

無神論ノ困難ナルヨリ之ヲ証ス

第一項 物質ノ起源ニ關スル無神論ノ困難

概シテ無神論ノ執ル所ハ物質ハ永遠無究ノモノニシテ宇宙

万有ハ偶然ニ發達シ來レルカ又ハ其進化ノ法ニ從フテ成リ

シト云フニ在リ而シテ又一種ノ論者ハ物質ヲ以テ以前ヨリ

存スル物質ノ萌芽即チ分子ヨリ増成シタルモノナリト爲ス

孰レノ説ニ於ルモ元初ノ物質ヲ以テ限リナキ大初ヨリ存在

セシモノトスルニ至テハ一ナリサレバ物質ハ永遠ノ太初ニ

リ運動セルモノナリシカ若シクハ永遠ノ太初ヨリ靜止セル
 モノナリシカ必ズ其一タラザル可ラズ今若シ永遠ノ昔ヨリ
 運動セルモノナリトセバ何ノ故ニ万々年ノ以前ニ在テ既ニ
 現今ノ状態ニ達シ得ザリシヤ若シ物質ヲ以テ元始ヨリ靜止
 セルモノナリトセバ如何シテ其ノ運動ヲ始ムルニ至リシゾ
 固ヨリ運動ヲ起ス可キノ勢力其内部ニモ存セズ又其外部ニ
 モ存セザルニ何ゾ永遠ノ昔ヨリ靜止セシモノ、遽ニ其運動
 ヲ始ムルニ至ラシヤ元始ノ物質ニシテ果シテ無始無終ノモ
 ノナラシニハ永遠ニ靜止シテ運動ヲ始ムルノ期ナカルベキ
 等ニ非ズヤ然ルニ茲ニ其運動アルハ何ノ故ゾ何者カ之ヲ起
 セルトセンカ若シ又元始ノ物質ガ漸々成長増大シテ宇宙万
 有ヲ成シ依テ遂ニ物質界ト心靈界トノ如キ反對ノ兩面ヲ表
 スルニ至レリト云ハシカ其變化ヲ生セシ所ノ力ヲ以テ何處

ニ存セシトスルヤ元始物質ノ内部ニ存セシトセンカ將其外
 部ニ存セシトセンカ實ニ解ス可ラザルノ至リト云フベシ
 スペンセル氏曰ク物質、運動、勢力、等ハ人智ノ認識スル所ヲ以
 テスレバ皆始マル時アル能ハズ又終ル時アル能ハザルモノ
 ナリト果シテ運動力ニシテ無始無終ノモノナリトセバ神ナ
 クシテ天地万物ノ進化シ來ル道理ナシベイン氏ハ此困難ヲ
 脱セントシ物質ヲ以テ一方ニハ心靈的ノ性ヲ有シ他方ニハ
 物質的ノ性ヲ有スル一種兩面ノ實體タリトナセリサレド心
 靈ト物質トノ如ク正ニ相反セルモノヲ以テ同一体中ニ存セ
 リトナスハ曉解ス可ラザルヲタルノミナラズ畢竟此説タル
 唯ダ理論上ノ存在ヲ有スル物質ノ各分子ヲ以テ神ナリト爲
 スニ歸スルヲ如何セン學者ノ筭スル所ニ依レバ一立方寸ノ
 空氣中ニハ物質分子ヲ含メルヲ三万慶ノ上ニ出ヅト云フ實

ニペーソ氏ノ神タル古昔羅馬ノ諸神ノ多キヨリモ多ク又日本神道ノ所謂八百万神ニモ過ギタリト云フ可キナリ
 尙ホ進テ詳ニ物質ヲ檢スレバ亦同様ノ困難アルヲ發見ス夫レ各物体ハ結晶ノ狀一定ニシテ皆各自固有ノ形体ヲ有シ決シテ亂雜不規ナラザルモノナリ是レ果シテ孰カ之ヲ然ラシムルヤ解者ノ曰ク物体ノ各分子ハ皆各自固有ノ結晶体ヲ有スルモノナルガ故ニ其凝成スル物体モ共ニ皆同一形タルナリト而シテ其分子タル至微至細ニシテ大氣一立方寸中ニハ三秊ノ多キ(三〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇)ヲ容ル、ト云フ世上各種ノ物体ノ分子ハ甚ダ異ナレル各所ヨリ來ル例セバ酸素ノ如キ或ハ大氣海水ノ中ニ於テ之ヲ採ルモ或ハ地下ノ岩層ニ於テスルモ若シクハ之ヲ隕石ノ中ヨリスルモ其品質ニ至テハ同一ニシテ精巧ナル試檢ヲ施スニ些少ノ差違ヲ

モ發見スルヲ能ハズ皆同ク同量ノ水素ト抱合シテ水ヲ化成シ同度ノ光線ニ觸ルキハ則チ震動ス其他何種ノ物質ニ限ラズ既ニ同種ノモノナル以上ハ近ク此ノ世界ニ在ルモ遠ク他ノ世界ニアルモ皆全ク同一ニシテ絶テ差違アルヲナキハ分^{スベク}光器ニヨリテ明カニ見ルベシ大氣海水岩層隕石ノ如キ地球ト他ノ諸星トノ如キ數千年若クハ數百萬年ノ間其狀境ヲ異ニシタルニ拘ラズ其中ニ存スル物質ノ斯ノ如ク同一ニシテ少差違スラナキ所以ノモノハ何ツヤ之ヲ進化ノ結果ト云フニキカ進化トハ斷間ナク漸々其性質形狀ヲ變遷轉化スルノ謂デレバ殊別復雜ナルユツ正ニ其結果ノ眞狀ナレ之ヲ如何ゾズ斯ノ如ク同一ナルモノヲ以テ進化ヨリ成レリトスルヲ得ンヤサレバ其同一ナルハ獨リ極少分子ノ始終同一ニシテ變セザルノ故ニ基クトスルノ外ナカルベシ是ヲ以テクラル

ク、マツタスウエル、ステワート、テイト諸氏ノ如キ俊秀ナル學者ハ能ク此ノ趣旨ヲ討究シ物質分子ハ皆被造物タルノ形ヲ呈セリト云ヘリ然ラバ之ヲ製作セシモノハ誰ゾヤ又諸ノ勢力ヲ觀察スルニ皆一ク獨立ノ力ナルガ如ク絶テ他ヨリ轉化シ來レルノ跡ナキヲ以テ愈々無神進化論ノ困難ナルヲ見ル

第一引力第二電氣力及ヒ磁石力、例セバ磁石ハ能ク鉄屑ヲ舉グ今引力ニヨリテ之ヲ爲サシニハ引力ヲ億万倍セザル可ラズ第三化合力、例セバ九「ボンド」ノ水量ヲ生ズルガ爲メニ要スル力ハ二「トン」ノ物体ヲ數千英尺ノ高處ヨリ墜ス力ニ等シト云フ第四生命力、乃チ少シモ他ノ勢力ト關スル所ナキモノ、例セバ生命力活動ノ間ハ化合力ノ作用モ其中ニ生ズルヲ得ズサレド生命力ノ終ルト共ニ化合力ハ其作用ヲ退フシ組織ヲ

分解スルニ至ルモノナリトス第五意思ノ道理的自由力乃チ生命力ヨリモ一層高尚ナル力ニシテ絶テ他ノ勢力ニ關スルト間ハ、無神論者ハ之ニ答フルノ辭ナカルベシ且ツ物質ガ呈スル種々ナル作用ハ皆其作用外ニ原因アルノ體ヲ表示ス乃チ電氣磁石ノ如キハ兩極力ニシテ光熱化合力ノ如キハ無極力ナリ光熱ハ運動ノ様法ニシテ電氣、磁石力、凝聚力ハ然ラズ是等其性質様法ノ不同ナル決シテ進化説ノ解明スル能ハザル所ナリ其他引力ノ強弱ハ距離ノ自乘ト反比例ヲ爲シ化合力ノ強弱ハ距離ノ三乗ト反比例ヲ爲シ電氣力磁石力ハ距離ノ五乗ト反比例ヲ爲ス斯ル不同ハ何處ヨリ起リシヤ果シテ誰カ之ヲ生シタルヤ

第二項 宇宙ノ運動ニ關スル無神論ノ困難

吾人ハ既ニ前段ニ於テ宇宙運動ノ起原ニ關スル無神論ノ難
 点ヲ舉ゲヌレバ更ニ轉シテ宇宙運動ノ終局ハ如何ナルベキ
 カチ見ントス
 抑モ宇宙萬有ハ始メアリシモノタルノミナラズ亦終リアル
 可キモノタルハ方今物理学ノ明カニ徵証スル所ナリ現ニ地
 上ノ山岳丘陵ハ日ニ月ニ崩解平夷シテ終焉ニ向フモノ、如
 ク地球ノ温熱モ漸々冷却シ去リテ昔日ト同カラザルニ因テ
 之ヲ推セバ地球ハ愈々益々其温熱ヲ失ヒ遂ニ寒冷ノ極点ニ
 下リカノ月世界ノ如ク寂寞タル黒寒塊ト化シ空中ノ大氣モ
 河海ノ水分モ皆其乾涸セル塊中ニ収入シ去ラル、ノ時至ラ
 シテ必セリ又太陽ノ如キモ漸々冷却シテ止マル所ナキニ似
 タリ是レ固ヨリ間斷ナク常ニ許多ノ温熱ヲ發散スルガ故ニ
 漸次其温熱ヲ減少シテ償フ可ラザルニ至ルハ理ノ當然ニシ

テ怪ム可キモノナシ星學者ノ報ズル所ニ依ルニ凡テ恒星ハ
 其温熱最モ盛ナルキハ白光ヲ發シ其次ニハ黃光ヲ發シ其次
 ニハ光色變化シテ常ナラズ最後ニハ炭火ノ如キ赤光ヲ發ス
 ルモノ也而シテ我ガ太陽ハ既ニ光色常ナラザルノ地位ニ在リ
 ト云フ又之ヲ星學者ニ聞ク宇宙間ニ充塞スル精氣在テ彗星
 ノ運行ヲ妨ゲ漸次太陽ニ近カシム之ヲ名ケテ「イール」ト稱
 ス其實証ハ「エノケ」彗星ノ軌道ヲ一周スルハ凡ソ三年半ナル
 ニ此ノ「イール」ノ摩擦ニヨリ其遠心力ヲ減少シ軌道ヲ一周
 スル毎ニ其時期ヲ短縮スルヲ殆ント二時三十分ニ及ブト云
 フ以テ其漸々太陽ニ近クナ知ルベシ又月ノ如キモ第一紀ノ
 月蝕以來漸々地球ニ近ケルヲ凡ソ其直徑ノ四倍ニ至ル而シ
 テ今尙ホ間斷ナク地球ニ近キツ、アルガ故ニ終ニハ必ズ地
 球ニ落着スルノ日アルベキナリ且ツ潮水モ幾分カ地球自轉

ノ速力ヲ減少スルモノナリト聞ク然ラバ今「イ！ツル」ニモセ
 ム他如何ナル物質ニモセヨ其摩擦ニヨリテ月ノ運行ヲ遲滞
 シ又彗星ヲ阻碍シテ軌道一周毎ニ二時半間ノ短縮ヲ生ゼシ
 ムルモノアリトセバ唯ダ月ト彗星トニ止ラズ惑星ニマレ恒
 星ニマレ凡ソ宇宙間ニ在ツテ其中ニ周行スル天体ハ皆ナ之
 レガ爲メニ其速力ヲ減少シテ漸々各自ノ中心ニ近ク可キ理
 ナリタトヒ其速力ヲ失フテ甚ダ微小ニシテ一百万年毎ニ其
 軌道ノ短縮スル唯ダ一時ノ少キニ過ギズトスルモ若シ宇宙
 ナ造化主宰スル大能者アルニ非ザルヨリハ異日、月ハ地球ニ
 墮チ地球ト諸惑星トハ俱ニ太陽ニ墮チ太陽ト諸恒星トハ俱
 ニ宇宙ノ大中心ニ墮ツルノ時來ラザルヲ得ズ假リニ無神論
 者ノ説ヲ然リトセバ其限リナキノ過去ヨリ今日ニ至ルノ間
 ニハ幾回モ斯カル墮潰混同ノ變化起リシニ相違ナシ若シ果

シテ然ラソコハ宇宙万有ハ如何ニシテ幾回トナク其破片殘
 塊ヨリ進化シ來レリヤ實ニ不審ノ極ト云フベシ諸ノ太陽及
 ビ世界ノ墮潰混同スルハ其衝突ハ以テ莫大ノ温熱ヲ發シ其
 温熱能ク新天地ヲ再造スルニ足ルト云フモノアレハ斯カル
 大變動ハ每時必ズ勢力ノ失亡ト伴フモノタレバ決シテ其ノ
 説ノ如キ「アル可ラザルナリ而シテ又茲ニ一ノ解シ難キ点
 アリ此ノ宇宙ト其間ニ在ル諸太陽トハ皆斷ヘズ温熱ヲ外空
 ニ發散スル「ナレバ漸々其温熱ヲ失亡スベキ理ナリ故ニ若
 シ物質ニシテ限リナキノ過去ヨリ限リナキノ年代ノ間漸々其
 温熱ヲ失亡セシナラバタトヒ太初ニハ如何ニ多量ノ温熱ヲ
 含有セシトスルモ宇宙万有ハ早ク既ニ廢頽停止ニ歸ス可キ
 筈ナリトス嗚呼大能ナル造化ノ主アルニ非ザルヨリハ誰カ
 能ク之ヲ支持シテ今日ニ至ラシメンヤ

方今物理學ノ大家甚々多シト雖ヒ皆未ダ散失セル勢力ヲ集
 収シテ再ビ宇宙ノ動力ヲラシムル所以ノモノアルヲ發見ス
 ルヲ能ハズ英國有名ノ物理家カー、ウイリヤム、トムソン氏ハ
 嘗テ物質ノ温熱ハ漸次散失シテ終ニハ万物悉ク冷却シ了ル
 ノ時アリ今ヨリ之ヲ算出スルヲ得ヘシト云ヘリ然ルニ此困
 難ヲ避ケントシテ説ヲ爲スモノアリ曰ク「イーカー」ハ唯ダ或
 ル一定ノ區域内ニノミ存在スルモノニテ此ノ「イーカー」ノ中
 ニノミ温熱ハ傳播スルナリトサレド其一定ノ區域トハ如何
 之ヲ限ルモノハ何ゾヤ凡ソ浮氣體ノ性質タル之ヲ制スルモ
 ノアラザル限リハ膨脹又膨脹シテ敢テ自ヲ止マルコトナキモ
 ノマリ然ルニ浮氣體タル「イーソル」ニ區域アリトセバ何者カ
 之レガ區域ヲ制セシモノアラザル可ラズ上下四方際涯ナキ
 此ノ茫々タル空間ニ於テ之レガ區域ヲ制セシモノハ果シテ

誰ゾヤ我輩ノ知識ヲ以テセバ「イーソル」流布ノ區域ヲ制スル
 ニハ第一非常無限ノ力ヲ用ヒザルヲ得ズ論者ハ之レニ答フ
 ルニ何ノ説ヲ以テセントスルヤ第二良シ又斯ル區域アリト
 スルモ如何ニシテ一旦發散シテ此ノ區域ノ周邊ニ至リシ温
 熱ヲ再ビ其ノ周邊ヨリ集收ス可キヤ之レヲ集收スルノ力何
 處ニ存スルヤ吾人ハ未ダ斯ル力アルコトヲ知ラザルナリ物
 理學ノ大家タルステワート、テートノ二氏ハ其近代物理學ノ
 進歩ト題スル講演ト無形世界ナル著書トニ於テ獨英有名ノ
 學士ヘルムホルツ、スツル、ヴトムソン、マクスウェル等ガ究
 索セシ所ニ據ツテ詳明セルト左ノ如シ曰ク宇宙間ノ物力ハ
 唯ダ二種ノ外ニ出デズ一チ陰力ト云ヒ二チ陽力ト云フ陰力
 トハ捲キシ時計ノ機關中ニ存スル力或ハ火樂岩石ノ中ニ存
 スル力ノ如キ類ニシテ陽力トハ流水若クハ雪崩ノ中ニ存ス

ルモノ、類ナリ而シテ凡テ宇宙間万物ノ運動作用ハ此ノ陰力
 ヨリ陽力ニ轉化スル運動ニヨリテ起ル結果ナリト之レヲ以
 テ考フレバ万物ノ運動ハ熱力ノ作用ヨリ生シ熱力ノ作用ハ
 熱力分配ノ不同ヨリ生ズルモノタルガ故ニ熱力分配ノ不同
 ナル間ニ陽力モアリ陰力モアリ其轉化ノ變動モアルナレ
 若シ斷ヘズ陰力ヨリ陽力ニ化シ去ツテ止ム時ナクンバ終ニ
 ハ一切ノ陰力ハ皆陽力トナリ万物ノ熱力温度互ニ平均シテ
 運動ノ起ル可キナキニ至ラン故ニステワート氏等ノ諸學者
 ハ皆宇宙間ノ勢力ハ斷エズ其ノ量ヲ減少スルモノタルヲ
 許シ之ヲ再新スルモノアルニアラザレバ終ニ必ズ絶無ニ歸
 セント云ヘリ抑モ是ノ如キ物力何處ヨリ出テ來リシヅヤ將
 タ宇宙万有ノ業ニ已ニ顔廢滅絶ニ至ザリシハ何故ヅヤ吾人
 ハ一步ヲ進ミ未ダ宇宙萬物ノ發達進化セシ所以ノ理ヲ解明

スル好定説アルヲ見ズト云フヲ得可シカノ星雲説ノ如キ
 ハ最モ是ナルニ近シト雖モ學者ノ尙ホ疑フ者少ナラズ乃チ
 嘗テ星雲ナリト信セラレタルモノ、星雲ニハ非ズシテ衆星
 ノ群集セルモノナリシヲ發見シタリ之ニ因ツテ之ヲ推ス
 ニ更ニ高等ナル望遠鏡ヲ以テセバ他ノ星雲モ皆ナ然ルヲナ
 シト保ス可ラズ且ツ此説タル中心回轉ノ由來ヲ解明スルヲ
 能ハズ天王海王二星附属ノ衛星ノ運行ハ全ク他ノ諸星ト反
 對スル所以ノ理ヲ説明スルヲ能ハズ彗星軌道ノ方向ト其太
 陽ヲ去ル距離ノ法外ナル由來トヲ説明スルヲ能ハズ而シテ又
 我太陽系附属ノ惑星ニシテ其速力大ニ此説ノ算定スル所ニ
 超過スルモノアリ是レ許多ノ學者ガ疑フテ未ダ眞説ナリト
 セザル所以ナリ

第三項 生命ニ關スル無神論ノ困難

吾人ハ今生命ノ事ヲ論究ス可キ時ニ至レリ抑モ生命トハ如何ナルモノニシテ何處ヨリ來レリヤ將如何シテ生ゼシモノナリヤ生命ヲ以テ自然ニ發生セシモノトスルガ如キハ全ク無證據ノ妄論ニシテ方今學者ノ絶テ採ラザル所ナリ日耳曼ノ哲學家カント云ヘル「アリ曰ク宇宙間ニ物質ナルモノアリトセンニ吾レ能ク万有ノ成立ヲ説明シ得ベシ然レモ唯ダ物質ノミニテハ吾レ殆ンド一小虫造化ノ方チモ解説スルコト能ハズト而シテ哲學者ハ皆以爲ラク當初宇宙ノ物質ハ非常猛烈ノ浮氣タリシガ故ニ生命ノ萌芽其間ニ生存スル能ハザリシ筈ナリト實ニ生物ト無生物トノ間ニハ天地雲壤ノ隔絶アツテ世間許多ノ物理家中未ダ一人ノ之レガ相關連合ノ蹤跡ヲ發見シ得タルモノアラズ或ハ生命ヲ以テ天降石ニ由ツテ他ノ世界ヨリ此ノ地球ニ達セシモノナリト云フ説アレ

是レ唯ダ暫ク其困難ヲ後ニ推諉シタルマデニテ決シテ之ヲ免レ得タルニ非ザルナリ
 茲ニ天地創造ノ記録ナリト信セラレタル書籍ヲ繕テ之レヲ閱ミスルニ三タビ「バラ」ナル希伯來語ノ用ヒラレタルヲ見ル「バラ」トハ創造スルト云フ義ニテ書中特ニ上帝ノ働作ニ關スル事ニシテ且ツ前未ダ曾テ有ラザリシモノ、創メテ造ラルル時ニノミ用ヒラレタル言葉ナリ乃チ創世記第一章一節天地創造ノ時同廿一節生物創造ノ時同二十七節人類創造ノ時同ノミ之レアリテ其他第一章七、十六、二十五、二十六、三十一節等ニ至ツテハ唯ダ「アサ」(製造スルト云フ義)ナル他ノ言葉アルヲ見ルノミ是レ吾人ノ深ク注意ス可キ事實ニシテ能ク其意ヲ觀察セバ或ハ生命ノ由來スル所ヲ窺フニ足ラソカ要スルニ生命活機ノ眞ニ靈妙不可思議ナル「大能大智ノ上

帝アツテ之ヲ運用指向スルト爲スニ非ザルヨリハ到底理解
 ス可ラザル隱語タルヲ免ゾ吾人ハ是レヨリ聊カ各生物中
 ニ存スル生命活機ノ作用ヲ檢シ唯物説ノ之ヲ解明シ得ルヤ
 否ヤヲ見ント欲スルナリリオチル、エス、ピール氏ハ大英國顯
 微學會ノ會長ニシテ當今世界第一流ノ顯微學家ナリ名著「ア
 ロトプラズム」アリ具カニ生命生子ノ事ヲ論載ス以下述ブル
 所大概之ヲ約シタルモノナリ

凡ソ生命ヲ保有スル有機体ニハ必ズ三種ノ成分アリ一ヲ養
 物ト云フ食物ノ消化系ニヨリテ溶解シ血液ニ和入シテ体中
 ノ各部ニ流行スルモノナリニテ組織ト云フ養物ヨリ化成セ
 ル物質ニシテ生物体ノ各部ヲ構造スルモノナリ三ヲ生子ト
 云フ乃チ生物体中所トシテ存在セザルナキ至微至細ナル億
 万無數ノ生命中心ナリ養物モ組織モ皆純然タル死物ナレト

モ只生子ノニ生命ヲ保有シテ活機運行ノ作用ヲ成ス最モ高
 等ナル顯微鏡ヲ以テ之ヲ見レバ養物漸々生子ノ中心ニ近ヅ
 キ遂ニ之ニ接スルヤ忽チ化シテ生子トナリ生子復々自ラ化
 シ去リテ組織トナリ筋骨、神經、脈管、等ヲ造成スルト云フ然ラ
 バ吾人ガ身体ヲ成ス所ノ分子ハ皆必ラズ先ヅ初メニ養物ト
 ナリ入ツテ生子ノ中心ニ接シ化シテ生子トナリ復々化シテ
 組織トナリ化シ去リ化シ來リテ止ム時ナク或ハ茲ニ骨ヲ成
 シ或ハ茲ニ肉ヲ成シ或ハ茲ニ神經ヲ成スモノナリ養物ヲシ
 テ生子ノ中心ニ近カシムルモノハ何物ゾヤ組織ヲシテ生子
 ノ中心ヨリ八方ニ發出セシムルモノハ何物ゾヤ且ツ斯ノ三
 段ノ妙用ヲ作ス所ノ力ハ果シテ何處ニ存スルヤ更ニ驚愕ス
 ルニ堪エタリ直線三千倍力ノ顯微鏡ヲ以テセバ一生子ノ大
 ナルヲ凡ソ直徑二寸ニ至ル然レモ其形狀一面同様ニシテ絶

テ結構アルヲ見ズ又彼ノ生子ト此ノ生子ト少シモ異ナル所
 ナク蝸蛇ノ生子モ爬虫ノ生子モ魚ノ生子モ狗ノ生子モ猿ノ
 生子モ人ノ生子モ皆悉ク同一ナリ此ノ同一ナル生子ニシテ
 シカモ同一ナル物質ニヨリ或ハ骨ヲ成シ臍ヲ成シ或ハ神經
 ヲ成シ脈管ヲナシ耳ヲ成シ目ヲ成シ人ヲ成シ狗ヲ成スガ如
 キハ果シテ何ノ故ニ基クヤ又唯リ生子ノ同ヲキノミナラズ
 人ノ胚種ト狗胚ノ種トハ絶エテ異ナル所ヲ見ズ而シテ或ハ
 人トナリ或ハ狗トナルノ差異ヲ致ス所以ノモノハ何ゾヤ其
 胚種ノ中ニ存スル勢力ノ差違ニ歸スルノ外ナカルベシ然ラ
 バ其勢力ヲ以テ如何ナルモノニシテ又何處ヨリ起リシト爲
 ス可キ乎
 生子ハ透明無色ニシテ構造ナク何等ノ生物ニ於テモ同様ニ
 見ユルモノナリ且ツ養物ヨリ組織ヲ化成スルノ力アルノミ

ナラズ又一種ノ不可思議ナル自動力ヲモ有シ常ニ運動シテ
 間斷ナク或ハ其形狀ヲ變シ或ハ其地位ヲ變シ或ハ分レ或ハ
 合シ一部ハ進ミ一部ハ退キ互ニ衝突スルモノアリ互ニ回旋
 スルモノアリ上方ニ動クモノアリ下方ニ動クモノアリ或ハ
 左右ニ動キ或ハ前後ニ動キ千變万化シテ更ニ停息スルユト
 ナシ直徑五千倍力ノ顯微鏡ヲ以テスレバ直徑二「インチ」ノ十
 万分一ニ足ラザル生子ノ諸中心ヲ見ルヲ得ベシ而シテ又
 マ其ノ絶エズ八方ニ運動スルヲ見ルナリ然レモ養物既ニ盡
 クルカ若シクハ寒熱其宜キヲ失フキハ生子其形狀ヲ變シテ
 圓体トナリ一種ノ組織物ヲ以テ之ヲ蔽ヒ依テ以テ自ラ保護
 シ寒熱其宜ヲ得養物再ビ至ルノ時ニ及ンテ表面ノ組織物ヲ
 破リ再ビ其變化運動ヲ始ムルモノナリ若シ寒熱甚マ其度ヲ
 過グレバ生子必ズ死ス生子一旦死スレバ復々之ヲ蘇活セシ

ムルノ術ナシ凡テ動物ノ血液ハ生子ト組織トヨリ成立セリ
 其ノ組織物ハ半ハ稍々固形体ニシテ半ハ流動体ナリトス出
 血ノ時泄出シタル血中ニ生ズル凝結物ハ即チ死セル生子ノ
 塊チナスモノ也血液循環ノ時ニ方ツテ之ヲ見レバ血液ハ恰
 モ半流動ナル無色ノ生子ト半固形ナル紅色ノ組織トヲ混和
 シタル溶液ノ如ク動脈ト靜脈トハ恰モ之ヲ通アル窒管ノ如
 シ而シテ動物ニ在ツテ紅色ナル組織物ハ植物ニ在ツテハ綠色
 ナル耳ニテ其他一切生子ノ作用ニ至テハ植物動物少シモ異
 ナル所ヲ見ズ而シテ此ノ生子ノ小ナルト直徑一英寸^イ十分ノ
 一ナルモアリト云フ願フニ動植物ノ枯死スルハ其中ニ存ス
 ル生子ノ死スルニ據テナリカノ毒藥ガ人獸ノ生命ヲ害スル
 モ多クハ其中ニ存スル生子ヲ害スルニ基クモノトス
 右ノ如ク生子ノ運動ハ全ク無生物ノ運動トハ異ニシテ分子

ノ顛動トモ同カラズ蔓延性ノ運動、筋肉ノ伸縮トモ同カラザ
 レモ其固有ノ運動ニ至ツテハ植物ニ在ツテモ動物ニ在ツテ
 モ皆同様一般ナルモノナリ而シテ養物ノ組成ト性質トハ一
 タヒ生子ニ觸ルレバ全ク變換スルモノニテ生子又ハ組織ノ
 中ニ於テ之ヲ素ムルモ絶テ其舊體ヲ得ルコトナシ生子及ヒ
 組織ノ既ニ死シタル後ニ及テ之ヲ檢スルニ吾人ハ只嘗テ養
 物中ニ存在セシ舊物質ヲノミ發見スルコトナク必ず其死時
 ノ情實ニ因テ異ナル所ノ新物質ヲ發見セザルハ莫シ斯ノ如
 クニシテ人獸百般ノ肢體官能ハ皆此ノ極微秤カルニ足ラザ
 ル生子ノ變化ヨリ生ズ直徑三千倍力乃チ物体ヲ九百万倍ス
 ルノ力アル顯微鏡ニヨルモ生子ニハ更ラニ纖維モナク結構
 モナク透明無色ニシテ唯チ養物ヲ吸收シテ之ヲ同化シ依ッ
 テ自ラ成長増大シ大カ殆^イト一英寸^イ二千分ノ一ニ至レバ分

裂シテ數小生子トナリ小生子再ヒ成長シテ分裂シ分裂シテハ復々成長シ成長分裂ノ間ニ於テ續々組織ノ化成シ來ルヲ見ル而シテ凡テ結構形狀アルモノハ既ニ生命ナキ死体ニシテ生命アルモノハ絶ヘテ結構形狀アルトナシ亦々奇ナリト云フベシ嗚呼誰カ生子ヲ運用指向シテ此ノ巧妙ナル働作ヲナサシムルモノゾ尋常ノ事業ニ在ツテハ其主管者ヲ忘ルノ不理ナルトナリ唱フル學者ニシテ此ノ非常妙絶ナル生子運用ノ主管者アルヲ忘レテ其不可ナルヲ悟ラザル者往々之レアリ畢竟スルニ生子作用ノ妙ナル三段變化ノ奇ナル加之其作用變化ヨリ或ハ人ヲ造リ或ハ禽獸ヲ造ルガ如キ實ニ妙中ノ妙奇中ノ奇ナリトス之ヲ如何ゾ分子固有ノ性質ナリトスルヲ得ンヤ抑モ之ヲ意思ノ力ニ歸ス可キカ否ナ未ダ意思アラザルノ前既ニ已ニ此ノ妙工アリ博士ハツクスレハ太陽

ノ光温能ク筋肉ヲ造リ腦髓ヲ作ルト云フト雖モ何等ノ器械ヲ以テ之ヲ成スカヲ辨明セザルナリ且ツ筋肉伸縮ハ力ノ全ク物質運動ノ力ト異ナリ身體勢力ノ法則ト器械勢力ノ法則トハ全ク其ノ趣キヲ異ニスルヲ如何センハツクスレ一日是レ蓋シ人ノ身體ハ教育シ得ベキ器械ナルガ故ニ由ルト又曰人ノ成長スルハ猶ホ結晶物ノ成長スルト異ナル所ナシトカレド動植物ト人爲ノ器械トハ其原由、形狀、組成若シクハ働作ノ方法ニ至ツテ一モ似タル所アラズ結晶物ノ増大スルハ遊離セル物質分子ノ層々互ニ相ヒ凝集スルヨリ就ルモノトナレモ吾人ノ身體ハ之レト異ナリ分子ノ層々凝集セルモノニ非ズ又其物質ハ結晶物ニ於ルガ如ク周圍ノ溶解物中ニ發見スル能ハザルナリ化學的抱合物ヲ製センニハ固ヨリ其工場物料、装置、及ビ化學者ヲ要スレモ身體ニハ更ニ斯カル類ヒノ

物ヲクシテ成長ス是レ化學者ノ抱合物ヲ製スルト異ルナリ
 ハツクスレー氏ノ言ノ如キハ恰モ時計ハ自ラ製スルノ力アリ
 リト云フニ同シク又其自ラ分解セル他ノ時計ヨリ結晶造成
 スルノ力アリト云フモノナリ妄モ亦々甚シカラズヤ實ニ生
 命力ハ他ノ諸勢力ト異ナリテ曾テ物質ニ属セズ物質力ヲ變
 ヲテ之ヲ生ゼント欲スルモ得ル事能ハズ之ヲ轉化シテ物質
 力ト爲サント欲スルモ得ル事能ハズ而シテ死セル動物ノ体量
 モ生クル時ト異ナル所ナシ化學作用奇ナリト雖モ榮養作用
 ノ大奇ナルニハ比ス可ラズ磁石力電氣力ノ働キ妙ナリト雖
 モ生命力ガ其養物ヲ採収淘汰スルノ至妙ナル働キニハ及ブ
 可ラズ嗚呼此ノ万物中至奇至妙ナル生命力ハ如何ナルモノ
 ジャハツクスレー氏曰ク生子能ク物質力ヲ使用シテ生物機
 關ヲ作スト而シテ生子何處ニ其力ヲ得タルヤ又如何ニシテ之

ヲ成就スルヤニ至ツテハ絶ツテ解明スル所ナシ是レカノ分
 子ニハ各々皆少魔アリテ時ニ從フテ其戸ヲ開閉スト云フ
 モン」説ニ幾シ乃チ聖書ノ稱フル獨一神ニ代ヘテ億万無數ノ
 小神チ人獸ノ各体中ニ置クモノタルナリ寧ロ物質ガ有スル
 勢力ヨリモ大ナル一種ノ靈力生子ノ中ニ在リテ之ヲ運用指
 向シ巧妙精確ナル數理的ノ構造ヲ成スモノトスルノ理ナル
 ニ及ンデヤ蓋シ此流ノ哲學者輩ハ一片ノ草葉ト雖モ其成長
 スル所以ノ理ヲ講明スル能ハザルナリ
 既ニ前ニモ述ベタル如ク生子ハ無色ニシテ結構ナキ粘汁様
 ノモノナルガ組織ヲ破壊シ又再ビ之ヲ造成スルノ力アリ然
 レモ生子一々死セバ復々活カシムルノ術ナシ生子ハ乃チ
 生命ノ坐ニシテ凡ソ生物ノ産ズルハ唯々他ノ生物ノ生子ニ
 由ツテナリハツクスレー氏スラ生命ハ有機体ノ原因ニシテ

有機体ハ生命ノ原因ニ非ズト云ヘリ人力能ク結晶物ヲ分解
 シ復々之ヲ建設シ得ベシ人力能ク水ヲ變テ浮氣ヲラシメ
 再ビ之ヲ水ニ歸セシメ得ベシ唯リ生子ニ至テハ人力之ヲ生
 ズル能ハズ或ハ之ヲ變テ他物ヲラシムル能ハズフレ、ピ
 ー、ル、カー、メントル、デーナ、チンダル、ハツクスレー、エイソ、ドリ
 スデ、ルノ如キ大家皆生子ノ作用ヲ以テ當今學術ノ到底説
 明スル能ハザル所ナリト爲セリ吾人ガ体中ノ分子ハ日夜變
 化シテ間斷ナク數月ニシテ或ハ全身悉ク改ルニ至ル然レモ
 生子ニ至ツテハ少シクモ變ズルユトナク又常ニ同ク体ノ各
 部ヲ構造シテ分子變改ノ實ヲ覺ラザラシムカノ昆虫ノ如キ
 蠶トナリ蛹トナリ蝶トナル而シテ之ヲ造ルノ生子ハ常ニ同一
 ナリ造化ノ主アルニ非ズンバ誰カ之レガ變遷ノ始メヲ爲ス
 可キツ生命カニシテ果シテ物質力ナラシメバ何故ニ物質ト

共ニ變化セザル手スベンセル氏曰ク進化ハ物質運動ノ復雜配
 合ヨリ起ルト恰モ是レ無生物ニ變化ヲ始メ生物ヲ進化スル
 ノカアリト云フモノナリ又曰ク心ハ腦髓ノ成果ニシテ其作
 用ノ上ニ顯レタルモノナリト而シテ絶ヘテ其證ヲ舉ゲザル
 ナリ人孰カ馬ヲ廐ノ産ナリト言フ能ハザランヤ唯々其證ナ
 キヲ憂フルノミスベンセル氏ノ言ハ大ニ之レニ似タリ顯フ
 ニ此説タル心ノ構成ヲ以テ肉体ノ構成ニ比シ心上ノ變化ヲ
 以テ肉体上ノ變化ニ比シタルニ基クモノニシテ生理上同化
 ノ作用ヲ肉体上生命ノ例ト爲シ理ヲ推シテ事ヲ辨ズルヲ知
 識上生命ノ例ト爲セリト雖モ同化ノ作用ナク又論辨ノ作用
 ナキ處ニ既ニ生命アリ乃チ生命ハ種子ノ中ニ在ツテ存セリ
 同化論辨ノ作用ハ生命ニ伴隨スルモノニテ生命ニハアラズ
 生命アリト雖モ同化論辨ノ作用絶エズ起ルモノニ非ザルナ

リ是ヲ以テ吾人ハ心モ腦モ共ニ同ク万有ノ大原因タル上帝ノ生ズル所ト信ズルヲ得ヘシトス

吾人ハ終リニ臨テ再ビ問ハント欲ス生子ハ何モノ、生ズル所ニシテ其奇々妙々ナル撰擇排列組成ノ力ハ何處ヨリ來リシヤ常ニ同ク人獸鳥魚耳目鼻口ヲ造リテ其目的ヲ誤ルヲナシハ如何斯ク生物ノ各部及ヒ全体ヲ保存スルモノハ何ゾヤ吾ガ友人ノ顔面トシテ其物質ヲ換フト雖ヒ吾ノ尙ホ之ヲ認知シ得ルガ如キハ抑モ何ゾヤ生子固有ノ力之ヲ爲スト云フヲ得ンヤ吾人ハ深ク之ヲ信ズ吾人が身体ノ中ニハ物質ニ超越シ物質ヨリモ智慧アル勢力隱伏スルアリテ生子ヲ運用指向シ以テ吾人が身体ヲ成スモノナリト

「レヴェレンスト」ナイ、ナイ、マンガー氏ハ左ノ如ク人ト禽獸トノ差違ヲ概括シ造物主ノ大力ナクシテ人ノ禽獸ヨリ進化スル

ノ困難ナルコトヲ示セリ

第一 進化ハ物質界禽獸界ニ在ツテハ必須タレヒ人類ニハ適當セザル條項

(一)人ニ在ツテハ本能ハ自覺ノ智力ニ地位ヲ讓レリ。(二)人ニ在ツテハ生存競争ハ保生ノ道德法ニ地位ヲ讓レリ。(三)人ニ在ツテハ智力自然淘汰ノ地位ヲ占ム。(四)意力主位ヲ得テ始メテ全キ人タルモノニテ人ハ他ノ勢力ニノミ從ハズ却ツテ己レ自ラ一個ノ勢力トナル。(五)人ハ充分ナル反省的意識ニ達ス。(六)人ニ在ツテハ良心禽獸ニ於ル嗜慾ノ地位ヲ占ム。(七)禽獸ガ本能上ノ美德ハ人ニ在ツテハ意思ト良心トニ因テ直正ノ道德トナル。(八)人ハ上帝ヲ識ルヲ得。(九)人類ノ變遷進退ハ凡テ其自由ノ中ニ在リ。(十)人ハ心靈アルヲ認メ且ツ自ラ之ヲ實ニス

第二 必須ヨリ出ルノ進化ト自由ヨリ出ルノ進化ト相反セ

ル現象

(一)人ハ能ク其境遇ヲ變ズ又其境遇ヲ造ルノ傾向アリ而シテ頗ル之ヲ成就スルガ故ニ境遇ヲ進メ境遇ヲ保ツノ力アリト雖ヒ禽獸ハ唯ダ己ヲ其境遇ニ適合スルノミニテ之ヲ左右スルノ力ナシ。(二)人ハ其自由ニ因テ乃チ意思ト道德法トニヨツテ進歩スレヒ禽獸ハ唯ダ自然法ト境遇ノ下ニ進歩ス。(三)人ハ能ク自ヲ反省シテ其知識ヲ組織シ又之ニ從フテ推論スレヒ禽獸ハ然ル能ハズ唯ダ其一端ヲ有シ未然ヲ察スルノ本能アルノミ。(四)人ハ管理ノ力ヲ有スレヒ禽獸ハ唯ダ從屬者ナリ。(五)人ハ無限ノ實在者ヲ識ツテ之ヲ崇拜スレヒ禽獸ハ然ラズ。(六)人ハ造化ノ終局ニシテ萬物ノ目的ナリ禽獸ハ其進歩中ニアル一階梯ナリ終局ハ階梯ト同キヲ能ハズ(センチユリ|雜誌一八八六年第二卷百十七及百十八頁ヲ見ヨ)

大英國顯微學會ノ會長リオチル、エス、ピール氏ハ千八百八十

一年ニ於テ左ノ如ク公言セリ曰ク

- (一)有生物ガ呈スル諸顯象ハ少シモ物質ニ基ク所ナク又生活作用ハ全ク無生物質ノ作用ト異ナル別種ノモノナル也
- (二)生物類ノ最モ下ク最モ簡單ナルモノト雖ヒ其活機ノ顯象ニ至ツテハ敢テ高等生物ニ讓ラズ共ニ遙ニ無生物質ノ變化ト異ル所アリ
- (三)生命力ハ未ダ曾テ無生物ヨリ進化シタルヲモナク進化セシムルヲモ能ハザルモノニテ又無生物間ニ起ル變化ヨリ生ズル結果ニモ非ラズ却テ物質變化ヲ誘導左右スル力アルモノナリ
- (四)生物類ハ漸々等級ノ下ルニ隨フテ無生物ニ近ヅキ最下ニ至テハ無生物ト相隣スルトスル論ノ如キハ未ダ學術上事實ノ認めザル所ニ在リ

(五)生物ノ性質ト無生物ノ性質トノ間ニハ互ニ近似スル所アツテ所謂生物ノ性質ニシテ所謂無生物ノ性質ト共ニ同種ノ階級ニ属スルヲ信セシメンガ爲メニ種々ノ論說ヲ試ミタルモノアレヒ皆事實ニ於テ不可アルガ故ニ學理ニ反スルモノタルヲ免レザルナリ

(六)活機ノ顯象ハ全ク物質力乃チ器械作用親和作用等ト其性質ヲ別ニシ二者ノ間更ニ類似スルモノナシ

(七)人間方今ノ知識ニテハ過去ニ属スルト現在ニ存スルトニ論ナク一切生物ハ皆直接ニ無生物ヨリ生シタルモノニモアラズ又間接ニ無生物ヨリ其力ト性質トヲ得タリシモノニモアラズト論結スルヲ以テ正當トナス

生命ハ運動ナレヒ一種奇異ナル運動ニシテ内ヨリ自ラ生起シ且ツ自ラ作新スルノ力アル運動ナリ之ヲ生ズルモノハ何

ヅヤスベンセル氏曰ク生命トハ内部ノ關係ト外部ノ關係トノ間斷ナキ調和ナリトサヲバ其内部ノ關係ハ如何ニシテ起リシヤ其外部トノ調和ハ如何其調和ノ間斷ナキハ如何之ヲ終フルニ生命活機ノ事タル到底唯物說ノ解明シ得ザル所ニ在ル此ノ如キナリ

第四項 無神進化論ノ困難

今マ無神進化論ノ勇者ヘツケル氏及ヒ氏ガ亞流ノ人々ガ唱フル所ニ從ヒ造物主ノ加工ナクシテ生物ハ皆自ラ初元ノ「モチ」ヨリ發達シ來レルモノトセバ如何是レ亦困難アルヲ免レズ論者ハ一ニ生物ノ變遷轉化ヲ以テ境遇遺傳及ヒ自然淘汰ノ理法ニ基クト爲セヒカノ目モナク胃モナク結構サヘナキ微小ノ「モチ」ヨリ漸々進ンテ遂ニ禽獸トナリ人トナルニ至ラシムルユトハ決シテ境遇遺傳淘汰等ノ能スル所ニ非ザ

ルナリ抑モ境遇ハ變化ヲ生ズルノ機會タルニ足ルト雖モ其
原因タル力ナキヲ明カナリスベシセル氏曰ク凡ソ生物形狀
ノ變化ハ其種子ヲ包衣セル粘膜ガ四周ノ流液ニ浸潤スルニ
因ルト粘膜ノ能タル唯ダ種子ヲ保護スルニ止リ其形狀ノ變
化ニ與カル力ナキハ恰モ卵殼ガ離子ノ形狀ニ於ケルト一般
ニシテ氏ガ云フ所ノ如クナラザルヲ如何セン氏又曰ク水能
ク有機体ニ入ツテ變化ヲ生ズ可キ物質ヲ輸ルト是レ猶ホ生
物ガ取ル所ノ食品其ノ變化ヲ生ズト云フニ同シ食品主働者
ニシテ生物却テ受働者タリ食品主因ニシテ生物却テ客因タ
リト云フモノナリ甚ダ謂レナキ言ナリトス遺傳ニ至ツテハ
唯ダ前者ノ有スル所之ヲ後者ニ傳フヲ得ベキノミ何ゾ變化
ヲ生ズルノ力アラソヤ自然淘汰ニ至ツテモ亦等シク變遷轉
化ノ原因タル力ナキナリ故ニ變化ノ起ル必ズヤ毎ニ之ヲ生

シ之レヲ運用スル有心原因アラザル可ラズ蓋シ淘汰ノ法ハ
變化ノ始メニ在ツテハ全ク其力ヲ用ユル所ナキニ似タリ例
セバ耳目乳腺等其始メテ起リシ時ハ如何如何シテ其形狀ヲ
得ルニ至リシヤハツクスレ一氏ハ眼目ノ造化ヲ以テ無限ノ
調和ヨリ成レリトスレモ其調和ヲ來タセルモノハ果シテ何
者ナリトセンヤ且ツ軟体動物ガ當初脊骨ヲ有スルニ至リシ
原因ハ如何其完具スルニ至ルマデ乃チ中間一千代ノ生物ニ
ハ甚ダ不便ナルモノナリシナラン水生動物ノ當初脚ト肺ト
ヲ有スルニ至リシ原因ハ如何其不完全ナルノ間ハ生物ノ爲
メニ大ニ障害ヲ爲セシヲナルベシ此等ノ諸點ヲ考フレバ吾
人ハ愈々境遇遺傳淘汰法ノ全ク生物變化ノ原由ヲ説明スル
價值ナキヲ見ルナリ且ツ夫レ淘汰法ハ假令ヒ生物類ヲ保存
スルノ力アルモ生物類ヲ生ズル能ハザルナリ淘汰法ハ形狀

色澤ノ艶美ナル原由ヲ説明スル能ハズ淘汰法ハ介殼裏ニ陰
 存スル美麗ノ原由ヲ説明スル能ハズ淘汰法ハ其淘汰力ノ由
 來ヲ説明スル能ハズ淘汰法ハ卵ノ發達ヲ説明スル能ハズ子
 ノ生産ヲ説明スル能ハズ變災ニ應ズル爲メ種子發生ノ夥多
 ナル事實ヲ説明スル能ハズ適種生存ノ性質ヲ説明スル能ハ
 ズ又此ノ主義ニ基ケル變化ニシテ少シモ生物生存ノ方便ニ
 關係セザルモノアリ例セバ鳥ノ羽色ノ如キ、羽色ニヨツテ其
 配ヲ撰ブ所ノ鳥ノ嗜好ノ如キ淘汰法ノ説明スル能ハザル所
 ナリ且ツ其配虫ガ決テ見ルニ及バザル昆虫ニシテ美麗ナル
 形狀色澤ヲ有スルモノアリ是レ亦淘汰法ノ説明スル能ハザ
 ル所ナリトス若シ變化ヲ以テ物質ノ奇戲ヨリ偶然ニ起ルト
 セバ淘汰法ハ或ハ其變化後ノ消長如何ヲ左右スル力アルニ
 モセニ畢竟變化ノ原由ニ至ツテハ淘汰法ノ説明スル能ハザ

ル所ナルガ故ニ吾人ハ他ニ進化ノ大原因アツテ毎ニ之ヲ選
 用スルモノト信セザルヲ得ズ殊ニ發達進化ノ常ニ一方ニ向
 ヒテ變セザルノミナラズ常ニ上方ヲ望ンテ進ムガ如キ之ヲ
 如何ゾ偶然ノ結果ナリトスルヲ得ンヤ
 尙ホ詳ニ此問題ヲ察スレバ吾人ハ益々困難ノ積堆スルヲ見
 ルノミ地球上生物種類ノ繁多ナル千万モ啻ナラズ然ルニ皆
 同一ノ「モチテ」ヨリ發達シ來レリトハ果シテ如何、如何シテ軟
 体動物ヨリ關節動物ニ至リシヤ、如何シテ關節若シンバ軟体
 動物ヨリ脊骨動物ニ至リシヤ、如何シテ水生動物ヨリ陸上動
 物ニ至リシヤ陸上動物ガ肺ト脚トノ原由ハ如何、此心ノ諸能
 力ト道德力トヲ有スル人類ガ如何シテ禽獸ヨリ發達シ來レ
 ルヤ人類ガ道理的ノ精神ハ如何、人類ガ直覺的ノ理性ハ如何
 人類ガ有スル眞理、正義、完全、善徳、絶對等凡テ道理的ノ觀念ハ

如何、概括力ト反省力トハ如何、道理的ノ感情ト動機トハ如何
 學術上ノ知識力ハ如何、審美ノ性アルハ如何、此ノ良心ハ如何
 道徳性宗教性ハ如何、人類ガ道理ニヨツテ其行爲ノ方向ヲ定
 ムル所ノ力ハ如何、人ニシテ若シ適種生存ノ法ニヨリテ禽獸
 ヨリ發達シ來レリトセバ人ニ正不正ノ知覺アルハ如何、既ニ
 前章ニ於テ述ベタル如ク前列ノ諸能力ハ禽獸ノ一モ有セザ
 ル所ナリ禽獸界ハ弱肉強食ノ生存競争中ニ在ツテ絶ヘズ正
 義ノ知覺ヲ得難キ反對ノ方向ニシテ發達シタルモノナリ乃
 チ長久年代ノ間不正主義ノ流行スル適種生存タリシナリ然
 ラバ人ニ在ツテ強者ガ弱者ヲ虐待スルニ方ツテ其不正ヲ感
 ズルハ如何、人ニシテ若シ禽獸ヨリ發達セルモノナラシメバ
 道徳性ノ如キハ全ク反對ノ顯象ナリト云フベシ前章中既ニ
 述ベタル如ク人ノ心ト禽獸ノ智慧トハ其差違タル甚ク大ニ

シテ寧ろ類ヲ異ニセルト云フベキモノナリ禽獸ハ事物ヲ概
 括スル能ハズ事物ヲ比較スル能ハズ禽獸ハ抽象的ノ觀念ヲ
 有セズ又時ヲ計リ數ヲ辨スル能ハズ、例セバ母雞雛ノ一ヲ失
 フモ曾テ之ヲ悟ラザルナリ禽獸ニハ過去又ハ將來ノ念ナシ
 故ニ無生物ハ睡リ禽獸ハ夢ム人ニ至テハ則チ覺メタリト云
 フヲ得可シ實ニ人ト禽獸トノ間ニハ天地雲壤ノ隔絶アリハ
 ックスレ―氏曾テ云ヘルヲアリ曰ク物理ノ顯象ヨリ思想ノ
 顯象ニ渡ラント試ムルニハ吾人ガ方今ノ智力ヲ以テ到底解
 明シ得ザル大問題ノ其間ニ横ルアリ而シテ又腦髓ノ生理ト
 意識ノ事實トノ間ニハ通行ス可ラザル隔絶アツテ存セリト
 著名ナル有神進化論者ワ―レ―ス氏モ亦曰ク人ノ高尙ナル
 諸能力ヲ以テ進化ニヨツテ來レリトスルハ全ク考フ可ラザ
 ルヲタリト蓋シ道義學ハ唯物進化論ニ在ツテハ立ツ可ラザ

ルモノナルナリ何トナレバ弱肉強食優勝劣敗ハ進化ノ眞面目ニシテ力ハ即チ權利ナリトハ吾人ガ有スル唯一ノ條規ナレバナリ然レモ是レ全ク人ノ道德性ニ反スルチ如何センヤ
 カノニウオルレアンノ藥買チ見ユ熱病頻ニ其毒チ逞スル時ニ方リ他人ハ皆之チ他處ニ避ケヌレモ獨リ己レガ去ル可ラザルノ義務アルチ感シ病威猖獗ノ中ニ止ツテ敢テ去ラズ
 遂ニ之レガ爲メニ死スルニ至レリ又テキザス州 ガルウエス ト ノ グ リ フ イ ン 將軍チ見ユ氏モ亦熱病流行ノ時ニ際シ部下ノ士官等ガ之チ安全ノ地ニ避ケヌト勸メタルニモ拘ラズ
 病ノ爲メニ將ニ死ナントスル兵士等チ棄テ己レ獨リ安全ノ地ニ避クルニ忍ビズ遂ニ止ツテ移ラズ依テ病チ得テ死セシ
 ニ非ズヤ又彼ノ鐵道機關手ノ一人ノ如キ列車衝突ノ際身チ車外ニ投ズレバ容易ニ生命チ救ヒ得ベカリシニ拘ラズ己レ

ガ職分チ守ツテ敢テ去ラズ甘ヨテ自ラ死ニ就キシニ非ズヤ
 其他斯カル類例ハ千万モ畜ナラザルモシ而シテ是レ皆進化
 發達ノ主義ニ反スルモノナレモ其良心ニ於テ嘗テ一人ノ之レ
 チ非トスルモノナク却ツテ全世界チ舉ゲ皆之レチ善ナリト
 シテ賞賛置カザルニ非ズヤ斯カル良心ハ果シテ何處ヨリ起
 レルヤ

畢竟唯物進化説チ採ルノ結果タル必ズヤ道德上ノ制限チ破
 壞シ不良ナル情慾チシテ益々其運動チ逞セシムルニ歸セン
 ノミカノ虛無説ノ如キハ乃チ是好例ニシテ神ノ念正義ノ念
 等チ人心ヨリ剝去スルチ以テ其條規トナセルモノナリ然
 レモ人類ガ良心ト道德的ノ直覺トハ依然トシテ存在シ決シ
 テ其奪フ所トナラザルナリ是レ實ニ進化説ノ説明スル能ハ
 ザル所ニシテ又破壊スル能ハザル所ナリトス

其シ假リニ造物主ノ加工ナクシテ生物ハ皆「モチヲ」ヨリ發達
 シタルモノトスルモ其時期ニ關シテ甚ダ合ハザル所アリ一
 千万乃至一千五百万年前ニハ地球未ダ固形体トナラズ熔流
 塊ノ如キ有様タリシトハ左ノ証據ニヨツテ明カナリ
 一ニ曰ク太陽ハ絶ヘズ温熱ヲ發散シテ自ヲ冷却スルモノナ
 ルガ其冷却ノ速度ヲ算スルニ地球凝結以來太陽ノ地球ヲ温
 ムル未ダ一千万乃至一千二百万年ニハ過ギザルベシ
 二ニ曰ク地球モ亦間斷ナク寒冷ニ趣クモノナルガ其冷却ノ
 度ヲ以テ算スレバ熔流塊ノ有様ナリシヨリ今ニ至ルノ間ハ
 長クトモ一千五百万年ニ過ク可ラズ
 三ニ曰ク地球兩極ノ平ナルハ其自轉ノ致ス所ナリ而シテ潮
 水ガ地球自轉ノ力ヲ妨害スル度ニヨツテ之ヲ推セバ地球ノ
 固結体タリシハ凡ソ一千万年ノ内ニ在リトス

今此短少時間ハ造物者ノ力ニ因ラズンバ進化説ガ唱フル所
 ノ變遷轉化ヲ生ズルニ足ラザルナリ吾人ガ經驗觀察ノ及ブ
 期限内ニ在ツテ生物種類ノ少シモ變化セザリシ事實多キニ
 ヨツテ之ヲ推セバ猿ヨリ人ニ至ルマデニハ必ズ無數億万
 ノ年限ヲ要シタルヲ知ルナリエシアト國及ヒアシリヤ國ノ
 遺碑ニ描ケル動植物ノ形狀ハ三千乃至四千年後ノ今日ニ存
 スル動植物ノ形狀ト少シモ區別ス可キ所ナク又最古岩層ノ
 中ヨリ發掘シ得タル化石動物ノ種類ニシテ今日尙ホ存在ス
 ルモノアレドモ其形狀ヲ比較スルニ數百万年ノ間些少ノ變
 化スラアラザリシヲ見ルナリカノ軟体属ナル「リソギユラ」ハ
 既ニ幾數百万年前「パレオゾイック」年代（地質年代ノ初期ニシテ介蟲時代
魚類時代及ヒ石炭時代ヲ含メリ）
 ノ岩層中ニ見ハルレモ現今ノ「リソギユラ」ト其殼ノ異ナル所
 甚ダ稀ナリトス此等ノ事實ニヨリテ之ヲ推セバ「モチヲ」ヨリ

遂ニ人タルニ至ルニハ億万無數ノ年代ヲ要セシテ明瞭ナリ
 ト云フベシ其他進化説ノ説明スル能ハザルモノ甚々多シ最
 古ノ化石動物ナル「ツライロバイト」ニハ完具セル眼目アリ進
 化説ニ據バ漸チ進ム可キモノナルニ今遽ニ完全ナル眼
 目アルハ何ゾヤ是レ如何ニシテ生セシヤ「シルリヤン」(時代)
 層ニハ軟体動物ノ化石甚々多ケレモ有脊骨水生動物ノ化石
 一モアラザルニ其上層「ブヅチニヤン」(魚類時代)ニハ完全ナル魚類
 ノ化石一百餘種アルニ至ル又「パレオゾイック」年代ト「メソゾイ
 ク」年代(地質年代)トノ間ニハ一層甚々シキ變化アリ「パレオゾイ
 ク」層中ニハ吸水動物ノミナレモ「メソゾイック」層中ニハ吸氣
 動物アリ乃チ魚類ヨリ遽ニ爬虫ニ進ミシナリ吸氣動物ノ肺
 ハ如何ニシテ生ズルニ至リシヤ且ツ化石中ニモ現存生物中
 ニモ猿ト人トノ中間ニ位スル動物ナキハ如何、無神進化論ノ

主張者「ヘケル」氏ハ「モナド」ヨリ人ニ至ル二十二階ノ段級ヲ圖
 シ而シテ其内第二十一階乃チ人ト猿トノ中間ニ位スル動物
 ノ化石中ニモ現存生物中ニモアラザルノ故ヲ以テ或ル大陸
 ノ地心ニ沈落セルヨリ其種類ノ之レト共ニ滅亡シタル爲メ
 ナリト爲ス然レモ他ノ段階ノ諸生物ハ世界中何レノ處ニモ
 存在セザルナキニ獨リ此ノ種類ノミ一ヶノ場所ニ存在セシ
 トハ甚々解シ難キ「ナラズヤ」何ニガ故ニ此種類ノミ獨リ一
 所ニ止ツテ他方ニ散セザリシカ又若シ進化ニシテ間斷ナク
 常ニ生ズルモノナラシメバ此種類ノミ獨リ現存セザルハ何
 故ゾヤ世界何レノ處ニカ人猿ノ住セザル所アラソ然ルニ獨
 リ此ノ中間動物ノミ現存セザルハ如何、太古人類ノ頭腦ハ今
 日中人ノ頭腦ト同ソク現今最下等人種ノ頭腦ハ最モ高等ナ
 ル文明人種ノ頭腦六分五ヨリ小ナラズ然ルニ最モ人ニ近似

セル猿ノ頭腦ハ唯ダ僅ニ中人平均頭腦ノ三分一ニ過ギズ甚
 シキ懸隔ト云フベシ何ゾ中間ノ種類ナクシテ遽ニ猿ヨリ人
 ニ至ルヲ得ンヤ人類ガ有スル道德性ノ原由ニ關スル困難ハ
 暫ク之ヲ言ハザルモ人ト禽獸トノ間ニハ既ニ非常無限ノ隔
 絶アツテ未ダ曾テ一人ノ之レガ説明ヲ爲シタルモノナシ方
 今第一流ノ博士等ハ皆曰ク人体ノ結構形狀ト猿体ノ結構狀
 トノ間人ノ筋骨ト猿ノ筋骨トノ間ニハ本來殊別ナル差違ア
 リテ皆各ニ殊別ナル適用ヲ呈セリ例セバ猿ノ足骨ハ攀援ニ
 適シ人ノ足骨ハ歩行ニ適シ人ノ内臟ハ肉食ニ適シ猿ノ内臟
 ハ菜食ニ適ス故ニ人ハ猿ヨリモ寧ロ虎獅ノ類ヨリ進化セリ
 トスルノ理アルヲ見ルト他ノ禽獸ノ内ニハ其智慧猿ヨリ優
 ルモノ數多アリ故ニ若シ人ノ智力ニシテ禽獸ヨリ進化シ來
 ルモノナラシメバ猿ヨリセズシテ寧ロ他ノ動物ヨリ來ル可

キ理ナルニ非ズヤ

前列ノ難點ヲ避ケントシテ説ヲ爲ス者アリ曰ク進化ナルモ
 ノハ間斷ナク漸々常ニ生ズルニ非ズシテ時々急速ニ起ルモ
 ノナリト然レモ此説ヲ証ス可キ類別絶テアルトナク偶々之
 アリトスルモ万中ノ一ニ過ギザルナリ而シテ其万中一ノ變
 化ト雖モ人工ヲ用ユルニ非ズンバ決シテ永ク繼續スルヲ能
 ハズ忽ニシテ原種ニ復歸スルモノマリ又中間雜種ノ動物ハ
 多クハ子ヲ産スルノ力ナク若シ能ク子ヲ産スルアリトモ其
 子ハ必ズ原種ニ復ルガ故ニ偶然ニ生ゼシ種類ノ永ク繼續ス
 ルトハ甚ダ稀ニシテ僅ニ千中ノ一タルノミカノ家畜類ニ在
 ツテハ人工ニヨツテ大ナル變化ヲ生シ往々別種ノ如クナラ
 シムルヲ得ルヲアレモ若シ之レガ注意ヲ怠リ其自然ニ放任
 スルトハ直ニ其原種ニ復ルモノニシテ其復ルヤ一舉ニ在ル

ガ如シ數百年間ノ動物ヲ觀察スルト雖モ數百万年ニ跨ル化
 石動物ヲ點檢スルト雖モ未ダ曾テ一種族ノ他ノ種族ヨリ進
 化シ來ルノ証跡ヲ得ルヲ能ハザルナリ之レニ由テ之ヲ觀レ
 バ急速進化ノ說ハ人類ガ万有ニ就テ觀察スル所ノ事實ニ反
 スルモノト云フ可シ現今俊秀ノ物理學士ニシテ有神進化論
 者ノ一人タル博士レユント氏曾テ其著科學ト宗教ノ關係十
 ル書ニ於テ云ヘルヲアリ曰ク今日地質學ノ証スル所ニ依レ
 バ生物類ハ皆各々其完全ナル形狀官能ヲ具ヘテ一時ニ生出
 シ此ノ如クニシテ生存シ此ノ如クニシテ絶滅スルモノニシ
 テ其間敢テ多少ノ進化アラザルニ似タリト若シ眞ニ種類ヨ
 リ種類ニ進化シ遂ニ人類ニマテ至リシモノナリトスルモ人
 類ガ地球上ニ出生セシヨリ以來發達進化ノ運動ハ既ニ其歩
 ヲ止メタルモノ、如ク早ヤ無生物ヨリシテ生物トナルモノ

ナク下等動植物ヨリシテ高等動植物トナルモノナク動物ヨ
 リシテ人類トナルモノナシ誰カ此ノ變化ヲ起シ誰カ此ノ變
 化ヲ止メザリヤワルテンブルグノ博士トルフ、シミット氏
 ガ著ハセルダルウイン說ノ評論ニ曰ク吾人ガ觀察經驗ノ及
 ブ所ヲ以テスレバ凡ソ生物ノ種類ハ皆各々同様ニ繼續スル
 モノニシテ數千年間少シモ變化スルヲナシ蓋シ人類ノ世ニ
 出現セシヨリ以來種類變遷ノ勢力ハ既ニ其作用ヲ斂メタル
 一明カナリト夫レ此ノ如ク學術モ亦万物ノ安息ヲ告白スル
 一恰モ創世記ニ誌ス所ト異ルナシ豈ニ奇ナリト云ハザルベ
 ケンヤ
 予ハ今茲ニ無神進化論者ガ陷リシ誤謬ノ点ヲ掲ゲテ以テ讀
 者ノ注意ヲ惹カント欲ス
 第一 論者ハ定法乃チ諸現象ノ間ニ存スル整理秩序ヲ審明

シテ之ヲ叙述スルヲ以テ既ニ其現象ノ原因ヲ解説シタルモ
 ノナリトナス例セバ引方法ノ如キ是レナリ
 第二 論者ハ万有ノ運動ヲ指揮スル有心者アリトスル思想
 ト万有ニハ一定ノ法則アリトスル思想トハ両立ス可ラザル
 モノトナス
 第三 論者ハ諸現象ノ間ニハ互ニ原因トナリ結果トナルノ關
 係アリテ目的ニ達スルガ故ニ之ヲ企圖セシ造化ノ主アル可
 ラズトナス詩人シルレル氏ガ「ドンカロス」ヲ評セル言ニ曰ク
 「天地ノ主ナル神ハ、長久ニ、變ラヌ、定法ノ、其裏ニ、匿レ給ヘバ、懷
疑者ハ、唯ダ定法ヲノミ、見ルカラニ、定法ヨリ外ニ、世ニハ亦、神
テウモノノ、アヲシトゾ、口ヲ極メテ、叫ビケン、サハサリナガラ、
昔ヨリ、神ヲ敬フ、人々ノ、讚美ノ歌モ、讚美ノ詩モ、今此人ノ、言ノ
業ノ、神ヲナミセル、言ノ業ノ、實ニ巧ク、神ヲマ、ヘツル、モノニ

ハナドテ、及ブベキヤハ」ト恰モ善ク此ノ誤謬ヲ点出シタルモ
 ノト云フベシ

第四 論者ハ主觀的ノ情狀ヲ誤認シテ客觀的ノ原因トナス
 例ハバ境遇ヲ以テ發達進化ノ原因ト爲スガ如キ是レナリ今
 進化説ニ依レバ陸上動物ハ水生動物ヨリ進化シ來リシモノ
 ナリサラバ其肺ト脚トハ如何ニシテ生ゼントセンヤ豈ニ肺
 ト脚トノ原因ヲ以テ水生動物ガ境遇タル水ニ歸スルヲ得
 ヘケンヤ
 第五 論者ハ客觀的ノ情狀ヲ誤認シテ原因トナス例ハバ介
 類ノ石灰水中ニ成長シ「シリカ」種ノ樹木ハ「シリカ」種ノ土ニ成
 長スルガ如キ是レナリサレドユハ唯ダ情狀ニシテ原因ニハ
 非ラザルナリ
 第六 論者ハ生物ノ諸機關ヲ以テ其動作ニヨリテ進化シ來

ルトナシ生物ノ諸能力ヲ以テ其作用ニヨリテ發達シ來ルト
ナス

無神進化論ノ困難ナル此ノ如ク多キヲ以テ之ヲ見レバ方今
學士中ニ顧慮シテ容易ニ之ヲ信セザルモノアルモ固ヨリ當
然ノ事ニシテ或ル人ノ如キハ上帝アツテ之レガ始ヲナシ而
シテ常ニ之ヲ運用スルニ非レバ進化ハ決シテ起リ得ベキニ
アラズト云フニ至レルモ敢テ亦怪ムニ足ラザルナリ博士レ、
ユント曰ク凡ソ宇宙ノ物生物ニアレ死物ニアレ動物ニアレ
植物ニアレ各々其進化スル所以ノモノハ皆絶ヘズ神力ノ之
ニ流瀉スルヨリ起ルニ非レバ能ハズト又曰ク若シ既ニ悉ク
進化ノ要素ヲ知り得タリトスルモノアラバ是レ寧ロ其知識
ノ淺薄ナルヲ表スルモノニシテ吾人ハ之レト同意スル能ハ
ザルノミナラズ却ツテ之レニ反シ要素中ノ最モ重ク最モ大

ナルモノニ至ツテハ未ダ吾人ノ識ルニ及バザル所ニシテ或
ハ古今哲學者ノ夢想ニダモ達シ得ザリシ重大ナル要素ノ存
スルアラフヲ確信スト(スチューアルト氏勢)メルリンノ博士ヴ
ナルチヨ一モ嘗テ千八百八十四年エヂンバルグ大學ノ三百
年期記念式ノ時ニ際シ英國及ビ歐洲大陸ノ諸學士ガ集會セ
ル所ニ於テ進化説ハ未ダ學術上ノ基礎ヲ有セズト斷言シタ
リ(千八百八十四年七月八月)而シテ又彼ノ人類ヲ以テ猿ヨリ進
化シタルモノトスル説ニ關シ同氏ハ其意見ヲ日耳曼ノ物理
學士生理學士等ガ集會セル所ニ在ツテ述ベタルヲアリ曰ク
現今ニ至ツテ歴史以前ノ人類ヲ研究スルノ學大ニ進歩ヲ加
ヘタリト雖モ其ノ得ル所ヲ以テ之ヲ見レバ此ノ説ノ的實々
ルノ意ヲ証スルヨリモ寧ロ却ツテ此ノ説ヲ非証スルモノナ
リトエール大學ノ博士ハリス氏ガ有名ノ著述タル有神説之

哲學的基本ト題スル書中ニ於テ進化説ヲ評スルノ言ニ曰ク
 予ハ未ダ進化説ヲ見テ既ニ十分其意義ノ解説セラレタル者
 又ハ學術上既ニ確定セラレタル説ナリト思考スル能ハズ之
 チシテ果シテ非常人ノ看破シ得タル真理ナラシムルモ其ノ
 世ニ出ヅル甚ダ近時ノ事ニシテ年ヲ經ルテ最モ短キニモツ
 テ之ヲ見レバ其錯雜不完全ニシテ未ダ適當ノ組織ヲ得ズ僅
 ニ其少部分ノミ幾分カ學術上ノ事實タル價值ヲ得ントスル
 ニ止マルモ固ヨリ亦當然ノ事ナリト云ハザル可ラズト博士
 チンダル氏モ亦曰ク凡ソ吾人ガ上ニ在リ下ニ在リ左右ニ在
 リ前後ニ在ルモノ一トシテ不可思議ナラザルハナク皆將タ
 吾人ノ解スル能ハザル所ニシテカノ心身關係ノ問題ノ如キ
 ハ學術隆興ノ今日ニ於ケルモ猶ホ古昔人知ノ未ダ開ケザリ
 シ時ト同ク其ノ難易少シモ異ナル所ナク古今等シク未ダ

一人ノ能ク之ヲ解釋シタルモノアラザルナリ今人アリ予
 ニ問フニ學術ハ既ニ能ク宇宙ノ問題ヲ解釋シ得クヤ若シ
 未ダ然ラザルモ今日ニ於テ之ヲ解釋シ得ルニ至ル可キ乎
 チ以テセバ予ハ勿論頭チ左右ニ振ラザルヲ得ズ夫レ假定的
 ノ學説ト確定的ノ學説トハ明白ニ區別セザル可カラズ而シ
 テ進化説ハ尙ホ假定的ノ時期ニアルガ故ニ排斥ノ難ハ到底
 進化説ノ上ニ懸ル可キ者ナリト且ツ同氏ガメルフハスト演
 説ニ云ヘルコトアリ曰ク万有ヲ觀察セバ人爲ヨリモ更ニ高等
 ナル熟練知識ノ表象アリ是レ無神説ヲ以テ答フル能ハザル
 疑問ナリ蓋シ宇宙進化ノ全舉動タル畢竟人知以外ニ存スル
 不可思議力ノ表現セルモノニシテ太初混沌タリシ物質ヨリ
 生物ガ有スル生命ノ如キ人間ガ有スル心智ノ如キモノ、發
 達進化シタルハ皆此ノ不可思議ナル靈力ノ作用ニ原因スル

ナリト數年前ロンドンノ「ヴィクトリア」哲學會員ニハ進化説ノ趣旨ヲ周チク討究シ其徵証ヲ悉ク稱量シテ之レガ報告ヲナサシメンガ爲メニ委員ヲ撰定セシガ「ローヤルソサイ、ティー」(學士會)ノ會員博士スト「J」クス同會ノ副會長サー、マエー、アー、ル、ベンチット及ヒ同會ノ會員ニシテ又顯微學會ノ會長タル博士リオチル、エス、ピールノ三氏其ノ撰ニ當レリ今三氏ガ報告ノ結論ニ曰ク人類ヲ以テ下等動物ヨリ進化シタリト云フ説ニ至ツテハ絶テ之ヲ支フ可キ學術上ノ證據ナク幾分カ之ヲ贊スル如キ證據ヲスラ發見スルユト能ハザリキ博士ヴチルチヨーハ人ト他ノ動物トノ中間ニ位ス可キ化石動物ノ絶テアラサルヲ述ベ而シテ又太古人類學ノ達シ得タル進歩ハ大ニ人ト他ノ動物トノ間ニ斯ル關係アルヲ非証シタリト云ヘリ古生物學ノ大家博士バラントモ亦同ク其研究セ

シ所ニ於テハ未ダ一ノ種類ヨリ他ノ種類ニ發達シタル化石動物ヲ見タルヲナシ之ヲ終フルニ學者中未ダ一人ノ能ク人ト猿トノ間魚ト蛙トノ間脊骨動物ト無脊骨動物トノ間ニ一致結合ノ線路アルヲ發見シ得タルモノナシ加之ナラズ化石中ニモ現存生物中ニモ新種類タラントシテ從來有スル所ノ性質形狀ヲ失ヒ更ラニ他ノ性質形狀ヲ得ントスルモノアルヲ見ズ例ヘバ狗ト狼トノ如キ甚ダ近似セル動物ナリト雖此尙ホ其間ニ相ヒ通ズル一致ノ点アラザルナリ且ツ當初地球ニ生存セシ動物ハ現今ノ動物ニ比シテ決シテ下等ナルモノニ非ザリシナリト博士ルドルフ、シミットガ「ダールウイン」説ノ評論ニ曰ク遺傳説淘汰説進化説ノ如キハ未ダ確定説トナラザルモノニシテ今尙想考ノ列ニ在リト而シテ氏ハ自然淘汰説ヲ以テ到底想考ノ列ヲ出デザルベシト思考セリ

當今日耳曼第一流ノ學者エドワード、ヴォン、ハートマン氏ハ「タルウイソ」説ノ眞偽ト題スル著書ニ於テ云ヘラク「タルウイソ」説ノ勢力ハ早ヤ既ニ日耳曼ニ在ツテハ其極點ヲ過ギ今將ニ衰ヘントスルノ徴候アリト

クラークマックスウエル曰クアラユル無神論ヲ研究シタレバ凡ソ如何ナル無神論ニテモ有神論ヲ離レテ立テ得ベキモノハ一モアラザルユトヲ發見シタリト、物理ノ大家ヅボイノモント氏ハ數年前メルリンノ物理學會ニ於テ云ヘル「アリ」曰ク今解ス可ラザルノ問題七箇アリ、第一物質及ヒ勢力ノ存在スル、第二運動ノ本源、第三生命ノ原由、第四万有中ニ意匠アルノ顯然タル證據、第五知覺力ノ起源、第六論理的ノ思想及ヒ言語ノ起源、第七意思ノ自在力是レナリト、吾人ハ尙他ノ困難ヲ加フヲ得ベシ例ヘバ宇宙万有ノ間ニ存スル企圖意匠秩

序調和ノ如キ古今万国ノ人々ガ皆造物主或ハ一種高等ナル力ノ存在スルヲ信ズル「ノ如キハ如何無神論者ハ將ニ何等ノ説ニ依ツテ此ノ疑問ヲ解セントスルヤ論者ノ困難モ亦夥多ナリト云フベシ吾人ハ猶ホ後章ニ於テ此等ノ事實ニロツテ以テ直接ニ造物主ノ存在スル所以ヲ詳論スル「アルベキガ故ニ暫ク茲ニ之ヲ畧ス

第三章

ソハ万物ハ彼ヨリ出デ彼ニ依リ彼ニ歸レバ也(羅馬書十一〇三六)

天地万物ノ大原因タル上帝存在ノ第二証

上帝存在ノ説ヲ以テセバ前章ニ列舉シタル諸般ノ困難ヲ解釋シ又如何ナル問題ニテモ解釋シ能ハザルモノナキニモツテ之ヲ証ス

吾人ハ前章ニ於テ無神説ノ虚誕ニシテ更ニ事實ニ適當セズ
 爲メニ無數ノ問題ヲ解釋シ能ハザル所以ヲ論述シタリシガ
 今轉シテ造物主存在ノ説ヲ採ラバ能ク諸般ノ困難ヲ解釋シ
 去ルノミナラズ又能ク事實ニ適當シ如何ナル問題ニテモ解
 キ得テ分明ナラザルハナシ以テ物質存在ノ原由ヲ説明スベ
 シ以テ宇宙運行ノ起源ト其ノ繼續スル所以トヲ説明スベシ
 以テ生命ノ由來ヲ説明スベシ以テ生子ノ作用ヲ説明スベシ
 以テ人類ノ由來ヲ説明スベシ以テ進化説ガ解明スル能ハザ
 ル諸般ノ疑問ニ答フベシ實ニ有神説ヲ以テセバ適ク所トシ
 テ可ナラザルナク物質ヲ以テ當初上帝ガ太虚無々ノ中ヨリ
 創造セシモノナリトスルモ或ハ假ニ物質ヲ以テ永遠ノ過去
 ヨリ上帝ニ支持管轄セラレテ上帝ト共ニ存在セシモノナリ
 トスルモ何レニシテモ其存在スル所以ヲ理解スルニ於テ困

難アルコトナシ又天地万物ノ造化ヲ以テ太初ノ原子ヨリセリ
 トスルモ若クハ之ヲ太初ノ火雲フワイルミストヨリセリトスルモ共ニ等シ
 ク其ノ原子其火雲ノ原由ヲ理解シ得ベキナリ而シテ既ニ前
 章ニ舉ゲタル如ク衛星ハ惑星ニ墮チ惑星ハ恒星ニ墮チ恒星
 モ亦其ノ中心ニ墮チ相ヒ墮チ相ヒ合シテ天体皆一所ニ集合
 シ宇宙ノ運行茲ニ絶滅セントスル如キアラバ上帝ハ必ラズ
 能ク其ノ變動ニ先ンヨ之ヲ支持保存シ之ヲシテ永遠ニ其運
 行ヲ繼續セシムルノ力アリ或ハ之ヲ其自然絶滅ニ委シ更ニ
 再ビ新天地ヲ造リ之ニ運行ノ力ヲ賦與スルモ亦上帝ノ自在
 タルヲ以テ何レニシテモ宇宙運行ノ恒久ナル所以ヲ理解ス
 ルニ於テ更ニ困難スル所ナカルベシ又カノ生子作用ノ不可
 思議ナル等シク同一ノ生子ニシテ或ハ草ヲ成シ木ヲ成シ或
 ハ禽獸ヲ成シ人間ヲ成スユトアリト雖モ上帝ハ凡テ草花木

業ノ中ニモ在リ万有勢力ノ中ニモ在リテ作用ヲナス者ナレ
 バ隠ニ生子ノ内部ニ在ツテ之ヲ向導指揮シテ然ラシムルモ
 ノナル可シ且進化説ノ困難モ之ニ因テ説明スルユトテ得ル
 ナリカノ造物主存在ノ説タル決シテ進化説ガ提出セシ所ノ
 事實ト牴觸スルモノニ非ズ寧ロ大ニ之ト符合スルヲ見ルノ
 ミ請フ聊カ試ニ全能全智ナル造物主ガ天地万物ヲ創造シテ
 之ヲ保持スル所以ノ方法如何ヲ觀察シテ其結果ノ如何ナル
 ベキカヲ見ソ夫レ上帝ハ既ニ全能全智ナルガ故ニ天地万物
 ヲ造化スルニ於テ必ズ元始ヨリ最モ善良ナル方法ヲ知ルベ
 シ既ニ之ヲ知ラバ必ズ之ヲ行フベシ既ニ之ヲ行ハバ必ズ之
 ヲ變易セザルベシ何ゾヤ上帝ハ必ズ最上善良ノ方法ヲ採擇
 スベシ而シテ最上善良ノ方法ハ必ズ唯一ナルベケレバナリ願
 フニ吾人ガ尋常万有法ト名タル所ノモノハ皆唯ダ上帝ガ一

定セル働作ノ様法ニシテ譬ヘバ當初上帝ハ万有ヲ支配スル
 ニ距離ノ二乗ニ反比例シテ増減スル引力ノ法ヲ以テシタリ
 トセバ乃チ是レ万有ヲ支配スルニ最モ善良ナル方法タルガ
 故ニシテ引力法ノ一定不易ナルハ轉タ上帝ガ働作ノ不變ナ
 ルヲ示スモノナリ獨リ引力法ノミ然ルニアラズ凡テ吾人ガ
 物質力ト稱スルモノハ熱ニマレ光ニマレ化合力ニマレ電氣
 力ニマレ磁石力ニマレ如何ナル勢力ニテモ皆唯ダ上帝ガ一
 定同様ナル働作ノ様法タルニ過ギザルナリ又上帝ハ初メニ
 一種ノ生物ヲ創造シ此一種ノ生物ヨリシテ漸次ニ各種ノ生
 物ヲ發達ス可ラシメタリトスルモ或ハ全能ノ力ヲ以テ各種
 ノ生物ヲ皆各別ニ創造シタリトスルモ何レニシテモ各種生
 物ノ互ニ相ヒ近似シテ其間ニ一定ノ連続スル所アルハ上帝
 ガ最良唯一ノ方法ニユツテ之ヲ成就シタルノ証據ナリ蓋シ

最良ノ方法ハ唯一ナルガ故ニ此方法ニ因テ造ラレタル動植物ハ凡テ互ニ近似スル所アラザルヲ得ズ或ハ上帝物ノ複雑繁多ノ觀ヲ呈セシテ欲シ初メヨリシテ全ク殊別ナル四五ノ雛形ヲ採擇シ此雛形ニヨツテ地球上各種万般ノ動物ヲ造レリトスルモ固ヨリ上帝全能ノ自在ニシテ理ニ於テ少シクモ不可ナルナシ然レモ一旦此方法ヲ以テ此動物ヲ造ルヤ後ヲ決シテ其方法ヲ變易セザルベシ何トナレバ最上善良ノ方法ハ必ず唯一ナルベクシテ上帝ハ必ず元初ヨリ最上善良ノ方法ヲ知ルベケレバ也若シ造物ニシテ變易ス可キ所アラシメバ上帝ガ全智ノ徳ニ於テ欠クル所アリト云ハザルヲ得ズ勿論上帝ハ境遇困狀ノ變遷ニ適應セシメシメシガ爲メニ幾分ノ小變化ヲ生ズ可キ餘地アラシムルモ其大体ニ於テハ必ず常ニ一定一樣ナル可ラシムル道理ナリ是レ乃チ各種動物ノ間

ニ一定ノ結構形狀アル所以ニシテカノ理學者進化論者等ガ提出シタル學術上諸般ノ事實ヲ説明スルニ餘リアリトス今一步ヲ退イテ進化論者ノ説ノ如ク地球上千差万別ナル此生物ヲ以テ皆一樣同揆ノ生物ヨリ發達シタリトスルモ有神論ニ於テハ更ニ妨ゲナキノミナラズ寧ロ進化説ノ解スル能ハザル諸般ノ困難ヲモ説明シ得ルヲ見ル唯物進化論ニ在ツテハ射形動物ヨリ軟体動物ニ進ミ軟体動物ヨリ關節動物ニ進ミ關節動物ヨリ脊骨動物ニ進シテノ証據ヲ舉グル能ハザレモ若シ全能ナル上帝アツテ隱ニ其内ニ働キ之ガ變化ヲ生シタルモノトセバ其由來甚ダ明瞭ニシテ更ニ困難アルナシ上帝全能ノ力ヲ用ヒテ以テ關節動物ノ種子ヨリ脊骨動物ヲ造化シタリトセバ脊骨動物ト軟体動物トノ間ニ大ナル懸隔アルト及ビ其兩者ノ中間ニ位ス可キ化石動物ノ絶ヘテア

ラザル所以ヲ理解スルニ於テ何カアランヤ上帝ハ此ノ如クニシテ陸上動物ノ肺ト脚トヲ水生動物ヨリ造化スルヲ得ベク又此ノ如クニシテ人類ヲ猿猴若クハ他ノ動物ノ種子ヨリ造化スルヲ得可キナリ以テ陸上動物ガ肺ト脚トヲ有スルニ至リシ所以ヲ説明スベク以テ人ト禽獸トノ間ニ大懸隔アル所以ヲ説明スベシ之ヲ要スルニ上帝ハ元始ヨリ殊別ナル四五ノ動物乃チ射形、軟体、關節、脊骨ノ四大部ヲ創造シ此ノ四大部ヨリシテ各種ノ動物ヲ發達セシメタリトスルモ若クハ各種各類皆各々殊別ニ之ヲ創造シタリトスルモ等シク進化論者ガ提出セシ學術上ノ事實ト符合スルモノ也言ヲ換ヘテ之ヲ云ハゞ上帝ハ進化ノ方法ニユツテ生物ヲ造化セリトスルモ若クハ各種特造ノ方法ヲ採リシトスルモ何レニシテモ生物ハ互ニ相ヒ近似ス可キ道理ニシテ其結果タル同一ナリ例

ハバ初メニ上帝一種ノ脊骨動物ヲ創造シタリトセユ乃チ是レ後來生ズ可キ脊骨動物ガ雛形豫表ニシテ後來生ズル所ノ脊骨動物ハ何種ニアレタトヒ境遇困狀ノ變遷ニ應フテ多少ノ變化アリ得ベキモ其大体ニ於テハ皆必ず第一ノ脊骨動物ガ有スル結構形狀ノ如クナラザル可カラズ何トナレバ第一ノ脊骨動物ガ有スル結構形狀ハ最上善良ノモノタリシヲ以テナリ故ニ上帝アリトスレバ魚鱗鳥翼獸足人手等ノ皆一種ノ脊骨動物ガ變化シタルモノ、如キ形跡アルモ亦當然ノ事ナルベク敢テ必ずシモ其同一種類ヨリ漸次ニ發達進化シタル所以ヲ証スルモノニハ非ズ又非証スル者ニモ非ズ夫レ或ハ之ヲ証スル者ナル可シ然レモ初メヨリ上帝ガ各別ニ此等ノ動物ヲ創造シタリトスルニ於テ更ニ妨害アルコトナシ既ニ前ニモ云ヘル如ク上帝ハ元始ヨリ脊骨動物ヲ造ルニ最モ善

其ナル方法ヲ知ツテ之ヲ行フベシ而シテ最上善良ノ方法ハ唯
 一ナルベキガ故ニ後チ之ヲ變易スルノ必要アラザル筈ナレ
 バナリ之ト同シク草木ニ在ツテモ上帝ガ最初造リシ所ノモ
 ノハ之ニ次イデ生ズ可キモノ、雛形豫表ニシテ後來生ズル
 モノ、結構形狀ハ必ズ皆第一ノ草木ニ近似ス可キ道理アル
 ナリ斯ク論シ來リ天地万物ノ造化ヲ以テ全能全智ナル上帝
 ノ働作ニ歸セバカノ進化説ガ提出シタル証據ノ如キハ殆ン
 ト全ク其効力ヲ失フニ至レルヲ見ル見ユ吾人ニシテ各種特
 造ノ説ヲ採ルモ進化説ト等シク万物中ニ一定相貫ノ法則ア
 ヲテ一ノ種類ト他ノ種類ト互ニ相ヒ近似スル所以ノ意ヲ説
 明シ能ク學術上ノ事實ト一致符合スルノミナラズ却ツテ無
 神進化説ニ於テ解釋スル能ハザル諸般ノ困難ヲモ説明シ得
 ルナリ

故ニ當今俊秀ノ理學士輩ニハ隱ニ万有ノ中ニ在ツテ常ニ之
 ガ働作ヲ指揮スル心靈力ノ存在スルヲ信ズルモノ甚ダ多
 シスペンセル曰ク物質力ノ恒久無盡ナル所以ノモノハ正シ
 ク人間知識ノ達スル能ハザル一大勢力ノ恒久無盡ナルヲ表
 スルモノニシテ蓋シ此モノタル無始無終無限絶對ノ實在者
 ナリト(元理論二百五十五、六頁)或ハ之ヲ宇宙ノ靈ト云フ者アリツナルベ
 ノ如キハ之ヲ天地ノ心ト名ケハ一トマンハ之ヲ無覺ノ睿智
 ト稱シシユールハ之ヲ無覺ノ意志ト呼ビノイレハ
 之ヲ延長感覺ノ兩性アル元質ナリト云ヒ或ハ自ラ起居進退
 チ決スルノ性アル小魔分子ナリト云フ者アリ日耳曼ノロッ
 ツセープリンストン大學ノマツユツシエール大學ノハリス
 ノ如キ流ノ人々ニ至ツテハ皆曰ク運動物力ノ生ズルハ必ズ
 心靈的主働者アルニ基クナリト吾人ニシテ若シ神アルヲ信

ゼズンバ獨り進化論ニ於テ困難アルノミナラズ運動ノ説ニ至ツテモ等シク亦之アルヲ免レズ引力説ノ如キ乃チ其一例ナリ解スル者ノ曰ク引力ハ物質ノ固有性ニシテ其働クヤ物質自ラ之ヲ成スモノナリト然レモ遠ク離レテ接セザル物体ノ互ニ相ヒ引ケルハ如何是レ物体ハ現在セザル所ニ働ク力ナシト云フ學術上普通ノ確信ニ反セルモノナラズヤ然ルニ物体ハ數百万里ノ遠キモ猶ホ互ニ相ヒ引ケルノミニ非ズ其引ケルヤ常ニ間斷ナク而シテ其量ノ少シモ減少スルヲナキハ如何ン是間斷ナク宇宙勢力ノ分量ヲ増加スル者ニシテ亦勢力保存ノ主義ニ反セリトセザルヲ得ズ且引力ノ作用タルヤ即時即達ニシテ他物ノ中間ニ在ルト在ラザルトニ關係セザルモノ、如キハ更ニ怪ムニ堪ヘズリトス今ラサーシガ解説ヲ引ヒテ以テ一層引力説ノ困難ナル所以ヲ明瞭ニセン氏以

爲ラク至微至細ナル極小分子ノ絶ヘズ周圍ノ外界ヨリ此宇宙ニ流注スルモノアツテ絶ヘズ宇宙間ノ万物ヲ衝撞ス故ニ一物獨り空間ニ在ルニ方ツテハ其衝撞ヲ受クル各部皆同一ナルヲ以テ能ク定正シテ動カザルヲ得レトモ若シ二物相對スルニアラバ各々外面ニハ多量ノ衝撞ヲ受ケ相對スル内面ニハ少量ノ衝撞ヲ受クルガ故ニ二物互ニ相ヒ近クニ至ルモノナリト是其説ナリ然レモ此説ニ依レバ分子ノ衝撞ヨリ生ズル熱ハ如何ナル可キヤ密閉セル器中ノ物体ガ地球ニ向ツテ墜ツルハ何ノ故ナリトセンヤ小ナル重体ノ大ナル輕体ヨリ速ニ墜ツルハ如何又其極小分子ハ何處ヨリ流注シ來ルヤ之ヲ流注セシムルモノハ何者ゾヤ此ノ説タル恰モノノ困難ヲ解カントシテ却ツテ無數ノ困難ヲ喚起スルモノト云フベシ又解スル者アリ曰ク引力ハ空間ニ瀰滿セル「イーサー」(氣精)ニ

ツテ相ヒ感引スルモノニテ猶ホ熱光電氣ノ「イーサー」ニヨル
 ニ同シト吾人ハ之ニ答ヘテ曰ソ「イーサー」ノ原子ハ甚ダ微細
 ニシテ必ズ互ニ相ヒ密着シ居ルモノニハ非ザル可シト若シ
 密着シ居ラバ運動ノ起ル可キ餘地ナカルベク若シ密着シ居
 ラズンバ互ニ相ヒ通ズ可キノ理由ナカラソ物理学者ノ云フ
 所ニ依レバ物質ハ唯ダ外部ヨリノ刺衝ト動力トヲ受クルモ
 ノナルガ故ニ其外部ノ壓力ハ常ニ間斷ナキモノナラザル可
 ラズト物力豈ニ間斷ナキヲ得ンヤ獨リ上帝アツテ絶ヘズ物
 質ヲ運用刺衝シテ此運動ヲ生セシムルトナス説ノミ以テ能
 ク諸般ノ困難ヲ解説シ得ベキナリ
 上帝ガ万有ノ中ニ在ツテ常ニ之ヲ主宰シ給フ所以ノ事實ニ
 至ツテハ博士ハリス氏ガ有神說哲學的ノ基本五百十三葉以
 下ニ詳カナリ讀者就テ之レヲ見バ大ニ裨益スル所アツソ左

ニ述ブル所多クハ其中ヨリ拔萃スルモノニ係ル

第一 天地萬物ハ上帝ノ大能力ニ頼ツテ存在スルモノニテ
 畢竟物質ナルモノハ唯ダ單ニ勢力ノ空間ヲ充塞スル斑點タ
 ルニ過ギズ故ニ若シ此勢力ニシテ其作用ヲ歛ムルニ至ラバ
 物質世界ハ直ニ其存在ヲ失フベシサ、アイザック、ニュート
 ン、エドワードハ之ヲ光線ガ繪畫ヲ保存スルノ力ニ比シタリ
 實ニ上帝ガ大能力ノ万有中ニ在ルイ恰モ人心ノ能ク思想ノ
 運用ヲ支持スルニ比スベシトナスナリ
 第二 神ハ常ニ万有ノ中ニ在ツテ之ガ働作ヲ嚮導指引シ能
 ク諸ノ物力ヲシテ皆大目的ニ符合シ敢テ牴觸スルイナカラ
 シム乃チ神ノ力ハ普遍ニシテ存セザル處ナク或ハ草木ノ葉
 花中ニ在リ或ハ結晶力歸極力ノ中ニ在リ或ハ引力化合力ノ

中ニ在リ或ハ生子生命力ノ中ニ在ルナリ
 第三 神ハ万有ノ中ニ在ツテ直接若クハ間接ナル作用ニ
 リ絶ヘズ之ヲ新奇高上ナル方向ニ發達セシム博士レ、コン
 ト日ク(千八百七十八年ノ「アフリカ」雜誌)凡ソ百般ノ物力ハ皆神ヨリ出ル勢
 力ニシテ物力ノ普遍ナルハ神性ノ普遍ナルニ因リ物力ノ不
 易ナルハ神性ノ不易ナルニヨルナリト博士ハリス曰ク上帝
 ニシテ大能力ノ作用ヲ歛メズ無極ノ力ヲ有極ノ世界ニ注ク
 限リハ宇宙ノ進化ハ間斷ナク空間ト時間トノ中ニ擴張スル
 ノミナラズ漸々高上ナル品位ニ進ミ漸々高上ナル勢力ヲ顯
 現スベシ昔シ上帝ノイスラエル人ニ神タルヤ常ニ神殿ノ至
 聖ナル所ニ在マシ其前面ハ幔ヲ以テ之ヲ掩ヒタリシガ今天
 地万物ハ恰モ此ノ幔ニ似テ上帝ハ常ニ其上ニ顯現シ給フナ
 リト之ニ依ツテ之ヲ觀レバ天地万物ハ上帝ガ思想ヲ表シ給

フ言語ナリト云フヲ得可シ而シテ此言語ハ上帝ト異ナル者
 ナリトス何トナレバ天地万物ハ上帝ト別ニシテ上帝ハ天地
 万物ニアラズ天地万物ヲ主宰シテ之ヲ運用スル大能者ナレ
 バナリ人或ハ之ヲ以テ凡神說ニ陷ルモノナリト非難スレモ
 此レ決シテ然ラザルナリ蓋シ上帝ハ天地万物ノ中ニ在ルノ
 ミナラズ又其上ニ超絶スレバナリ
 第四 上帝ガ万有造化ノ作用ハ其預定セル思想ノ漸次實行
 セラル、モノナリ
 第五 宇宙ハ常ニ有限ナル時間ト空間トノ中ニ在ルガ故ニ
 未ダ完全ナリト云フ可ラザルハ勿論ナレモ絶エズ其完全ノ
 方向ニ赴ク者ナリトス而シテ或ハ一方ニ於テハ無極ノ太虛
 ニ向ツテ漸々其境域ノ増大スルコトアル可ク又他ノ一方ニ
 於テハ漸々其高上ノ方位ニ進化スルコトアル可シレ、コント曰

ク往事ヲ以テ將來ヲ推スニ宇宙有形ノ物質ハ皆悉ク消盡シ去ツテ心靈ノミ之ニ代ツテ存在スルノ日アルニ至ラント吾人ガ考フル所ヲ以テセバ宇宙ノ物質ハ他日其暗昧堅硬ノ性ヲ棄テ明白燦爛ノ体トナリ其礙性情性ヲ去ツテ透明ニシテ彈力アルモノタラシモ亦知ル可ラザルナリ

ステワート、テイトノ二氏曰ク有形界ノ勢力ハ漸次變化シ去ツテ無形界ノ勢力トナリ終ニ此ノ有形粗造ノ物質世界ハ全ク消失シ去ツテ其ノ跡ヲ止ムルナキニ至ラント博士ハリスモ亦曰ク吾人ガ現時知ルヲ得ル所ノ此宇宙ハ蓋古往今來究極ナキ無限大界ノ一小部分タルニ過ギズトヘルムホルツ、ウント、アルガイル侯ビール、カアペントル、ヘルシエル、フハラヂ

、アガシ、ロツツセ、カント、ライプニツ等ノ諸氏ハフレト

、アリスト、トルト共ニ皆曰ク凡ソ宇宙ノ万物ハ有生ニア

レ無生ニアレ有心ニアレ無心ニアレ一トシテ上帝ノ其中ニ在ツテ之ヲ向導指引セザルモノナシト教頭バスキム曾テ千八百八十二年心靈ト物質ノ關係ト題スル演説ニ於テ云ヘル

「アリ曰ク物質ハ單ニ神ノ思想ノ形体ヲ取リシモノタレバ神ニシテ若シ其思考ヲ廢セバ物質世界ハ直ニ絶滅ニ歸セン

「チ信ズトバルホアル、ステワートモ亦千八百八十四年七月

中、コンテンポラリー、レビユ」雜誌ニ於テ其説ヲ述ベテ曰ク

宇宙間ノ諸勢力ハ皆上帝働作ノ結果ナリ故ニ太陽ガ間斷ナク散失スル熱力ハ實ニ非常莫大ニシテ且ツ散失セル熱力ノ収集利用セラル、者ハ百万分ノ一ニ足ラザルモ是レ未ダ失費トナス可カラズ何トナレバ太陽ノ熱力ハ上帝無限ノ勢力ノ結果ナレバナリトマユツシハ進化ノ能不能ト題スル小冊子ニ於テ神ノ万有中ニ在リ給フベキ必要ヲ示セリ曰ク太初

原子ノ中若クハ原子ヨリ成立セル分子ノ中ニ果シテ生命アリシカ若シアラザリシトセバ當初植物ノ生セシ時ニ方ツテ如何シテ來レルヤ分子ノ中ニ果シテ感覺力アリシカ若シアラザリシトセバ當初動物ノ感覺ヲ有スルニ至リシハ何アヤ分子中果シテ心アリシヤ事物ヲ知覺シ自他ノ區別ヲナス力ノ如キ事物ヲ比較判斷シテ其異同ヲ辨識スル力ノ如キ已ニ見ル所ヲ以テ未ダ見ザル所ヲ推度シ過去ヨリシテ將來ヲ推論スル力ノ如キ皆其中ニ在リシトセンカ分子中果シテ感情アリシヤ、カノ相着ノ念ノ如キ果シテ其中ニ在リシトセンカ願フニ分子中一種ノ道德アリシナラン即チ分子ガ各自ノ旋轉ヲナスニ當テ各自ノ地位ヲ重シ各他ノ分子ヲシテ旋轉ノ權利ト地位ヲ得シメタルガ如キ一種ノ正義心アリシナラシカ此分子ハ太初意思ノ力ヲ有シ、苦ト樂ト善ト惡トヲ判別

撰擇スル力アリシカ夫レ或ハ一種敬虔ノ念分子ノ中ニ在リテ神ヲ默拜シタリトセンカ太初原子ノ中或ハ勢力ノ中ニ斯ル能力アリシ證據ナキハ今更ラ云フマデモナキ所ナリ然ラバ則チ此等ノ力ハ如何シテ來リシトセンヤ例セバカノ吾人ガ一能力タル意識ノ如キハ如何ヘルベルト、スペンセル氏ハ自ラ此疑問ニ答ヘ得シモノ、如ク信ズレヒ答ヘタルニハアラズ唯ダ之ヲ避ケタルノミ氏ハ其心理學ニ於テ凡ソ百葉モ噂々然神經ノ事ヲ辨シ依ツテ神經ノ發達ニハ一定ノ連續アル所以ノ意ヲ示シ而シテ氏ハ單ニ其終ニ於テ意識ハ此間ニ生ズルモノナリト結論セリ實ニ此ノ如ク原因ヲモ舉ゲズ聯續結合ノ點ヲモ舉ゲズ唯ダ單ニ意識ハ此間ニ生ゼザル可ラズト論シ去ツテ願ミズ蓋シ此大膽ナル論者ニハ往々此類ノ慣習少ナカラズ抑モ此等ノ力ハ如何ニシテ來リシヤ感覺ナキ

モノ、感覺ヲ有スルニ至リシハ如何本能ナキモノ、本能ヲ有スルニ至リシハ如何、記性ナキモノ、記性ヲ有スルニ至リシハ如何、智力ナキモノ、智力ヲ有スルニ至リシハ如何、故ニ感覺ヲノミ有セシモノ、遂ニ善惡ノ差別ヲ知ルニ至リシヤ此レ宜シク究問ス可キ所ナリ予ハ斷シテ斯ル力ノ顯ルルハ本來原子中ニ無カリシ者ノ新生セルニ因ルヲ信ズト
 サ、シユン、ヘルシユル曰ク引力ヲ以テ人知以外ニ存スル意思ノ直接若クハ間接ノ結果ナリト解スルノ最モ道理ニ合フ
 ナ見ルト(天文学ノ要略)博士カアメントル曰ク人間ノ意志ハ凡テ他ノ諸勢力ノ模範トナス可キ勢力ナリト又曰ク物力ハ意志ノ直接ナル表現ナリト見ザル可ラズト(八身生理學五)エーサ
 グレー曰ク吾人ハ諸般ノ變化ヲ見テ皆有心者ナル大原因ノ作用ニ基クトナスヲ得可シ蓋シ其作用タル直接ニシテ間斷

ナク複雑ニシテ秩序アルモノナリトワレース曰ク徹ナリトハ云ヘモ一勢力ノ既ニ吾人ガ意志ニ起因スルヲ見而シテ此ヨリ外他ニ本原的勢力アルコトヲ知ラズトスレバ凡ソ百般ノ物力ハ皆意志ニ原因スルモノニテ全宇宙ハ高等靈物若クハ獨一無上ノ心靈ノ意思ニヨツテ存在スルノミナラズ乃チ實ニ其意志タルニ外ナラズト云フモ敢テ其不當ナルヲ見ズト(自然論三)アルガイル侯曰ク當今學術ノ傾向ハ夫ノ勢力保存物力更換ノ主義ニ基キ各種ノ物力ヲ以テ一大中央勢力ノ發表セルモノトナスニ至ラントスト又曰ク此中央勢力ハ乃チ唯マ神意作用ノ様法タルニ過ギザルナリト熱ト云ヒ音ト云ヒ色ト云ヒ光ト云ヒ電氣ト云ヒ皆唯マ運動ノ殊別ナル様法ナルノミ博士ノルトン曰ク凡ソ物質界ノ諸現象ハ勢力ノ物質ニ及ボス作用ヨリ起ルト而シテフハラデー、オーエン

一 ユツク、ソレトス、ウインスローノ諸氏ハ皆物質ヲ以テ造化
 カノ結果ナリトセリ千五百年前ニ方ツテオーガスナンモ亦
 上帝ガ万物ヲ保存シ給フハ乃チ其間斷ナキ創造ナリトノ説
 チ唱ヘ上帝ニシテ若シ其創造力ヲ歛メバ世界ハ直ニ絶滅シ
 テ虛無タルニ歸セント云ヘリルソル曰ク上帝ノ宇宙万物
 ニ於ケルハカノ工匠ガ家屋船舶ヲ造リシ後チ去ツテ更ニ之
 チ願ミザルガ如キモノニアラズ上帝ハ唯マ之ヲ創造シ給フ
 ノミナラズ常ニ造物ノ中ニ在ツテ常ニ造物ヲ愛シ之ヲシテ
 各々其類ニ從フテ生存永續セシメ給フト博士カミユエル、
 シラーク曰ク凡ソ天然法ト稱スルモノハ上帝ガ直接ニ物質
 ノ上ニ施シ給フ力若クハ其ノ有心造物ニユツテ間接ニ物質
 ノ上ニ施シ給フ所ノ間斷ナキ動作ノ結果タルニ外ナラザル
 ナリトウエスレ一亦曰ク凡ソ天体ノ運行スルハ造物主ガ大

能ノ手ニユツテ之ヲ保持シ給フガ故ナリト當時ニツナ、ミニ
 一 ラー、チャーマー、ハリス、ユング、ホウエードンノ諸氏皆此説
 チ採ルモノナリ

ニユートン曰ク引力ノ存在スルハ正シク或者ガ一定ノ法ニ
 ヌツテ間斷ナク之ヲ施行スルニヨル然ラズンバ無生無知ノ
 物質ガ互ニ接スルコトナクシテ相ヒ感引スル等ナケレバナリ
 トニユートンヨリ以來二百年ノ間講究ニ講究チ加ヘシ後チ
 フハラデー、ヘルムホルツ、トムソン、テイト、マツクスウエルノ
 諸氏ハ皆ニユートンノ此説ヲ賛シタリ
 上帝ガ万有中ニ在ツテ之ヲ主宰シ給フ事實ハ勿論聖書一般
 ノ教理ニシテ更ニ之ヲ言フニモ及バザル所ナレハ聊カ左ニ
 其著シキモノヲ擧ゲン使徒行傳十七章二十五節ニ神ハ衆人
 ニ生命ト氣息ト万物ヲ與フトアリ羅馬書十一章三十六節ニ

蓋シ万物ハ神ヨリ出デ、神ニ倚リ神ニ歸レバナリ希伯來書一章三節ニ神ハ絶ヘズ其權能ノ言ヲ以テ百物ヲ扶持ス哥羅西一章十七節ニ神ハ万物ノ先キニ在リ万物ハ神ニユツテ存スルヲ得ルナリ路加傳十二章二十四ヨリ二十八節ニ神ハ鴉ヲ飼ヒ百合花ヲ裝フ詩七十七篇十七ヨリ十九節ニ雷ハ神ノ聲ナリ電ハ神ノ矢ナリトアリ詩篇百四ノ如キハ全篇皆此ノ意ヲ示セル名文ナリトス神ハ水中ニ其殿宇ヲ建テ雲ヲ以テ其車トナシ風ノ翼ニ乗シ風ヲ以テ其使トナシ火焰ヲ以テ其僕トナス、神ハ泉水ヲ溪谷ニ出ス、神ハ其殿宇ヨリ諸山ニ灌漑ス地ハ爾ガ工作ノ實ニユツテ足ルヲ得タリ、神草ヲ生シテ家畜ニ與ヘ蔬ヲ生シテ人ノ使用ニ供ス、爾ヤ靈ヲ出セバ百物皆造ラル汝ヤ地ノ面ヲ新ニス、神地ヲ觀バ地震動シ山ニ觸ルレバ山煙ヲ發スト及ビ撒母耳下二十二章十二尼希米亞九ノ

六約百記十二ノ十、二十八ノ二十四、三十七ノ十六、詩篇二ノ四、十八ノ七ヨリ十五、六十五篇六十六ノ九、百三十九ノ七ヨリ十二、百四十七篇、箴言十五ノ三、以賽亞四十ノ二十二、耶利米二十三ノ廿三及ヒ廿四、但以理五ノ二十三、拿翁一ノ三、馬太六ノ二十六ヨリ三十、等ヲ見ユ

之ヲ終フルニ凡ソ進化ニユツテ漸々宇宙間ニ出現シ來ル諸勢力ハ皆此外力タル造物主ノ生ズル所ニ係ハラザルモノナシ此レ即チ凡テノ勢力ヲ創造シ又之ヲ保持スル所ノ理性アル有心實在者ナリ若シ造物主タル上帝アラズトセバ宇宙万有ノ存在スル所以物力ノ現存スル所以作用ノ發起スル所以一モ理解ス可ラザルニ至ラン但上帝ニユツテ宇宙万有存在シ物力生シ作用起ルトセバ能ク事實ニ適當シ百般ノ困難ヲ解釋シ得ルガ故ニ吾人ハ確ク上帝存在説ノ眞理ニシテ之レ

ニ依ツテ云爲スルノ道理ニ合フモノタルヲ信ズルナリ

第四章

エホバ智慧ヲ以テ地ヲ定メ聰明ヲ以テ天ヲ置キ給ヘリ(箴言三〇十九)

天地万物ノ大原因タル上帝

存在ノ第三証

原因結果ノ定理ニヨリテ之ヲ証ス

吾人ハ今直接ノ証據ヲ引キ以テ上帝存在ノ事實ヲ論ゼント
スルニ方リ先ヅ原因ナル熟語ヲ解釋セザル可ラズ世間ニハ
往々機會ヲ以テ原因トナシ器械ヲ以テ原因トナシ法則ヲ以
テ原因トナス者アレハ是レ唯ダ原因ノ如ク見ユル者ニシテ
眞ノ原因ニハ非ズ眞ノ原因ハ此等ノ機會若クハ器械若クハ
法則ノ裏面ニ在ツテ存スルナリ無生ノ物質ハ決シテ眞正ノ

原因タル能ハズ是レ唯ダ器械タリ又機會トナルノ力アルノ
ニ譬ヘバ磨石ハ麩粉ノ原因ニ非ラズ彈丸ハ銃傷ノ原因ニア
ラザルガ如シ夫レ銃傷ノ原因ハ彈丸ニアラズ銃器ニアラズ
火藥ニアラズ又之ヲ發放シタル人ノ手腕ニモアラズ眞ノ原
因ハ全ク手ヲシテ搬機ヲ引キ因ツテ以テ彈丸ヲ發放スルニ
至ラシメタル人即チ是ナリ其人ノ意志即チ是ナリ彈丸モ鳥
銃モ火藥モ手腕モ皆唯ダ其人ノ使用シタル器械タルニ過ギ
ザルナリ又物質ノ作用ニ法則アルハ其作用ヲ生ズル原因ニ
アラズ天然ノ法則ハ唯ダ一定セル作用ノ形狀方法タルノニ
ニシテ寧ロ法則ノ存スルハ物質ヲシテ斯カル作用ヲ呈セシ
ムル一種ノ勢力天然以內或ハ其以外ニ存スル所以ノ意ヲ示
スモノト云フベシ蒸氣機關ニ在ツテ圓筒ノ運動スルヤ能ク
法則ニ從ヒ整頓シテ亂雜ナラズト雖モ其整頓セルノ故ヲ以

テ其運動ノ原因ナリトスル能ハズ其原因ハ蒸氣力ノ性質ト
 瀛關ヲ發明シタル人間ノ天才即チ是ナリ夫ノ象棋ノ棋子ノ
 如キ軍隊ノ兵卒ノ如キ能ク法則ニ從フテ運動スレド其法則
 ナ以テ其運動ノ原因ナリト云フ可ラズ然ルニ世人ハ往々万
 有中ニ運動ノ法則アルヲ發見シテ以テ運動ノ原因ヲ發見
 シタルガ如ク考フルモノアリ引力ヲ以テ物質運動ノ原因ト
 着做スガ如キハ獨リ一般人民ノニ然ルニアラズ物理學者ニ
 シテ猶此轍ヲ踏ムモノアルニ至ル誤レルノ甚シト云フベシ
 畢竟引力トハ唯ダ物質運動ノ方法ヲ表示セル言語タルノニ
 察セザル可ラザルナリ凡ソ運動ハ皆動力ヨリ起リ道理アル
 運動ハ道理アル動力ヨリ起ル夫レ真正ノ原因ハ睿智ト自働
 力トチ有スルモノニ屬ス故ニ人獸ノ如キ多少其睿智ト自働
 力トニ應フテ真正ノ原因タルヲ得ルモノナリ夫レ真正ノ

原因ハ結果ヨリ先キニ存セザル可カラズ真正ノ原因ハ必ズ
 原因トナルノ動機ト願望ト之ヲ決スル意志ノ三段作用ナカ
 ル可カラズ然ルニ世ニハ天地万物ヲ以テ自然ニ發生セリト
 云フモノアリ此無神說ニハ正ニ左ノ三点ノ誤謬アルヲ見ル
 可シ第一何等ノ原因ナシシテ結果ヲ生ヨ得可シト思意スル
 一此レ各人直覺ノ非トスル所ナリ第二條理アル原因ナシシ
 テ條理アル結果アリ得ベシト思意スル一第三條理アル此世
 界ヲ見テ不條理ナリト思意スル一是レナリ或人曰ク此世界
 ニハ不條理不整頓不都合ナルモノ甚ダ多シユレ上帝存在セ
 ザルノ証據ナリト然レド唯ダ僅ニ世界ノ一端ヲ見タルノニ
 ニシテ早ヤ既ニ不條理ナリト云フガ如キハ寧ロ太早計ノ誹
 チ免ル可ラズ論者ノ如キ請フ先ヅ望遠鏡ヲ執リ以テ万有ノ
 成立ヲ觀察セヨ庶幾ハ四圍八表更ニ限界ナキ渺々タル此世

界ノ秩序極メテ正シク整頓實ニ至レルヲ發見シ而シテ又吾人ガ住スル所ノ者ハ此無限大界ノ極小部分ニシテ茲ニ不條理ノ如ク見ユルモノ、却テ大ニ條理アル所以ノモノタルヲ悟ルニ至ランカ佛國ノ一士曾テ云ヘルヲアリ曰ク予ニ齒痛アリ故ニ上帝ナキヲ知ルト有名ナル學士ペーリー之ニ答テ曰ク齒牙ハ時ニ痛ムトモアラン然レ齒牙ノ生セシハ決シテ痛マン爲メニ非ザルヲ昭々タリト万有ニ秩序意匠ノ徵候アル事實ニ至テハ更ニ後章ニ於テ論述スル所アルベシ

諸ノ物力ヲ觀察シ深ク其由來ヲ檢スレバ必ズ皆他ノ勢力ノ之ガ裏面ニ在ツテ之ヲ生起シ之ヲ指揮シ之ヲ支配スル者ノ存スルヲ發見ス故ニ物力ハ運動ヨリ起ルト云フモ未ダ盡セルモノニアラズ何トナレバ運動ノ裏面ニ於テ之ガ原因タルモノ存セザル可カラザレバナリ物力ヲ以テ物質分子ノ固

有性ナリト云ハンカ分子ハ見ルベカラズシテ殆ント人知ノ境界外ニ在ルヲ如何センヤ夫レ原子見ルベカラズ分子見ルベカラズ引力見ルベカラズ磁石力見ル可ラズ其他ノ物力皆見ルベカラズ僅ニ吾人ガ知ルヲ得ル所ノモノハ唯ダ其効果ニ過ギザルナリ乃チ磁石ノ鐵屑ヲ引クガゴトキ類ヲ見ルニヨルノミ分子物力既ニ見ルベカラズトセバ亦上帝其中ニ隱伏シ凡テ運動ノ裏面ニ存在スルヲナシト云フベカラザルニアラズヤ且見ルベカラザルヲ以テ存セザルノ證據トナス能ハズ引力ノ如キ磁石力ノ如キ吾人之ヲ見ルヲ得ザレバ猶ホ引力磁石力ナルモノアルヲ確信スルニ非ズヤ

前章ニモ述ベタル如ク物質ガ呈スル作用ノ殊別ナルハ乃チ物質以外ニ之ヲ生ズル原因ノ存在スル所以ヲ示スモノニ似タリ熱ト云ヒ光ト云ヒ化合力ト云ヒ磁石力ト云ヒ電氣力ト

云ヒ生命ト云ヒ皆全ク其作用ヲ異ニシ其關係ヲ異ニセリ若シ上帝ニシテ存在セズ上帝ノ之ヲ生ヨタルニ非ズンバ何ニ由ツテ斯ル殊別數多ナル物カアルヲ得ンヤ故ニカアベントル、アガシーズ、ヘルシエル、ニュトン、ハミルトン、デーナ、リヒタル、カライル、ロツセーノ諸大家ハ皆物カヲ以テ靈力ヨリ起ルトナシ曰ク熱光電氣等物カハ皆運動ニ原因シ運動ハ壓力ニ原因シ壓力ハ意志ニ原因スト恰モ人間ガ其意志ヲ以テ其腕力ヲ起シ其腕力ヲ以テ外物ヲ壓シ其壓力ヲ以テ其外物ヲ動スガ如シ大原因ハ人間ノ自由ナル意志力ニ因テ顯現セリ人間ハ一箇ノ原因ニシテ大原因タル上帝ノ一好雛形ナリ左ノバ人間ヨリ推テ以テ幾分カ上帝ノ有様ヲ知り得ベシ夫結果アレバ必ズ之ガ原因ナカル可ラズ屬者アラバ必ズ之ガ王者ナカル可ラズトハ普通ノ確言ニシテ世間其眞理ナルヲ認ム

今宇宙ノ間物トシテ屬者ニ非ザルハナシ之ヲ如何ンゾ原因タル主者ナシト言フメケンヤユレ不可解的ノ甚キモノ故ヲ以テ吾人ハ斷シテ天地万物ノ大原因タル獨立自存智徳限ナキノ上帝アルヲ信ズ乃チ天地万物ノ存在シ智徳ヲ具フル人間ノ存在スルハ其實証ナリ何ゾヤ小ハ大ヲ造ル能ハズ非靈ハ有靈ヲ造ル能ハザレバナリ且物質界ノ現狀ヨリ之ヲ推サバ天地万物ハ有限ノモノニシテ其始メアリシヲ亦終リアルベキヲハ方今學士ノ皆一致論究セシ所ナリ故ニ若シ上帝ニシテ存在セズンバ天地万物ノ原由ヲ解釋スル能ハザルノミナラズ前ニ述ベタル如ク他ノ學說ニ於テ到底解釋ス可カラザル困難ノ存スルヲ如何將々天地万物ハ幾億万年以前ニ於テ早ヤ既ニ已ニ漸盡滅没ノ慘境ニ陥リシ道理ナリ然ルニ天体未ダ其運行ヲ止メズ土山位シ河海流レ動植物皆未ダ死

滅スルニ至ラザル所以ノモノハ上帝アツテ之ヲ主宰運用スルノ實証ナリト云ハザルヲ得ズ

天地万物ノ大原因タル上帝存在ノ第四証

宇宙間ニ企圖意匠ノ徵候アル事實ニ因テ之ヲ証ス英國ノ大學士ベークン公會テ云ヘルコアリ曰ク淺薄ナル學者ハ無神論ニ傾クト雖モ學識漸ク深遠ニ達スルニ及ソテハ必ズ再ビ有神論ニ復歸ス是レ正確ナル真理ニシテ亦古來經驗上ノ事實ナリ蓋シ學問ノ門戸ニ在テハ僅ニ五官ニ接スル近因ノミヲ見テ之ニ拘シ爲メニ大ナル遠因ノ存スルヲ忘ルルニ至レモ遙ニ進ンデ近因ノ皆從屬スル所及ビ攝理ノ存スル所アルヲ發見セバ恰モ彼ノ希臘詩人ノ云ヘルガ如ク人皆万物ノ其起源ヲ「シユビトル」神ノ足下ニ發スルヲ信ズベシト吾人ハ既ニ原因論ニ於テベークン公ガ此言ノ善ク當レルヲ

見タリシガ復タ本論ニ於テモ等ク善ク其當レルヲ証スベシ今夫レ事物ニ企圖意匠ノ跡秩序調和ノ証アルヲ見バ人皆必ズ智慧ヲ具有スル者ノ之ガ原因タルヲ知ル而シテ証跡愈々複雑ナレバ愈々其原因存在ノ念ヲ深クシ其証跡益々完全ナレバ益々其原因存在ノ信ヲ堅フスルモノナリ此レ人心ノ原則ニシテ一般普通ノ定理ナリトス吾人ニシテ若シ時計、蒸氣機關、書籍ノ類ヲ見テ之ヲ自然或ハ偶然ニ發生セリト云ハト雖レカ吾人ヲ笑ハザルモノアラソヤ乃チ企圖意匠ノ証跡顯然トシ明ナルヲ以テナリ然レモ熟ラ天地万物ノ關係ヲ觀吾人人間ノ状態ヲ察セバ企圖意匠ノ完全ナル秩序調和ノ複雑ナル人爲事物ノ敢テ比ス可キ所ニアラザルヲ知ル是レヨリ聊カ其數例ヲ掲出シテ以テ讀者ノ注意ヲ乞ハシ

第一ニ地球上大氣ノ調和如何ヲ觀察スベシ(若シ大氣調和ノ詳論ヲ知ラント欲セバク)

ツク氏が著書(宗教ト)化學ノ關係ヲ見ヨ(左ニ引例スル所ノ幾分ハ其中ヨリ約出シク
ル者ナリ)

大氣ノ地球ヲ環圍スルヲ猶ホ卵白ノ卵黃ヲ環圍スルガ如ク
ニシテ其高サ大約四十五英里ニ達ス故ニ地上ニ於テ其壓力
一英寸平方ニ付十五「ポント」ニ至リ各人皆三万「ポント」内外ノ
壓力ヲ受ケルモノナリサレバ此壓力即チ大氣濃薄ノ度ナル
者ハ最モ善ク地上ノ動植物ニ適當調和セザル可カラズ大氣
ニシテ若シ濃キニ過ギ或ハ薄キニ過ギ其壓力増減ノ變アラ
バ動物植物一日モ生存スルヲ能ハズ而シテ大氣濃薄ノ本ク所
ノモノハ大氣ノ性質、地球ノ引力、大氣ノ量、大氣ノ溫度ノ四者
ニ在ルガ故ニ大氣ヲシテ善ク地上ノ動植物ニ適當調和セシ
メシニハ此四者先ツ善ク適當調和セザル可ラズ四者ノ調和
其宜シキヲ得テ始メテ大氣濃薄ノ度生物ノ情狀ニ適當スル

ヲ得ルノミ今動植物ノ能ク生息蕃殖スル所以ノモノ正ニ
是ノ多般ノ調和アルニヨツテナリ
又大氣ハ透明ニシテ光線ヲ受ケテ之ヲ散布スル功用アリ若
シ之ヲクシバ直接ニ日光ヲ受ケル所ノミ明白ナルベク直接
ニ日光ヲ受ケザル室内ノ如キハ必ズ常ニ暗黒ナルベシ而シテ
暗黒ナル場所ヨリ明白ナル場所ニ出テ明白ナル場所ヨリ暗
黒ナル場所ニ入ルキハ忽チ吾人ノ眼目ヲ害スルノ患アリ然
レモ大氣ノ此性質アルニヨツテ更ニ此カル患アルヲナシ旭
日未ダ東天ニ出デザル前ヨリ漸々多量ノ光線ヲ散布シ殆ン
ド二時間ノ後ニシテ遂ニ旭日ノ昇ルニ至ルヲ以テ明暗急速
ノ變化アラザルヲ得ルナリ
又大氣ハ温熱ヲ散布シ温熱ヲ含藏スルノ功用アリ其熱ヲ散
布スルヤ猶ホ其ノ光ヲ散布スルガ如シ又其熱ヲ含藏スルヤ

其力ノ大ナルユト鏡ノ二倍ニ至ルト云フ若シ之レナクンハ
 晝間ニ受ケタル温熱ハ夜ニ及ンテ忽チ之ヲ發失シ去テ爲ニ
 生物ヲ凍殺スルニ至ルベシ夜間高山ノ頂ニアツテ頻リニ寒
 冷ヲ覺フルハ乃チ山上ノ大氣稀薄ニシテ温熱ヲ含藏スル力
 ノ少キガ故ナリ予ハ九月ノ終リニ方ツテ一夜富士山ノ頂キ
 ニ泊セシテアリシガ晝間ハ頗ル暖カナリシモ日没ニ及ンデ
 遽ニ寒冷ヲ加ヘ夜半ニ至ツテハ殆ト眠ル能ハザルニ至レリ
 而シテ翌朝日ノ出ルヤ復タ直ニ暖氣ヲ覺エタリ實ニ此ノ如
 シ大氣ハ地球ヲ環圍シ日没ヨリ日出マデノ間能ク温熱ヲ保
 持シテ之ヲ平等ナラシメ地球ヲシテ常ニ温暖ナルヲ得セ
 シムルモノナリ且ツ茲ニ最モ驚異ス可キハ温熱ノ大氣ニ出
 入スル力ノ温源ノ熱度ニ比例スルヲナリ太陽ハ温源ニシテ
 其熱度極メテ高キガ故ニ其光線ノ大氣ニ入ルヲ至ツテ容易

ク依ツテ能ク地球ヲシテ温暖ナラシムレト地球ノ熱度ハ極
 メテ低キガ故ニ其發射熱ノ大氣ヲ經過シテ虚空ニ去ルヲ至
 テ難ク依ツテ地球ヲシテ甚ダ寒冷ナルニ至ラザラシム若シ
 此ノ攝理アルニ非ラズンバ地球ノ表面ハ忽チ嚴寒ノ極度ニ
 下リ生物皆チ絶滅スルノ慘狀ヲ呈セン世人ガ暖室ヲ造リテ
 草木ヲ保護スルモ亦タ此ノ理ニ原ク乃チ太陽ノ温熱ハ高キ
 ガ故ニ容易ク暖室ノ紙蔽若クハ玻璃板ヲ通シテ入ルト雖モ
 地球ノ發射熱ハ低キガ故ニ之ヲ通シテ出ル能ハズ依ツテ温
 熱ヲ其中ニ保存スルノ利アルナリ
 又大氣ハ音聲ヲ傳播スルノ功用アリ音聲トハ物体ノ震動ヨ
 リ生ズル大氣中ノ波瀾ニシテ若シ大氣ニ此ノ性質アルニア
 ラズンバ吾人ハ絶エテ音聲ナルモノヲ知ラザルヲナルベク
 而シテ吾人ガ音樂ノ美妙ヲ享受スルモ全ク大氣ノ此ノ性質

アルニヨルナリ震動一秒毎ニ八回以下ナルモノハ聴イテ以テ其各別ナルヲ辨スベシト雖ヒ震動一秒毎ニ八回以上ナルモノニ至ツテハ之ヲ聴クニ一連ノ音聲ノ如ク容易ニ之ヲ辨別スル能ハズ而シテ低調ノ音ハ震動ノ寡少ナルモノヨリ生シ高調ノ音ハ震動ノ夥多ナルモノヨリ生ズ且ツ大氣ノ音聲ヲ傳播スル一秒毎ニ一千一百英尺ニ至ルト云フ

又大氣ハ七色ヲ傳播スル功用アリ色モ亦物体表面ノ震動ヨリ起ルモノニシテ赤色ニ在ツテハ其震動最モ長ク最モ緩ク橙色、黄色、綠色、青色、藍色、桔梗色、ニ至ルニ隨テ其震動漸次ニ短ク且ツ速カナルナリ其兩極色震動ノ數ヲ擧グレバ赤色ナルモノハ一秒毎ニ四百六十兆(四六〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇)ノ震動ヲナシ桔梗色ナルモノハ一秒毎ニ七百三十兆(七三〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇)ノ震動ヲナス乃チ亦眼目構造ノ精細微妙ナル所

以テ証スルモノナリ人或ハ此色ト彼ノ色トヲ辨ズル能ハザルモノアリ之ヲ色盲ト名ク此レ全ク此色ノ震動ト彼色ノ震動トノ差違ヲ辨ズル視力ナキニ原ク即チ色波震動ノ差違ヲ辨ズル程ニ視神經ノ鋭敏ナラザルニヨルナリ

又大氣ハ電氣ヲ傳播スル功用アリ電氣ハ大氣中ニ充滿スレバ只ダ借ムラクハ吾人ノ未ダ悉ク電氣ノ性質ヲ識リ得ザルヲ以テ大氣ガ電氣ニ於テ調和ノ詳細ヲ知ルヲ能ハザルナリ若シ其性質ヲ識リ得タラシニハ必ズ巧妙ナル調和ノ存スルヲナラシム

其他吾人ハ大氣成分ノ配合ニ於テ巧妙ナル調和ノ存スルヲ見ル大氣ハ窒素、水素、酸素、及ヒ炭酸瓦斯ノ混合ヨリ成立セリ但シ化合セザル様ニ混淆セル者ニシテ此三者ノ分量各其宜キヲ得ルニアラザレバ決シテ以上述ベシ所ノ功用ヲナス

一能ハザルノミナラズ其分量常ニ同一ナルニアラズンバ動物植物一日モ生存スルヲ得ザルナリ而シテ人類ト他ノ動物トハ常ニ間斷ナク酸素ヲ吸収シテ炭酸瓦斯ヲ吐出スレモ之ニ反シテ植物ハ炭酸ヲ吸収シテ酸素ヲ吐出スルガ故ニ二氣ノ分量敢テ變換スルニ至ラザルナリ又大氣ハ熱ヲ受ケテ膨脹スルノ性アルガ故ニ赤道地方ノ大氣ハ絶ヘズ澎漲シテ稀薄トナリ稀薄トナリテ上登シ上登シテ兩極地方ニ赴キ茲ニ於テ冷ヘ冷ヘテ濃厚トナリ沈着シテ復タ赤道地方ニ赴キ此彼運動循環シテ絶エズ其温度ヲ平均シ其成分ヲ精良ニシ其配合ヲ適宜ニシ並セテ船舶ヲ追ヒ人間通商ノ便ヲ供ス以上論述スル所ノモノハ僅ニ吾人が大氣ニ於テ發見シ得タル調和ノ數例ニシテ決シテ盡セルモノニハアラザレモ尙此調和ヲ來サシニハ大氣ノ成分、大氣成分ノ配合、大氣ノ量、大氣

ノ温度、地球ノ引力等ノ善ク適當調和スルヲ必要トス假令前條中ノ一例ノミヲ取ルモ尙優ニ智慧ヲ具有スル大原因ノ存在ヲ証スルニ足ルモノアリ況ンヤ許多ノ例アルチヤ之ヲ如何ゾ偶然ニ生ゼリト云ハンヤ要スルニ上帝存在ノ證據タル唯ダ大氣ニ於テ發見シ得タル事實ノミヲ以テスルモ其正確ナルヲカノ地質學天文學ノ由ツテ以テ成立スル事實ノ正確ナルニ減セザルナリ草木ノ中ニハ預メ自ラ其芽蕾ノ爲メニ冬間ノ食物ヲ儲エ芽蕾ヲシテ之ニ依ツテ春時葉花タルノ力ヲ養ハシムルモノアリ而シテ殊ニ吾人が感歎ニ堪ヘザルモノハ草木ノ其種類ヲ接續スル方法ノ極メテ巧妙ナルニ在リ若シ詳細ノ事實ヲ知ラント欲スルモノアラバチヤットボルン氏ガ自然神學ヲ見ユ左ニ引例スル所ノ幾分ハ氏ガ書中ヨリ約出シタルモノ也

凡テ草木ハ皆其生長發育ノ間ニ在ッテ各其類ヲ接続スルノ作用ヲナスモノニシテ此作用ヲ全フスルガ爲ニ種子ヲ生シ種子ヲ生ズル爲ニ雌雄両性ノ別ヲ具フ乃チ花ニ雄蕊アリ雌蕊アリ雄蕊ハ花粉ヲ生シ雌蕊ハ子房ヲ有ス子房中ニ原子アリ雄蕊ノ花粉雌蕊ノ柱頭ニ落テ下リテ子房ニ入り遂ニ原子ニ接シ依ッテ両性相交合シテ種子ヲ造成ス然リ而シテ複雑重ナル關係ノ中ニ於テ種々多様ナル方法ニヨリ両性相ヒ交合シテ種子ヲ造成スル作用ノ周到完全ナルニ至ッテハ實ニ驚ク可キモノニシテ未ダ之ヲ發見セザルヤ吾人ノ能力曾テ夢想ニダモ之ニ達スルコト能ハズ既ニ之ヲ發見スルヤ吾人ノ能力曾テ一點ダモ之ニ加フルコトアル能ハズ若シ天地間ニ種々周到複雑ナル極メテ具備完全セル配合調和ノ跡ヲ求ントセバ吾人ハ此種子生産ノ作用ニ若クモノアラザルヲ知ル

ナリ請フ二三ノ例ヲ舉ゲテ之ヲ示サソカノ風媒花ニ在ッテハ花粉ノ量甚ダ多クシテ散失スルモノ敢テ不足スルノ患ナク恰モ預メ其散失アルコトヲ算計シタルモノ、如キアリ而シテ花粉飛散ノ始マルハ正ニ雌蕊ノ成熟シテ之ヲ受クルニ適シタルノ時ニ在リ例セバ玉蜀黍ノ如キ花粉ノ飛散スル時ハ即チ花毛ノ之ヲ受クルニ適シタルノ時ナリ又蟲媒花ニ在ッテハ人目ヲ快フシ虫生ヲ養フノ結構アリ花ノ美ナル人之ヲ見テ以テ眼目ヲ慰ス可ク蜜ノ甘ナル虫之ヲ食フテ以テ生命ヲ維持可シ然レニ此人目ヲ快フシ虫生ヲ養フノ結構タル畢竟植物ヲシテ其種子ヲ生シ其種類ヲ接続セシムルノ方便タルノミ夫レ花ニハ蜜ヲ生ズルノ構造アリ蜂ニハ蜜ヲ嗜ムノ本能アリ蜂花色ニ誘引セラレテ來リ而シテ蜜ノ生ズルハ柱頭花粉ノ成熟スルト正ニ同時ナルノミナラズ全花ノ形狀タル蜂ノ

花蕊ニ觸ル、ニ非ンバ蜜箱ニ達スル能ハザルガ如クナルヲ以テ蜂ノ已ガ爲ニ勞スル所ノモノハ轉々亦植物ヲシテ兩性ノ交接ヲ果シ其種類ヲ接続セシムルノ作用タルコ至ルモノ也例セバ南瓜ノ花ノ如キ雄性雌性共ニ花蕊ハ其中央ニ在ツテ蜂ノ之ヲ壓スルニ非ズンバ花底ノ蜜ニ達シ得ザルノ構造ニシテ且ツ雄蕊花粉ノ將ニ飛散セントスル時ハ雌蕊ノ柱頭モ既ニ成熟シテ之ヲ受クルニ適シ而シテ蜜ノ生ズルモ正ニ此時ニ在ルガ故ニ蜂蜜ヲ得ントシテ雄性花中ニ入ルニ當テ必ズ花粉ノ幾分ヲ其身邊ニ附着シ更ニ雌性花ニ至ルニ及ンテ知ラズ識ラズ之ヲ雌蕊ノ柱頭上ニ散シ依ツテ兩性交合ノ媒トナル花粉ト云ヒ蜜ト云ヒ柱頭ト云ヒ子房ト云ヒ全花ノ構造ト云ヒ蜜蜂ノ形狀本能ト云ヒ成熟其時ヲ得テ位地其宜キニ適シ互ニ善ク相適當スルモノハ皆唯ダ兩性ノ交接ヲ果サシ

ムルノ方便ニシテ若シ蜜蜂ノ此作用アルニアラズンバ此類ノ植物ハ到底交接ノ機會ナク爲ニ絶滅スルニ至ラントス右ノ如ク種々ナル結構方法ニヨリテ兩性ノ交接ヲ成サシムルモ皆生命ノ中心ナル種子ヲ生センガ爲ナリ凡ソ種子ノ中ニハ之ヲ生シタル植物ニ等シキ他ノ植物ヲ成ス可キ元子アリ此元子ハ生氣アル極微細胞ノ集合セルモノニシテ適當ナル情狀ヲ經バ生長シテ遂ニ尋常ノ植物トナル力アルナリ尋常ノ植物ニハ根アリ葉アリテ大氣ヨリ地中ヨリ養物ヲ吸収シテ以テ生長スルナレド元子ニハ根ナク葉ナキガ故ニ更ニ自ラ食物ヲ得ルノ方法ナシ是ヲ以テ種子ニハ豫メ糖糊膠油鹽等ノ儲ヘアリテ元子ヲ圍繞シ化合作用ニヨツテ漸々元子ノ食トナル其攝理甚ダ至レリト云フベシ種子ノ成熟シタル後ハ之ヲ散布シテ之ヲ播クノ必用アリ而

シテ之ヲ散布スルノ方法亦感歎ニ堪ヘザルモノアル也風仙
 花ノ如キハ全ク熟スルニ當リテ種蒴ニ彈力ヲ生マ外物一
 ヲ接スルルハ蒴裂テ種子四方ニ散ズルモノナリ牛蒡ニハ種
 子ノ外部ニ鉤アリテ能ク人獸諸物ニ附着シ其苞ヲ破リ其種
 子ヲ散セザレハ決シテ之ヲ取り去ルヲ能ハザルナリ或ハ種
 子ニ鐵鉤アル尖頭ヲ有スルモノアリ或ハ楓楡ノ如ク種子ニ
 薄羽ヲ具ヘ風ニ從テ飄リ去ルモノアリ或ハ蒲公英ノ如ク種
 子ニ白毛ヲ有シ飛散シテ遠地ニ至ルモノアリ
 又植物ノ攀援スル方法ニ於テモ實ニ巧妙ヲ極ムルモノアリ
 蠶豆ハ莖幹其支柱ヲ回旋シテ攀援シ而シテ日行ト並ンテ回旋
 スル種類アリ或ハ日行ニ逆フテ回旋スル種類アリ莢豆ニハ
 卷鬚ヲ具フ卷鬚トハ葉ノ變形セルモノニシテ能ク莖幹ヲ支
 持スルノ力ヲ有ス葡萄ノ卷鬚ハ枝ノ變形セルモノニシテ亦

能ク莖幹ヲ支持スルノ功用アリ此卷鬚一タヒ支柱ヲ得バ之
 ナ回旋スルヲ數四依ツテ莖幹ヲシテ支柱ニ近カシムルノミ
 ナラズ若シ打タル、トアルモ容易ニ斷エザルノ彈力ヲ生ズ
 忍冬ノ卷鬚ニ至ツテハ其作用殊ニ妙ナリト云フベシ適宜ナ
 ル支柱アラバ勿論之ヲ旋ツテ其莖幹ヲ支持スルヲ猶ホ葡萄
 ノ卷鬚ノ如シト雖モ若シ支柱アラザルルハ壁垣等ノ破隙ニ
 入り其中ニ於テ長大シ以テ動カザルニ至リ或ハ壁垣ノ破隙
 スラアラザルルハ卷鬚ノ端壁垣ノ而上ニ延長シ形ヲ變シテ
 盆ノ如クナリ依ツテ以テ其莖幹ヲ支持スルナリ
 動物界ニ於テ目的ト方便ト相適當調和スルノ事實ヲ詳述セ
 ンニハ固ヨリ一篇一章ノ盡ス所ニアラザルヲ以テ以下唯ダ
 數例ヲ示サント欲ス凡ソ動物ノ生命ヲ保全シ其種類ヲ接續
 スル所以ノモノハ全ク其本能アルニヨル蓋シ動物ノ中ニハ

親ニシテ其子ヲ見ザル者モ多ク又生レテ直ニ動作ヲ爲サ
 ル可ヲザルモノアルヲ以テ也譬ヘバ毛蟲ノ蛾ノ如キハ必ズ
 一種ノ樹木ヲ選ンデ卵ヲ其枝上ニ置キ終ニ以テ死ス而ソ陽
 春ノ候木葉再發スルニ至リ毛虫モ亦其時ヲ以テ自ヲ卵ヨリ
 出デ其葉ヲ食フテ生長シ遂ニ繭ヲ爲シ蛹トナリ蛾トナリ復
 ヌ一種ノ樹木ヲ撰ンデ卵ヲ其枝上ニ置ク親蛾ノ爲シタル
 ガ如クニシ年々此ノ如クシテ其種類ヲ接續スルモノナリ若
 シ親蛾ノ本能其卵ヲ一種ノ樹木ニ置カズンバ毛虫何ヲ食シ
 テ生命ヲ保全セシヤ若シ毛虫ノ本能生來直ニ食ヲ取ツテ生
 命ヲ保全スルニアラズンバ何ニ由ツテ其種類ヲ接續スルヲ
 得ンヤ又一種ノ蝗ノ如キハ子生レテ樹木ヲ下リ地中ニ入り
 之ニ伏スルヲ十七年、期至ルニ及ンデ地ヲ出デ其樹木ニ登リ
 其葉ヲ食フテ生長シ遂ニ復タ卵ヲ置イテ死ス其子生ル、ニ

及ンデ地中ニ入り十七年間地中ニ伏スルヲ猶其親ノ如クシ
 十七年又十七年以テ能ク其種類ヲ接續ス本能ノ作用實ニ妙
 ナリト云フベシ又鮭魚ハ河ニ生シ河ヲ下リ海ニ入り海ニ長
 ズ而ソ卵ヲ生ムノ時到ルニ及ンデハ必ズ復タ其河ニ歸ル雌
 魚先シ雄魚之ニ次グ曾テ其遠隔ノ甚シキニ關セザルナリ河
 ハ子ヲ産スルニ適シ海ハ子ヲ長ズルニ適ス鮭魚其然ルヲ知
 ラズシテ之ヲ爲ス何ゾ其ノ奇ナルヤ蜜蜂ノ如キモ又一例ナ
 リ蜜蜂ニハ蜜ヲ集ムル本能アリ此ノ本能ヲ實行ス可キ結構
 アリ蜜蜂ニハ蜜ヲ儲ヘンガ爲メニ房巢ヲ作ルノ本能アリ蜜
 蜂ノ体中ニハ巢ヲ作ルニ必要ナル蠟ヲ分泌スル官能アリ且
 ツ此蠟ヲ用ヒテ六角形ノ小房ヲ有スル蜂巢ヲラシムル本能
 ト器械ト技術トヲ具フルナリ而ソ此衆蜂ヲ生ズルモノヲ母
 蜂ト云ヒ至巢ノ主ニシテ絶エテ勞働スルヲナシ或ハ之ヲ蜂

玉ト稱ス此外ニ又坐食スル蜂アリ之ヲ雄蜜蜂トナス絶ユテ
 勞働スルコトナシ勞働スルモノハ子ヲ産セズ子ヲ産スルモノ
 ハ勞働セズ數千年間斯ノ如クシテ接續シ來ルモノハ眞ニ奇
 中ノ奇ト云フベシ顧フニ蜜蜂ノ結構ト云ヒ作用ト云ヒ本能
 ト云ヒ全巢ノ經濟ト云ヒ規模ト云ヒ殆ソト猶ホ一聯ノ鍵鎖
 ノ如ク其配合調和ノ至盡セル絶エテ他ニ比ス可キモノナシ
 之ヲ如何ゾ偶然ノ結果ナリト云ハンヤ
 又人獸眼目ノ構造ニ於テ最モ巧妙ナル調和ノ存スルアリ眼
 目ハ自ラ光線ノ多少ニ適合スルノ作用アリ例セバ明處ヨリ
 遠ニ暗室ニ入ル時ハ何モノヲモ見ルヲ能ハザレモ一二分間
 ノ後ニハ漸ク室中ノ諸物ヲ視ルヲ得ル是レ眼目ノ瞳孔張大
 シテ多量ノ光線ヲ入ル、ニ至リタレバナリ之ニ反シテ暗室
 ヲヨリ遠ニ明處ニ出ルキハ眼目ニ苦痛ヲ覺フト雖モ一二分間

ノ後ニハ瞳孔縮小シテ能ク適宜ノ光線ヲ入ル、ニ至ルナリ
 若シ此攝理アラズンバ唯ダ苦痛不便ヲ感ズルノミナラズ或
 ハ明ヲ失フノ恐レアリ又眼目ニハ物ノ遠近ニ應ラテ之ヲ明
 視スルノ作用アリ即チ眼目ニ属シタル筋肉ノ伸縮ニユツテ
 然ルモノナリ又眼目ニハ光線ヲ屈折スルノ組織アリ物像ヲ
 描寫スル組織アリ其物像ヲ感受スル視神經アリ眼目ハ猶ホ
 寫眞箱ノ如ク而シテ自ラ働キ自ラ調エ自ラ記スルノ力アルノ
 ミナラズ併セテ色ト光ト影トヲ描寫スルノ力ヲ具フルモノ
 ナリ遠近ニ應シテ明暗ニ處シ能ク自ラ動キ自ラ調エ暫テ瞬間
 ノ遲滯ナク八十年ノ間敢テ其力ヲ失ハザルモノハ如何加之
 ナラズ自ラ之ヲ記スルノ力アツテ五十年前見シ所ト雖モ其
 草木禽獸風色光景歷然トシテ之ヲ今日ニ髣髴シ得ルモノハ
 如何、是レ將タ何等ノ妙工ゾヤ此ノ妙工ヲ見テ誰カ其作者ヲ

讚嘆セザルモノアラシヤ且ツ此妙工ヲ子孫ニ傳フルヲ得ルニ至テハ更ニ一層ノ妙ナリト云フベシ然ルニ此ノ非常妙絶ノ器械ヲ以テ之ヲ有スル人獸ト共ニ皆偶然ニ發生セリト云フ者ノ如キハ果シテ之ヲ何トカ謂ハンヤ今宇宙ノ間一物吾人ノ需用ニ適セザルモノナシ空中ノ物地上ノ物水中ノ物炭酸水窒燐鹽等ノ諸原素ヨリ諸礦、石炭、百葉、百卉、禽獸、魚虫ノ類ニ至ル迄皆共ニ吾人々間ノ需用幸福ニ適應スルモノナリ吾人ノ嗜好之ニヨツテ足リ吾人ノ欲望之ニユツテ盈ツ吾人ニシテ社交ヲ好ムノ性アルカ父子夫婦アリ兄弟親戚アリ朋友師弟アリ吾人ニシテ美妙ヲ愛スルノ姓アルカ天ニハ玲瓏タル蒼穹アリ駿騫タル雲霧アリ地ニハ桃李ノ笑フアリ楊柳ノ媚アルアリ山上ノ風、溪間ノ流皆以テ吾人ノ望ニ應ズ上ハ日月星辰ヨリ下ハ全地ノ百物ニ至リ一トシテ人間發達ノ資

ニ適スルニアラザルモノナク一トシテ人間幸福ノ用ニ供スルニアラザルモノナシ何ノスレゾ之ヲ以テ偶然ノ結果ナリト云ハンヤ

第五章

神ヲ敬セザル天文學者ハ狂セリ

詩人ヨング

天地万物ノ大原因タル上帝存在ノ第五証
 万有中ニ秩序、計畫、布置ノ徵証アル事實ヨリ之ヲ証ス
 吾人ハ先ヅ我太陽系中ニ存スル秩序、意匠、調和ノ徵証アル事實ヨリ始メテ諸惑星ノ太陽ヲ距ル一皆一定ノ關係ヲ有スルモノニ似タリ乃チ左式ノ如シ

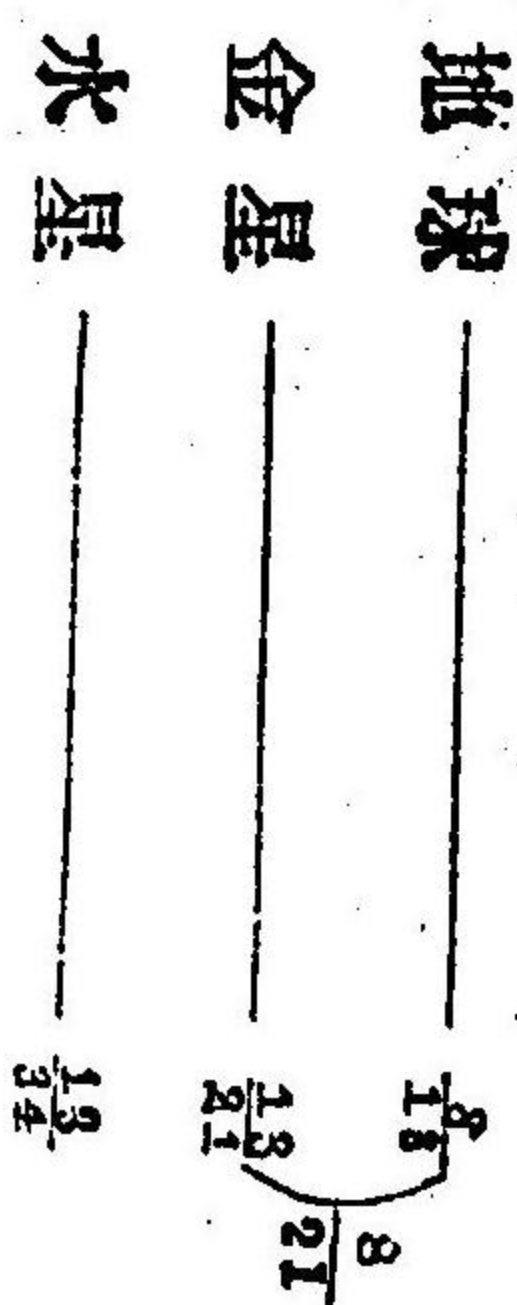
光線 || 3 + 25 || 3

距離 || 3 + 91 || 3

地球 $\parallel 3 + 2^2 \parallel 7$
 火星 $\parallel 9 + 2^3 \parallel 11$
 小惑星 $\parallel 3 + 2^4 \parallel 19$
 木星 $\parallel 3 + 2^5 \parallel 35$
 土星 $\parallel 3 + 2^6 \parallel 97$
 天王星 $\parallel 3 + 2^7 \parallel 191$
 他ノ諸星ニ比例セバ算出細 $\parallel 3 + 2^8 \parallel 259$ トナルベシ
 而ノ獨リ海王星ニ至ツテハ他ノ諸星ニ比例セバ太陽ヲ距ル
 一三十四億六千七百万英里ナル可キニ僅ニ二十七億四千六
 百万英里ニシテ他ノ諸星ニ比例シテ太陽ニ近キ一六凡ソ七
 億英里ナリ水星ヨリシテ七星ノ間ニハ此ノ如ク一定セル關
 係アツテ海王星ノニ獨リ之ニ違フモノハ何ゾヤ若シ天体諸
 星ノ成形スル一定ノ法則ニ因リシトセバ海王星モ等ク他ノ

諸星ト同比例ノ距離ニ在ル可キ道理ニアラズヤ然ルニ此ノ
 如キノ差違アルモノハ如何ノ誰カ此差違ヲ生セシメダリト
 セン又諸惑星ノ太陽ヲ一周スル時期ニ於テ一定ノ關係アル
 ナ見ルナリ乃チ天王星ノ一周時ハ海王星ノ二分ノ一ニシテ
 土星ハ天王星ノ三分ノ一木星ハ土星ノ五分ノ二小惑星ハ木
 星ノ八分ノ三火星ハ小惑星ノ十三分ノ五ニシテ左ニ悉ク之
 ナ式スレバ

海王星	0
天王星	$\frac{1}{2}$
土星	$\frac{1}{3}$
木星	$\frac{2}{5}$
小惑星	$\frac{3}{8}$
火星	$\frac{5}{13}$



ニシテ恰モ第一ノ分子ト第二ノ分子トチ加ヘ第一ノ分母ト
 第二ノ分母トチ加ヘタルモノハ第三ノ數トナリ第二ノ分子
 ト第三ノ分子トチ加ヘ第二ノ分母ト第三ノ分母トチ加ヘタ
 ルモノハ第四ノ數トナル比例ナリ而シテ地球ト金星トニ至ッ
 テハ此比例外ニ在リ諸星運行ノ間ニ此ノ如キ關係ヲ與ヘタ
 ル者ハ何ゾヤ獨リ地球ト金星トチシテ之ニ違ハシメタル者
 ハ何ゾヤ唯物論者ハ之ヲ以テ偶然ノ結果ナリト云ハソカ諸
 星ノ間此ノ如キノ一定セル關係アルヲ如何セン之ヲ以テ物
 質固有ノ性ナリト云ハソカ地球金星ノ例外アルヲ如何セン
 既ニ偶然ト云フ可ラズ亦物質固有ノ法ト云フヲ得ズ之ヲシ

テ然ラシムル者ハ何ゾヤ且ツ各惑星ガ太陽ヲ一周スル時間
 ノ二乗ト其太陽ヲ隔タル距離ノ三乗トハ互ニ相ヒ比例スル
 モノナリ又月ノ地球ヲ一周スル時間ノ二乗ヲ以テ月球直径
 ノ三乗ヲ除シタルモノト地球ノ太陽ヲ一周スル時間ノ二乗
 ヲ以テ地球直径ノ三乗ヲ除シタルモノトノ比例ハ地球ノ重
 量ト太陽ノ重量トノ比例ニ同シトス其他日蝕ト云ヒ月蝕ト
 云ヒ金星ガ太陽ノ面ヲ通過スル時期ト云ヒ皆一定セル秩序
 法則アルモノナリ古昔ヨリ金星ノ太陽ヲ通過スルハ始メハ
 八年次ハ百廿一年半ニシテ復タ八年トナリ其次ハ百五年半
 トナリ復タ八年トナリ百二十一年半トナルノ順序ナリ而シ
 テ此順序ニ隨テ反復循環シテ起リ曾テ少時ノ差違アルヲナ
 シ全智全能ナル上帝アツテ之ヲ圖企シ之ヲ造化シ之ヲ統治
 スルトナスニアラザルヨリハ此ノ如キノ秩序此ノ如キノ法

則此ノ如キノ關係誰カ能ク之ヲ説明スルコトヲ得ンヤ既ニ前
 ニモ云ヘル如ク上帝ハ全智全能ナレバ天体諸星ヲ布置スル
 ニ於テ初メヨリ最モ善良ナル方法ヲ知ツテ之ヲ行フベク而
 ノ最上善良ノ方法ハ唯一ナルヲ以テ後々之ヲ變換スルノ必
 要ナキハ勿論ノコトナルベシ乃チ諸星ノ位地運行ニ於テ一定
 ノ關係アルモ亦宜ナラズヤ植物界ニ於テモ礦物界ニ於テモ
 亦等シク企圖意匠ノ徵証アツテ吾人ハ植物學若クハ化學ヲ
 學ブ時ニ方ツテ所トシテ秩序法式ノ存セザルナキニ驚カズ
 ンバアラザルナリクツク氏ノ著書「宗教ト化學ノ關係」ニ載ス
 ルコトアリ曰ク草木ノ莖幹上ニ生ズル葉數ニモ一定ノ關係ア
 ルコト恰モ諸惑星ガ太陽ヲ一周スル時間ノ關係ニ似タリ其最
 モ簡單ナルモノヲ舉グレバ第一回ニハ二葉ヲ生シ二回ニハ
 三葉ヲ生シ三回ニハ五葉ヲ生シ四回ニハ八葉ヲ生シ乃チ二

分ノ一、三分ノ一、五分ノ二、八分ノ三、十三分ノ八等ノ比例ニシ
 テ正ニ諸惑星運行ノ間ニ於ケル比例ニ同シト其他生物界ニ
 於テモ至ル所ニ適應調和アリテ万有中ニ企圖者ノ存在スル
 所以ヲ証明スルヲ見ル蓋シ意匠論ヲ以テスレバ此適應調和
 ヲ解釋シ得ルモ他ノ説明ニテハ更ニ解ス可カラザルヲ以テ
 ナリ又原素化合ノ比量ニ於テモ一定シタル法則アツテ或ハ
 甲原素ト合シ或ハ乙原素ト合シ或ハ丙丁戊己ノ諸原素ト合
 シ形樣狀態千轉万變スルト雖モ其化合比量ニ至ツテハ少シ
 クモ變更スルコトナク依然トシテ一定ノ法則ニ從フモノニシ
 テ一種ノ化合物ヲ分解セバ其如何ナル處ヨリ得タルニ拘ハ
 ラズ必ず同一ノ比量ヲ得ヘキナリ此化合比量ノ法則ア
 ルニアラズンバ宇宙万有ハ混々沌々タル殆ンド名狀ス可ラ
 ザル紛亂界ヲラソノミ若シ比量不變ノ巧妙ナル事實ヲ詳ニ

セント欲セバツツク氏ガ「宗教ト化學ノ關係」ヲ見ユ實ニ化合
 上原素ノ數量ニ一定ノ關係アルハ即チ創造者ガ思想ノ發表
 セルモノト云フベシ或人曾テ云ヘル「アリ曰ク万有ハ其進
 歩ノ時ニ方ツテハ恰モ生ケル算術ニシテ其靜息ノ時ニ在ッ
 テハ乃チ實行セラレタル幾何學ナリト英國ノ大化學家フハ
 ラデー氏曾テ物質化合上關係ノ具サニ至盡セル所以ノ形跡
 チ觀テ感歎シテ曰ク原素中ニハ最モ多様ナル勢力チ有シ又
 最モ反對セル傾向チ有スルモノアリ或ル原素ノ如キハ其性
 質緩慢遲鈍ニシテ一見スル所チ以テセバ宇宙ノ宏圖ニ於テ
 少シクモ功用ナキモノ、如ク而ノ或ル原素ニ至ツテハ全ク
 之ニ反シ劇烈過甚ニシテ殆ンド宇宙ノ安寧ヲ破ルカト疑フ
 然レモ詳ニ之ヲ點檢シ深ク其作用チ觀察セバ緩慢ナル性質
 ト云ヒ劇烈ナル勢力ト云ヒ一トシテ皆共ニ宇宙ノ宏圖ニ適

應一致スルニアラザルハナシ故ニ一原素ト雖モ若シ之ヲ變
 更セバ必ず宇宙ノ權衡ヲ破リ万有ノ敗壞ヲ來スニ至ルモノ
 ナリト物質ニ法則チ賦與シタル者アルニ非ズンバ世界ハ永
 遠渾沌ニシテ存セシナラン宇宙万有チ以テ智慧チ具有スル
 大原因ノ生ズル所トナサバ吾人ノ心ハ之ニ因ツテ厭足スル
 一チ得ルト雖モ然ラズンバ吾人ガ知ルチ得ル所ノモノハ唯
 マ無神論者ノ所謂定法ノミニニシテ他ニ答辨アルゴトナシ宇
 宙万有ハ即チ領解ス可ラザル隱語タルニ歸スルナリ殊ニ人
 間ニハ事物チ概括等類スル理性アリ又万有ニハ整頓秩序ノ
 徵証アツテ概括等類スルニ適應スルガ如キハ正シク理性ト
 智慧トチ具有シタル宇宙万有ノ創造者存在スルコトチ實証
 スルモノニ似タリカノ科學ナルモノハ皆唯マ万有中ニ存ス
 ル秩序調和ノ形跡チ探討講明スルノ謂ニ過ギザルナリ然ラ

此秩序調和ヲ來セルモノハ果シテ誰ゾヤ之レヲ偶然ノ結
 果ナリト云ハソカ千萬事中或ハ時ニ一二事ノ偶然互ニ適應
 スルヲモアラソク千萬物中或ハ時ニ一二物ノ偶然互ニ調和ス
 ルヲモアラソク然レモ事々物々皆悉ク互ニ善ク適應調和スル
 ガ如キハ果シテ如何ゾヤ其適應調和ノ起ルヤ時ヲ違ヘズ處
 ヲ過タザルノミナラズ且ツ一時一處ニ限ルニアラズ古今ニ
 通シ六合ニ亘ツテ曾テ間斷ナキモノハ如何、ユレ果シテ偶然
 ノ結果ナルカ且ツ万有ノ狀態タル常ニ下方ヨリ上方ニ進ム
 モノタルガ如キハ如何、之ヲ指導スル者ハ何ゾヤ宇宙ノ間至
 ル所此ノ如キノ秩序此ノ如キノ權衡此ノ如キノ適應此ノ如
 キノ調和アリ是レ果シテ何ニ原因セルヤ或ル人言ヘルユト
 アリ曰ク旅人ニシテ希臘ノ亞典府ニ行キ「バルセノン」ノ神殿
 ヲ觀バ既ニ壞廢ノ餘ニ屬シ十中僅ニ一二ヲ存スルノミト雖

其大體ノ美麗ヲ有シ各部ノ權衡ヲ得タル殆ンド今人ノ及
 プ所ニアラザルヲ發見セン而シテ其美麗ヲ有シ其權衡ヲ得タ
 ルハ建築ノ規模其當ヲ得構造ノ方法其宜シキニ適シタルガ
 故ニシテ正ニ其建築家ノ大巧智アリシ事實ヲ証スルモノト
 セン然ラバ則チ宇宙万有ノ間ニ存スル規模方法ノ至盡セル
 チ觀テ吾人將タ之ヲ何トカ言ハント名論ト云フベキ哉願フ
 ニ、ユレ無神論者、不可思議論者、懷疑論者輩ノ決シテ說破スル
 能ハザル所ナリトスヘルマン、ロツツセーハ日耳曼第一流ノ
 理學者ナリ氏ハ全世界ニ向フテ氏ガ學術上ノ講究ヨリ遂ニ
 智徳ヲ具有スル上帝ヲ信ズルニ至リシヲ告白シタリミル
 氏ノ如キモ亦現今ノ狀態ヨリ論ズレバ宇宙万有ハ智慧ヲ具
 有スルモノ、造ル所タルガ如キ徵証ナキニアラズトナセリ
 然レモ氏ハ生來父シエームスガ教育ノ下ニ成長シ其無神ノ

論說ヲ聽キ其嚴格ノ教諭ヲ受ケ知ラズ識ラズ無神論者タルニ至リシナリハツシスレト氏曰シ詳ニ鯨魚ガ其卵ヨリ進化スル有様ヲ觀察スレバ生長發達ノ間實ニ言フ可カラザルノ妙作用アリテ殆ンド見ルモノナシテ若シ顯微鏡ヨリモ猶ホ銳敏ナル器械ヲ用ユルヲ得バ必ズ隱伏シタル名工ノ其裏面ニ於テ之ガ發達ヲ誘導スルモノアリト想ハシメザルハナシト意匠論ヲ以テスルニアラズンバ宇宙万有ハ唯リ之ヲ解説スル能ハザル耳ナラズ之ヲ記述スルトスラ能ハザルハ第一流ノ理學者等ノ已ニ許諾スル所ナリ夫ノ唯物論ノ如キハ全ク宇宙万有ヲ解説スルノ力アルユトナシ唯物論ハ一元説ニアラズ宇宙ニハ無數無量ノ極微原子アリテ之ニ充滿シ而シテ其極微原子ノ配合ヨリ六十餘元素ヲ成シ六十餘元素ノ配合ヨリ天地万物ヲ成セリト云フ此レ乃チ各原子ヲ以テ皆神

ナリトスルモノニ非ズヤ又物質ト物力トハ常ニ共ニ存在スルヲ見ル抑モ物質ハ物力ノ原因ナルカ將タ物力ハ物質ノ原因ナルカ若シ物質ヲ以テ物力ノ原因ナリトセソカ乃チ原因タルノ力ナキ原因ト云ハザル可ラズ若シ物力ヲ以テ物質ノ原因ナリトセソカ凡ソ物力ナル者ハ寧ロ皆靈力ニ原因スルニ非ルヲ知ラシヤ且原子ハ何等ノ法則ニ從フテ六十餘元素ヲ成シタルカ或ハ偶然ノ配合ニユルモノカ吾人ハ唯ダ能ク元素ヲ知り得ルノミ絶ヘテ原子ヲ知ルト能ハズ其知ル可カラザルハ猶ホ神ノ知ル可カラザルガ如シ無數ノ原子何ニ依ツテ其一致配合ヲ得タリヤ偶然ニ由テ來リシカ原子ハ偶然ニ結合シテ六十餘ノ元素ヲ生シタルカ假ニ物質ヲ以テ物力ヲ有スルモノニシテ無始無終永遠自存ノ性アリトスルモ猶ホ其配合變化ノ由來ヲ説明スル能ハザル困難ノ存スルアリ

夫ノ心靈アルニアラズンバ物質ノ存在ト云ヒ物質ノ配合變化ト云ヒ共ニ皆解明ス可ラザルモノナリ然ラバ理ニ於テ孰レカ眞ノ原因ナル可キカ物質ヨリ心靈生ズルカ心靈ヨリ物質生ズルカ凡ソ物質其モノ、本体ニ關シテハ吾人ノ知ルヲ得ル所甚ダ僅カニシテカノ色ト云ヒ音ト云ヒ味ト云ヒ臭ト云ヒ又觸ト云フモ其本体ニ至ツテハ皆人知ノ達スル能ハザル所ニ在ルナリ願フニ吾人ハ唯ダ物質原子ハ物質力ノ中心ナルヲ知ルノミ物質原子ハ製造物タルガ如ク見ユルヲ知ルノミ苟モ物質ニシテ無限ナルカ或ハ空間ニシテ有限ナルカニアラズンバ万有界ハ必ズ始アル可キモノタルノ困難アルヲ如何、然リ而シテ唯物論ニ依レバ宇宙ノ間唯ダ物質アルノミニシテ物質以外一切他ニ存在スルモノアラザルナリ乃チ唯物論ニ於テハ凡ソ高等ナルモノハ下等ナルモノヨリ起

リ優等ナルモノハ劣等ナルモノヨリ起ルトナスモノナリ物カハ物質ヨリ起リ秩序アルモノハ錯雜ナルモノヨリ起リ有機物ハ無機物ヨリ起リ生命力ハ合力器械力ヨリ起リ智情意ノ作用ハ腦髓分子神經分子ノ運動ヨリ起ルトナスモノナリ此ノ如クニシテ以テ万有ヲ説明スベシトナスモノナリ然レニ吾人ハ茲ニ原因ヨリモ大ナル結果アルヲ許スニアラズンバ此論ヲ諾スル能ハザルヲ如何センヤ要スルニ物質ハ心靈アツテ之ヲ認知スルニアラズンバ其存在ヲ知ル可ラズ吾人ハ物質ノ無終始ナルヲ証スル能ハズ吾人ハ原子ナルモノヲ知ル能ハズ唯物論ノ万有ヲ説明スルモ亦難イ哉夫レ文字ヲ見バ以テ其人手ニ成リ人意ニ原ク知ルベシ宇宙万有ハ上帝ノ文字ナリ宇宙万有ヲ見バ以テ其全能全智ナル上帝ニ原因スルヲ知ルベシ人間既ニ墨ト紙トヲ以テ己ヲ表ス

ルアリ上帝ノ宇宙万有ヲ以テ自ラ顯ハシ給フモ亦當然ノ事
ナラズヤ

ヘルベルト、スペンサー曰ク絶對者存在ノ公準ハ學術上通法
元理ノ根本ニシテ數學上ノ論証若クハ確定シタル認識ヨリ
モ深シ蓋シ深ク人間ノ本性ニ淵源スルモノナリト或人亦云
ヘルニアリ曰ク學術ノ目的ハ万有中ニ於テ道理ヲ發見スル
ヲナリ乃チ格別ノ中ヨリ普通ナルモノヲ發見シ偶然ノ中ヨ
リ必然ナルモノヲ發見シ錯綜ノ中ヨリ秩序アルモノヲ發見
シ複雑ノ中ヨリ規律アルモノヲ發見スルヲナリト吾人ハ學
術ニ三段ノ等級アルヲ見ル曰ク經驗的科學曰ク道理的科學
曰ク神理的科學是レ也各下等ナルモノハ高等ナル者ノ基址
トナリ高等ナルモノニ因ラザレバ解ク能ハザルノ疑問ヲ發
シ又各高等ナル者ハ下等ナル者ヲ刺激シ三者互ニ相ヒ依リ

相ヒ助ケテ背戻スル所ナシテニソソノ歌ニ之レアリ曰ク

我壁ノ、破隙ニ生フル、草ノ花、拔キ取り見レバ、根モ花モ、葉
ヲモ莖ヲモ、皆スベテ、予ガ掌ノ裏ニ、入りニケリ、ヨシカク
マデニ、微カナナル、モノニハアレド、若シ人ノ、善ク心ロシテ
此ノ草ノ、生トシ生ケル、本末ヲ、知り得ルヲ、アラソニハ、
神ノ神トシ、イマセルモ、人ノ人トシ、アル譯モ、悟ルニ、ナド
カカマカラソ、
吾人ニシテ放心ナラザル限リハ一莖ノ花尙ホ以テ上帝ノ存
在ヲ証スベキナリ

第六章

故ニ爾曹ガ識ズシテ敬フ此者ヲ我ナシテ示サソ

(使徒行傳十七〇二三)

天地萬物ノ大原因タル上帝存在ノ第六証

人類一般上帝ノ存在ヲ信ズル事實ヨリ之ヲ証ス

第七証 プレストーノ論證

第八証 人間ノ直覺

ヘルベルト、スペンサー曰ク多年間多數人民ノ信ズル所トナ
リシモノ殊ニ人類一般ノ憑信ニシテ且人心ニ固着シテ決シ
テ磨滅シ能ハサルモノニ至ツテハ必ズ其然ル可キ所以ノ基
礎原因アツテ存スルナリト今之ヲ歴史ニ徵スルニ往古ニ在
ツテハ各國ノ人民皆萬物ノ造主獨一上帝ヲ信ヨタルモノ、
如シ

昔時希臘人ノ奉セシ所ノ宗教ハ所謂多神教ニシテ勿論衆多
ノ神祇ヲ崇拜シタリト雖獨リ「ジュー」ヴ」ヲ信ヨテ獨一無二ノ
至上神トナセリカノソクヲテスガ隣ヘシ所ノ二大真理ハ即

ナ上帝ノ攝理ト善徳ノ以テ幸福ヲ増進ス可キ所以トニ在リ
シモノニシテプレトーハ無始無終曾テ間斷スルコトナキ觀念
アツテ萬物ヲ造化スト云ヒ以テ上帝ヲ表シアリストートル
ハ上帝ヲ以テ萬物ノ基礎本源ナリトシアナキサゴラスハ專
ラ上帝ノ智性ヲ論述シセノフハニースハ當時流行ノ鬼神説ヲ
嘲弄セシ人ナレトモ上帝ヲ以テ大本實在ナリトシピサゴラス
ノ學派ニ於テハ「ゼウス」神ヲ以テ其中心トナシタリシナリ印
度古昔ノ學者輩ガ信セシ所モ亦殆ト之レト同シク其説ニ曰
ク限りナキノ過去ヨリ自存スル不可思議ナル實在者アリテ
「ブラマ」ヲ創造シ「ブラマ」更ニ天地萬物ヲ創造シタリトカノ「ブ
ラミン」族ノ如キハ當初皆獨一上帝ヲ崇拜シタルモノナリリ
グヴェダ」ハ印度最古ノ典籍ナルガ其思想ノ高尙ニシテ其言
辭ノ純粹ナル多ク他ニ比類ヲ見ズト云フ英國ノ大家マツク

ス、ミューラー「ガ」ブ「マ」ン「經典」ヴ「井」マス「書」ノ「評論」ニ「曰ク」ヴ「井」
 ダ「ス」ノ「教」ユ「ル」所「ハ」固「ヨリ」多「神」説「ナリト」雖「モ」ウ「井」マス「以前」獨
 一「神」教「流行」ノ「遺」思「猶」其「中」ニ「存」ス「ル」ア「ツ」テ「万」神「ニ」呼「籲」ス「ル」時
 ニ「ス」ラ「獨」一「無」限「ナル」上「帝」ノ「記」憶「往々」ニ「シ」テ「其」言「辭」ノ「問」ニ「發
 表」ス「ル」恰「モ」青「天」大「空」ノ「適々」陰「雲」暗「霧」ノ「間」ニ「望」見「シ」得「ベキ」
 ガ「如」シ「ト」其「ノ」神「ヲ」呼「ブ」ノ「言」ニ「曰ク」嗚「呼」至「ル」哉「爾」上「帝」爾「ガ」
 權「威」限「ナク」爾「ガ」榮「光」限「リ」ナ「シ」有「生」ト「ナク」無「生」ト「ナク」物「ハ」皆
 爾「ガ」造「ル」所「ニ」シ「テ」爾「ハ」實「ニ」万「物」ノ「大」父「ナリ」天「ノ」上「天」ノ「下」ッ
 レ「誰」カ「爾」ニ「若ク」モ「ノ」ア「ラ」ン「ヤ」ト「又」神「ブ」ラ「マ」ニ「告」ル「ノ」言「ニ」曰
 ク「予」ハ「上」古「獨」リ「万」物「ノ」先「ニ」在「リ」而「シ」テ「今」モ「尙」ホ「在」リ「後」モ「將
 ニ」在「ル」可「キ」モ「ノ」ナ「リ」ト「ペ」ル「シ」ヤ「ノ」ア「ロ」ア「ス」ター「ハ」基「督」前「一
 千」年「代」ノ「人」ニ「シ」テ「殆」ト「モ」セ「ト」時「ヲ」同「フ」セ「シ」ガ「一」派「ノ」宗「教」
 ナ「創」メ「之」レ「テ」其「國」人「ニ」教「ヘ」タ「リ」蓋「シ」ブ「ラ」マ「教」ノ「支」派「タル」モ

ノ「ニ」シ「テ」其「教」理「ハ」今「尙」ホ「載」テ「ゼ」ン「ダ」ヴ「エ」ス「タ」ノ「書」中「ニ」在「リ
 書」中「用」ユ「ル」所「ノ」ア「ウ」ラ「マ」ヅ「ダ」ナル「語」ハ「即チ」上「帝」ノ「稱」ニ「シ」テ
 正「ニ」舊「約」書「中」ノ「エ」ホ「バ」ニ「應」ズ「ル」モ「ノ」也「而」ノ「其」神「自」ラ「己」ノ「名
 ナ」舉「グ」ル「モ」ノ「二十」ナル「ヲ」記「ス」茲「ニ」三「ヲ」例「ス」レ「バ」第「一」ニ「曰
 ク」予「レ」在「リ」第「四」ニ「曰ク」最「正」義「第」十「二」ニ「曰ク」生「命」者「第」二十「ニ」
 曰ク「予」ハ「予」ガ「在」ル「所」ノ「モ」ノ「ナリ」等「是」レ「ナリ」(出「埃」及「記」第「三」章「十」
 四「節」ヲ「參」照「ス」ベシ)
 願「フ」ニ「ヅ」ロ「ア」ス「ター」ハ「上」帝「ヲ」以「テ」靈「非」靈「ア」ラ「ユ」ル「生」物「ノ」創
 造「者」ニ「シ」テ「天」地「ノ」主「ナリト」信「シ」造「物」ハ「皆」其「生」殺「與」奪「ノ」中「ニ
 在」リ「ト」ナ「セ」ル「也」ヅ「ロ」ア「ス」ター「ノ」著「作」中「最」先「ナル」ゲ「ー」ヅ「書」ノ
 句「ニ」曰ク

明々タル生ケル上帝ハ人ニ與フニ不死健全ノ二大權ヲ
 以テス斯ノ如キ天賜ヲ得タル人ハ福ナル哉噫爾上帝予
 レ爾ハ萬物ノ最上者ニシテ天地ヲ照臨スル光明ノ源ナ

ルヲ信ズ各人皆將ニ爾ヲ撰ンテ爾ニ之レ從ハントス至
 聖ノ靈「マツダ」ヨ爾ハ隨時爾ガ善良ナル心ノ力ニヨツテ
 善良ナル庶物ヲ造リ又爾ヲ信ズル予徒ニ約スルニ長生
 ナ以テス「マツダ」ヨ予レ爾ヲ大能ニシテ神聖ナル上帝ナ
 リト信ズソハ爾千爾ノ手ヲ以テ善ト福トヲ敬虔ノ徳ア
 ルモノニ施シ亦能ク其力ヲ以テ不虔ノ人ヲ懲セバナリ
 云々大初誰カ眞理ノ創造者タル誰カ日星ニ其行道ヲ示
 シタル誰カ月輪ノ盈虚ヲ生シタル噫爾ニ非ラズシテソ
 レ誰カ之ヲ能クセンヤ誰カ地軸ヲ持シ天柱ヲ支フルモ
 ノゾ誰カ此河海ノ水ヲ爲シ誰カ此原野ノ木ヲ爲シタル
 誰カ風ノ中ニ在リ誰カ暴風ノ中ニ在ツテ之ヲシテ能ク
 斯ノ如ク速ニ走ラシムルモノゾ誰カ善人ノ創造者タル
 一ニ是レ明々タル爾上帝ナリ誰カ光明ヲ爲シ又暗黒ヲ

爲シタル誰カ生類ニ睡眠ノ安ヲ與ヘ又勤勉ノ力ヲ賦シ
 タル誰カ夜旦ノ別ヲ爲シタル云々ト

斯ノ如ク「アウラマズダ」ハ光明ニシテ並ニ光明ノ本源ナリ聰
 明ニシテ智慧アルモノナリ靈非靈ノアラユル善物ヲ有スル
 モノナリ乃チ善心ト云ヒ不死ト云ヒ健全ト云ヒ眞理ト云ヒ
 熱心ノ徳ト云ヒ敬虔ノ徳ト云ヒ其他地上ノ諸善諸福ハ皆其
 有スル所ニシテ「マズダ」ハ此諸物ヲ以テ言行意ノ三者能ク其
 正ヲ得タル敬虔ノ人ニ與フルモノナリ「マズダ」ハ善人ヲ賞シ
 惡人ヲ罰スルモノナリ而シテ吉凶禍福幸不幸一ニ皆其手ニ
 在ルモノナリ以テゾ「アスター」ノ獨一眞神ヲ信シタルヲ見
 ルベシ

エ「ソフト」人ノ如キモ上古ニ在ツテハ亦獨一至上ノ神「ソフト」ヲ
 崇拜シタルモノナリエ「ソフト」最古ノ一部「サイス」ニ遺存スル

「アイシス」神ノ堂宇ニ碑文アリ曰ク予ハ昔シ在リ今モ在リ後モ在ル可キモノナリ未ダ曾テ一人ノ予ガ被テ獲シ予ガ眞ヲ知り得タルモノアラズトメルリソノ博物館ニ一ノ石碑アリ埃及國第十九朝ノ時ニ造ラレシ所ナルガ唯ダ「ラー」ノミ獨リ生ケル本體ナリ唯ダ「ラー」ノミ獨リ無究ナル本體ナリ天地ノ間唯ダ「ラー」ノミ獨リ万物ノ生者ニシテ也ヨリ生セラレタルモノニアラズ等ノ語ヲ載ス（「ラー」トハ神ノ稱ナリ）上埃及デラノ堂壁ニ記スル「ラー」曰ク「ラー」ハ万有万物ヲ造レリ凡ソ生命ヲ有スル者ハ皆「ラー」ノ造ル所ナリト曰ク彼ハ造ラレタルアラユル物ヲ造リシ者ナリ而シテ彼レハ造ラレタルモノニアラズト曰ク「ラー」ノ心靈生命ヲ爾ノ心靈ニ與フトバリスノ「ルーヴル」館ニモ埃及ノ石碑アリ彼ハ無究ヨリ無究ニ存スルモノニシテ曾テ在ザルノ時ナシノ語アリ或ハ「ラー」ヲ稱シテ無究ノ

主永遠ノ君ト云フ又「ラー」ノ自言ヲ記スルアリ曰ク予ハ時世ノ主ニシテ曾テ究極アル「ラー」ナク予ハ無究ナル本體ニシテ永遠ニ存スルモノナリト或ハ「ラー」ハ眞ニ大秘ノ秘大玄ノ玄「ラー」ノ玄秘ハ知ル可カラズト記ス其他埃及人ハ「ラー」ニ普遍ノ性全能ノ性アル「ラー」ヲ信ヨマリ。支那ニ於テモ亦等シク上古人民ガ獨一至上ノ神所謂上帝ヲ崇拜シタル証跡少ラズ今日現ニ支那首府ノ一隅ニ於テ往古上帝ニ奉事セシ祭壇ノ尙ホ存スルモノアリ博士レツグ管ツテ其處ニ至リ深ク心ニ眞神崇拜ノ遺趾ナルヲ感テ帽ヲ脱シ敬ンデ之ニ近ケリト云フ日本ノ神道ニ於テモ亦眞神崇拜ノ遺意ヲ其中ニ發見スルニ難ラザルナリアシリヤ國ノ古城趾ヨリ掘出シ得タル碑石ノ刻文ヲ讀マバ吾人ハ亦等ク其國人ガ獨一眞神ヲ崇拜シタルヲ見ルナリ又亞弗利加内地ノ野蠻